海洋真時代 vol 3

2015年 秋季号 TRUE OCEAN ERA 300円

運命の年2015年！

真航路　海洋政策を探求した18年

食糧問題解決 第2回
食糧問題の全容

海洋政策の研究　提言二　先進的海洋大学の創設

緊急提言　海洋観光立国を実現し東京オリンピックに備えよう

時事解説　「環太平洋時代の到来！ ― 戦後70年の真の意味」

海と人間　海があるから命がある

2015年10月3日発行　年4回発行　3号

相馬海岸より太平洋を望む

あの日から既に四年。福島の海岸から紺碧の太平洋を望みたかった。

大洲海岸は、福島県相馬市松川浦の潟湖を内陸側に包み、太平洋側に延びた天然の砂洲。どこまでも続く白い砂、青い松、無限無窮の紺碧の太平洋から打ち寄せる荒波のコラボが、ダイナミックで美しい景観を作り出し、日本の渚百選にも選ばれている。その大洲海岸から太平洋を望もうと、期待に心を弾ませて友人と車を走らせていた。

天気を確認して出かけたつもりだったが、予感は的中。空はどんよりとした重い雲に覆われ、今にも泣き出しそうだった。

潟湖沿いに辿り着いた大洲海岸への入り口は、大震災から四年経った今も、通行止めになっていた。辺りに未だに残る震災直後の風景。警備員が申し訳なさそうに、これ以上入れないことを伝えに来る。見たくても見ることができない紺碧の海。行きたくても行くことができない。相馬市松川浦の一角で、もどかしさと悔しさ、虚しさに身を焦がすこととなった。大洲海岸ドライブコースへの入口、モダンで真っ白な陸橋も残念そうに丘の影から姿を見せていた。

空は依然として重苦しかった。この空は、福島の人々がこれまでの四年間味わい続けてきた、晴れることのない、言葉に表すことのできない苦しみと悲しみを代弁していた。

親戚のおじさんを彷彿とさせる警備員は、親切な言葉で太平洋が見える別な場所を丁寧に教えてくれた。その言葉通りに、初めての道を辿って車を南に走らせ、相馬市蒲庭にある高台に辿りついた。

遂に太平洋を望むことができた！
しかし、何故か寂しく暗い海と海岸線である。

一望すると、防潮堤だけは海岸線に沿ってしっかりと着実に建設されている。人工的な海岸線がどこまでも続き、コンクリートの黄白色が、森の緑と海の青さが溶け込む中で、ひとり違和感を顕にしていた。後の世代がこれをどのように評価するだろうか。生活の現場から海が見えなくなっている。陸と海が隔たり、天然の理（ことわり）が失われている！

その日、やはり太陽は顔を出さなかった。海も暗く空も重かった。しかし、水平線のはるか彼方に明るさを取り戻した空が見える。その空がだんだんと大きくなっている。曇り空は確実に晴れていくに違いない。それが確認できただけでもありがたかった。

福島県相馬海岸から望む太平洋は、素朴で優しく忍耐強く、無言で人の犠牲になれる福島の人々の心を表していた。世界は福島を注目している。日本の復興の姿をみようと、２０２０年には世界から心ある人々が福島に押し寄せて来るに違いない。

大自然を破壊せず、英知と最先端技術をもって、「海との共生による真の復興」を成し遂げることができれば、福島は世界の希望の光となるに違いない。

「東北復興を世界復興のたいまつにしよう」という言葉が胸の奥底から決意となって沸き上がってくる。どこまでも晴れあがった空と眩しい陽光のなか、大洲海岸から輝く太平洋を望める日がそう遠くないことを祈りつつ…。

（福島県相馬市蒲庭近く、海岸線に延びた防潮堤の上から太平洋を望みながら）

海洋精神

～ 海を愛する人 ～

自然の力は偉大です。ゆえに、海を愛する人は驕慢になることができません。海にはそのような偉大さがあります。海の門を開いてのぞいてみれば、そこには無尽蔵の魚がいます。黄金色から金色、青色と、ない色がないほど多くの魚族が暮らしています。陸地と海の中を比較してみれば、どちらがより美しいでしょうか。陸地も美しいでしょう。しかし、陸地には、花と蝶と、それから美しい鳥もいるでしょう。しかし、それらのものは単調です。花は動きません。海にいる豪華絢爛な色をもった美しいすべての生き物は、踊りながら活動しているのです。ですから、どちらがより美しいですか。陸地が美しいですか。海が美しいですか。海が美しいのです。

重要なことは、海に対する時には頑固であってはならず、柔軟性がなければならないことです。そうでなければ、海で生き残ることはできません。海に行く人間は柔軟でなければならず、あらゆる状況に対処できる者とならなければなりません。例えば陸地では、人々は日中働いて夜は休みます。海ではそういうことはありません。海では昼も夜も働かなければなりません。なぜならば、潮は常に動いており、魚もまたそれに従って動くからです。ある潮と魚が夜やって来る時には、夜働かなければなりません。

さらにたとえ完全なスケジュールを作っていたとしても、台風が来ればそういうスケジュールは全くあきらめなければなりません。自分自身の意志だけで動くことはできません。環境に適応し、どのような状況にも対処できるように調和しなければなりません。陸地においては、ほとんどすべてのことは、計画し、目標を立てることができますが、海ではそうはいきません。陸上にいると、人間は自然と対決し自然を支配しようとします。海はそうすることを簡単に許しません。それゆえ人間は、環境と共に生きること、いかにして柔軟性のある者として生きるかということを学ばなければなりません。海に出かけて行く人間は、自然と対決するかわりに調和するように試みなければなりません。

社説　真航路
海洋政策を探求した 18 年　6

特集
食糧問題解決　第 2 回
食糧問題の全容　10

緊急提言
海洋観光立国を実現し東京オリンピックに備えよう　13

海洋政策の研究
提言二　先進的海洋大学の創設　16

世界はひとつ
日本パラグアイ圓母船友好協会が遂に創立！　18

Discovery
古代伝統航海術で太平洋を越えた縄文人　25

世界の釣り 日本の釣り
関西・パンタナール・ニューヨーク　26

時事解説
環太平洋時代の到来! ― 戦後70年の真の意味　30

海と人間
第2篇　海があるから命がある　40

ここに人あり
猪狩達夫　海と私　44

歴史の光
海洋国日本の礎を築いた海人安曇族　50

みんなの広場
写真と絵画（海に降る雪•防潮堤•巨文島の朝日•コディアックでの挑戦•魚の視点•海の底）　60

社説
EDITORIAL ARTICLE

真航路
海洋政策を探求した18年

佐藤 健雄

なぜ、あなたは米国で18年もの間、海洋事業に投入したかと聞かれると、神様に導かれた不思議な運命によってと答えるしかありません。

日本の将来を決定する重要な課題

私は、日本で、教育問題や経済問題、地域活性化問題、思想問題、外交問題、安全保障問題など様々な課題に取り組んでいるうちに、自然に政治の世界に入っていきました。しかし、政策や綱領をつくり、日本の様々な問題を解決するためには根源的に何かが足りないと考えていました。日本は四方を海に囲まれ水産資源も多く、海を考えずには存立しない国です。従って海洋政策をどの様に策定するかが、日本の将来を決定する重要な課題であると考えるに至りました。

しかし、どのような海洋政策をどのように策定するかが不明確でした。また、一方、日本で政治活動を行う場合、英語が出来なければ50％以上は本当の意味での活動ができないという限界を感じていました。そこで、私は米国に渡ってこれらの課題にとり組むことが必要だと考えました。米国はアラスカはじめ、世界で最も豊かな海、漁場を持っている国です。遂に1986年10月15日、米国に渡りました。そこで私はすぐに海に出なければならないと考えました。

海に出てキャプテンの経験を積む

縁あって、フロリダ半島の根元にあるジャクソンビルという町で、ボトムロングライン（海の底に仕掛ける延縄漁船）に乗ることにしました。一度出航したら1週間から10日間、陸には戻ってきません。ニューヨーク沖からフロリダ沖の海域、大西洋の大海原を行ったり来たりしながら、メキシコ湾暖流に乗って、レッドスナッパー（真鯛）やピンクスナッパーなど各種の鯛、グルッパー（ハタ）、トウリガーフィッシュ（カワハギ）、甘鯛（アマダイ）などを大量に釣りました。延縄を仕掛けている間は、海が深いので強力な電動リールで鯛を釣り上げます。カワハギはすぐ皮を剥ぎ大切に保管します。幸いなことに私は今日まで海に出て一度も船酔いしたことがありません。

私が乗った船の名はリンダ・スー。この船は一度も経済的にマイナスになったことはありませんでした。なぜならキャプテンのバーレン・オリバーはしっかり者で、釣った魚は大切に扱い、自分たちで食べたり無駄にしたりせず、一匹でも多く仲買人に売ったからです。釣り上げた魚を間違って逃がしなどしたら、海に飛びこんで追いかける程熱心でした。船に積み込む食糧も高価な物は買いません。彼は超節約型人間でした。ボストン沖の釣りでは、巨大マグロを20数本ぐらいあげたこともあり、ギャングに襲われる場合に備え、銃も準備していました。

彼は本当に努力家でした。私は、この船に2年8ヵ月の間、少なくとも毎月1回は、彼らの釣り航海には必ず参加し、私自身、次第にキャプテンの経験を積んでいきました。陸に戻ってきたら、日曜日はレストランや魚屋で働く従業員全員で釣りに出かけました。平日、昼はレストランや魚屋、釣り具店で働きながら、夜はセントジョーズ川で夜釣りをしました。船の大きさは28フィート。夜釣りといっても、網やトラップ（籠）を仕掛けて、鱒（ます）や鰡（ボラ）、蟹を獲るのです。夕方に仕掛けて、早朝に漁獲します。夜は船の上で寝るのが常です。なぜなら仕掛けた後にいったん宿舎に戻ると、掛かった魚はすぐに盗まれてなくなってしまうからです。船に泊まりながら、銃を持って魚を守るのが常でした。毎年、7月になるとボストンに出かけ、3ヵ月間ジャンボマグロ釣りに挑戦しました。そんな中、船の繰縦・エンジンの修理・維持・管理・釣り具や漁具の取り扱い方・作り方・魚の取り扱い方なども覚えました。

人類一家族世界の理想の雛型

海に出かける傍ら、私は、この北フロリダ・ジャクソンビル市近郊の町に日本レストランをつくりました。世界最大の「ディズニーワールド」のある町、オーランドにも日本レストランをつくりました。ディズニーワールドはアメリカ人の夢です。理想を描き技術の粋を集めて「理想の社会のモデル」を創っています。海から陸・宇宙に至るまで、将来の夢を展示しています。ディズニーワールドでは、天地創造から始まる人類の歴史を紹介し、世界中の文化文明を集めた「ワールドショーケース」を創り、全人類が一つの家族として住む人類一家族世界の理想の雛型まで創っていました。私はディズニーワールドの入場パスを手に入れ、１２０回以上、知人友人を隈なく案内しました。ケネディ宇宙センター（発射基地）も近くにあったので、頻繁に見学に行きました。

ジャクソンビルには山がなく平野が広がり、あの有名なスワニー川が流れています。スワニー川の水源は無数の湧水で、その水が集まって大河になっているのです。川は高い山から海に向かって流れるという日本の川の概念は米国ではあてはまりません。近くのジョージア州ブルンズウィックでは、南米で製造された膨大な数の日本車が陸揚げされ、米国南部の市場に出されています。私がこのジャクソンビルで2年8ヵ月過ごしている間、5つのレストラン、2つの魚卸売り店、釣り具店、漁船などを経営しました。自ずと現地の弁護士や各種の行政機関、土地・建物のオーナーと交渉せざるを得ず、ビジネス英語も随分話せるようになりました。

１９８９年、ニューヨークに移動し、更に本格的な漁船に乗ることにしました。私自身、52フィートの底曳き網船、マグロの延縄船、80フィート多目的船などに乗り組み、次第にキャプテンになり、このサイズの船を操縦するようになりました。次第に２００ｋｍから３００ｋｍ沖でマグロや底物釣りもするようになり、夏のボストンでのジャンボマグロ釣りも7月から9月にかけて3か月間、１９９３年まで毎年続けました。3月15日からハドソン川で解禁になるストライプトバス釣りは、川釣り、湾口釣りを含め、毎年11月まで行いました。釣り場と時によって、餌もブラッドウォーム・ニシン・小さなウナギ（イール）などに変えます。ニューヨーク州ハーフムンベイ近くのハドソン川には網を仕掛け、シャド（大型ニシン）やチョウザメも釣りました。

ヒラメや海鱒（ます）・ブラックフィッシュ・ブルーフィッシュ・シーバス（黒鯛）・バターフィッシュ（エボ鯛）・芭蕉カジキ・スウォードフィッシュ（メカジキ）・メバチ・キハダ・ビンナガなどのマグロ・シャークなどを米国やハワイで釣り、ブラックマーリン・ブルーマーリンなどをオーストラリアで挑戦し、随分釣りの領域を広げました。南米では、ドラド・パクー・ピンタード・ボガ・ピーコックバス・コルビーナネグラ（ドラム）・クロッカーなども釣りました。

なかでもアラスカ、コディアック島での釣りは思い出深いものがあります。コディアックは清涼幽玄

な大自然に恵まれたところで、夏でも雪を頂いた山なみが海から見えます。釣りをしていると鯨が現れて巨大な尾びれを見せたり、巨体を旋回して踊りを披露します。ラッコやアザラシにもしばしば出会いました。この世とは思えないほど美しいところがコディアック島でした。そこでは、キングサーモン・シルバーサーモン・ピンクサーモン・ハリバットなどを釣り、トーナメントも頻繁に行いました。

急ピッチで進んだハドソン川の浄化作戦

私は、1990年1月1日から厳寒のニューヨーク湾で、毎年40日間、1日7時間以上の釣りを4年間行いました。当時のニューヨーク湾はヘドロで完全に汚染され、魚は殆どいません。白いはずのヒラメの腹は真っ黒で、捌く（さばく）と工業用の油がギラギラとにじみ出ました。その頃、冬場のニューヨーク湾では、刺し網や貝堀りも含めて釣りをする人は殆どいませんでした。しかし、90年代中頃になるとハドソン川と湾の浄化作戦が急ピッチで行われ、沖には古い戦車や電車が投入されました。そのために魚がハドソン川や湾に戻り、90年代後半からは冬場の一番寒い時期の1月～2月でも、20万人から30万人の釣り人達が、乗り合い船やチャーターボートで釣りに出かけるようになりました。以降、米国の釣り人口は年々増え続けています。

各地での釣り経験を生かしながら、一方で私は、アラバマのエビ獲り漁船団やアラスカの漁船団の運営にも従事しつつ、鉄船や治岸警備隊の船、海軍の船の製造にも携わりました。また全米規模で漁船やスポーツボートの製造と販売を行いました。その他、魚の養殖事業と増殖事業、加えて釣り具店経営・釣り具製造・魚販売・活魚レストラン経営・海洋訓練教育学校の創設と運営など、海洋関連の各種事業に携わりました。

趣味労働を通して無限の生産性を上げる

天地がひっくり返るような荒波も数限りなく経験しました。そのような中で「漁業・水産業とは何か」「海とは何か」「人間にとって海とは、魚とは何か」などについて少しずつ理解できるようになり、それとともに海洋思想・海洋精神が構築されてきました。結論的に「神様はなぜ、海をつくられたのか、海を通して人類の食糧問題をどのように解決しようとされているのか、養殖とは何か」など、全ての事柄についてその本質面から結論を得られるようになりました。その結果、「神様は本来、人間に趣味を与えられたこと、人は無限の喜びを感じる趣味労働を通して無限の生産性を上げるように創造されたこと、そしてその趣味労働の中心が釣りであること、人間が生きていく上で必要な食糧の80％を抱える海を、神様の創造の本意に従って完全主管できる様にならなければならないこと、それによって初めて本来の人間になり得ること」「人間の体の3分の2が水（海水）で構成されているということは、人生の3分の2の時間を海で生活すべきこと、海水と同じであるお母さんのお腹の中で人は生命を受け、生まれた後は同じように海で育ち生活して初めて、人は人らしく、本然の人間として完成するように創られていること」などが理解できるようになりました。

このようにして米国に渡って初めて、日本で私が抱えていた課題に対する解答を、米国生活18年をかけてようやく掴み取ることが出来るようになりました。米国自身、これらの解答にもっと早くもっと本質的に気づいていたなら、今の様に崩れ去っていく事はなかったことでしょう。「米国が祝福された原点は海にあったこと、即ち、英国のエリザベス一世が海洋政策を強化することによって産業革命が起こり、それを基盤にして初めて、第二のローマである米国が築かれたということ」を、もっと謙虚に悟るべきだったと思います。信仰の自由、すなわち、キリスト教の内的価値だけに固執するのではなく、内的な価値を「具現化し実体化する海」の価値を等しく悟るべきだったと思います。

神を完全否定する共産主義

私は、日本で特に共産主義の矛盾を体験してきました。共産主義思想は神や死後の世界を否定し「支配と被支配間の批判と対立闘争」という観点だけに局限して人間社会を理解する思想です。共産主義では憎しみと怨みが力の源泉であり、不信、怨みをはらすことが共通の動機であり、それによって自己中心性から脱却して共産主義社会をつくろうとします。共産主義が標榜する社会は、生産性の極度に高

い社会であり欲望以上に分配される社会ですが、実のところ、共産主義は、真の自由や人権・人間の本然の価値・本然の欲望・能力などに関する内的思想が極端に欠除した理論であり、真理的根拠のない空虚な理論です。そのため、結果として、めざす理想とは全く逆の世界、共産党一党独裁による極端な腐敗世界を招いてしまいました。

諸問題に対する明確な解答は海

これに対し、崩壊していく共産主義社会の諸問題に対して明確な解答を出すことのできる思想、その思想に基づいた理想の社会をつくることのできる決定的な根拠が海であることを理解できるようになりました。海は、神様が創造された被造世界の中で、最も複雑で緻密、最も科学性、創造性が投入されたところだということが明確になりました。今日まで、海からでなく、陸上だけから物事を捉えてきた陸上偏重文明が、共産主義思想の土壌となってしまったと考えられます。

私たちは今、共産主義思想を克服するための決定的解決策である「理想の社会のモデル」を南米パラグアイと、宮城県石巻で実現していこうとしています。それを一日も早く実現し、そのモデルを日本全国、そして全世界に拡げ実証する決意をしています。即ち、マルクスやエンゲルス・レーニン・スターリン・毛沢東・金日成など共産主義者たちが追求しながらも到達できなかった夢をも包摂した理想のモデル社会をこの地球上に実現しようとしています。

地球上で飢えて死ぬ人が一人もいない世界をつくる

神様が創造された生命の原点であり、人間の成長と完成、再生など全ての原点である海。海から出発した海洋文化文明を通してこそはじめて、これまで人類が歴史を通して追求してきた理想世界―神様の創造目的に則した持続発展可能な環境対応型の社会、生産性が極度に高く欲望以上に分配される社会は、海を基盤としてこそはじめて実現可能なのです。今回、国連は「２０３０年までに、格差が全くない世界、地球上で飢えて死ぬ人が一人もいない人類一家族社会を創る」という目標を発表しました。まさにそのような世界は、海を通して実現できるのです。

戦後、70年を迎え、共産民主の闘いも終焉に向かっています。それらが完全な崩壊期を越えた時、人類は環太平洋時代、海洋の世紀を迎えます。その時、海洋国家日本が果たさなければならない「海に対する真の役割」があり、それを果たすための時間には期限があります。その期限はまさに、日本が世界から注目を集めるオリンピックの年２０２０年から２０２５年頃までです。その時までに日本が役割を果たさなければなりません。国連は、１９９６年の第２回食糧サミットの時も２０１１年にも「このまま人類の食糧問題が解決されなければ、２０２０年から２０２５年頃になると、人類は人類崩落・食糧戦争時代に突入するだろう」と警告しています。ノアの時代、神様は洪水審判を起こし、ノアの家庭だけ残して全人類を滅ぼしたといいます。この時代は人口が90億まで達し暴虐が地に満ち、人が人を食べたといわれる時代です。２０２０年から２０２５年頃同様に、人類の人口は90億人に差しかかります。

まず、世界のことを考える人々が主流になる国

日本は日本だけで生きていくことのできる国だと錯覚してはなりません。日本は食糧自給率39％の国です。どんなに多くのお金を払うことができたとしても、世界は日本だけのために食糧を確保してくれる訳ではありません。世界全体が食糧問題で絶望している時代に、世界はどうでもいい、日本だけ豊かに食糧を食べ、生きてさえいければいいというような妄想を抱く人々が日本を指導することはできません。もはや人類は運命共同体の時代に入っています。共生共栄共義主義の時代です。全人類を包摂する真の神主義、父母主義の時代です。敗戦後、戦勝国家のような振る舞いをしながら、日本の事だけを考える日本人であってはなりません。私たちは目を覚まさなければなりません。日本は後回しでもいい、まず世界の平和を考えようとする人々が主流になる国を創らなければなりません。

佐藤 健雄（さとうたてお）
福島県出身。早稲田大学土木工学科。趣味はスポーツフィッシング、狩猟、マラソン。趣味が高じて不沈絶対安全安心ボートの製造に挑戦。Hobby World Marine Group CEOとして日本、米国、南米を拠点に精力的に活動。グローバル企業をめざす不変不屈の永遠のファイター。海の思想家。海のエキスパート。

特集
FEATURE ARTICLES

シリーズ
食糧問題解決　第2回
食糧問題の全容

人類の食糧問題と言えば、現在と未来の問題にとらわれ易いのですが、食糧問題を歴史上の問題として捉えなければ、その本質が見えてきません。

1 人類歴史上、常に存在した食糧問題

人類の歴史は難民の歴史といっても過言ではありません。人類の歴史には常に食糧問題がつきまとっていました。どの時代にも、人類全体が食糧を豊かに手に入れて生活している歴史的記述はありません。増加する人口に対して入手できる食糧が不足して争っている人類歴史ばかりです。農耕技術、漁業技術、道具や科学の発達によって生産量が需要を超えたという事実もありません。生産された食糧の分配過程で、多く取る者と少なく取る者が分かれました。しかし、分配の量が原因で支配階級、被支配階級が生じたのではなく、また、階級が分かれることによって食糧問題が生じたのではありません。人類の食糧問題は、食糧生産量そのものが需要に対して不充分なために起こっているのです。

マルクスは、原始共同体は歴史上に実存したという根拠として、グアラニー族の伝道村（16～18世紀イエズス会がパラグアイに築いた理想郷）を挙げていますが、それは当時の世界が、如何に食糧問題をかかえた世界であるかを語っています。現在、同じグアラニー族で構成されているパラグアイですが、食糧生産量が少ないために苦しんでいる事を見ても明らかでしょう。パラグアイの自然環境が食糧生産に不向きだからではありません。むしろ、食糧生産には最適なところです。地球の焦点、縮図と言っても過言ではないほど豊かな所です。要は「人類の食糧問題の原因は人間そのものに存在」しています。人間が本来もっている生産性が欠如しているといった方が自然でしょう。

もちろん食糧問題は、天運や歴史的事情などが背後に絡んでいるため、単に人間の能力だけによって解決するものでもありません。聖書の中には、神様が堕落した人類始祖アダムとエバをエデンの園から追い出された時「今後、あなたがたは額に汗して食糧を得るようになるだろう」と語られたとあります。食糧問題の原因を追求している研究所は世界中にたくさんありますが、その中で最も進んだ研究所の一つは「食糧問題の原因は人類始祖の堕落にある」といっているのです。

人類の食糧問題の本質は、人間自身の生産性や生産力の中にあるのであって、配分や消費にその主要な原因を置くのは的外れです。従って、格差社会の改革や流通機構の改革にのみ問題解決の方策を求めるのは間違いです。もちろん、勝者が富を独占し、目の前で人々が飢えて死んでいくのを見ながら贅沢な生活をすることもあってはならないことです。犯罪性といえるほど、人間本来がもつ徳性が欠如している姿

です。国連食糧サミット直後に行われる指導者会議の中で、彼らは秘密裏に「全ての食糧問題の根源は人間自身の中にある」と結論づけています。

2 食糧問題は科学の力では解決できない

食糧問題は科学の力で解決できると言う人がたくさんいます。しかし、科学の発達によって人類の食糧問題が解決された事例は歴史上、一度もありません。科学の発達によって食糧は増産され食糧問題は解決されるのではないかという期待感は、根拠のない幻想に過ぎません。逆に科学の発達によって公害などの諸問題を引き起こし、それによって自然環境を破壊し、ますます食糧増産が見込めなくなってしまっているのが現状です。1976年国連は、予想をはるかに超えて増え続ける人口増加に対処するため、第一回食糧サミットを開き「今や人類は科学の力で食糧を充分に生産できる時代になった。今後20年間で全ての食糧問題は解決する」と宣言しました。しかし、20年後の1996年、同じイタリア・ローマで開かれた第2回食糧サミットで、食糧問題は解決するどころか、はるかに悪化している事実が判明したのです。

科学の発達が環境を破壊し、穀物増産が見込めなくなってしまったからです。第2回食糧サミットでは、食糧問題解決の見通しはつかなくなりました。それにも拘わらず「20年後に開かれる次の2016国連食糧サミットまでに、食糧問題を半分解決しよう」と宣言しました。そして2011年になると国連は「人類の人口は70億人になったが、その内10億人は飢餓人口である。このままいけば2020年には飢餓人口が倍増し、人類の食糧争奪戦は避けられない」と発表しました。科学の発達は、環境破壊や殺戮戦を助長し、相手を犠牲にする利益追求を助長したとしても、人類の持続的発展や平和の促進にはあまり寄与しません。科学の発達の方向性が間違っているのです。

科学性、創造性、主管性は人間に与えられている特権です。動物には人間のような創造性、科学性はありません。蜘蛛や鳥の巣作りが精一杯です。鳥はどの方向から雨が降ってくるかを感知し、巣をつくっている木や藁（わら）の方向を変えるぐらいです。ねずみは地震を察知し事前に移動する程度です。人間は道具を使い、技術を開発し、石油から紙を製造したり、ロケットを宇宙空間に飛ばしたり、動物とは比較にならない程の科学性や創造性、主管性を持っています。

現在、この人間の科学性や創造性、主管性が人間の食糧問題を克服するためには発揮されていません。人類はこれまで、人間に与えられたこれらの特権を、主に戦争に勝つために、相手を打倒するために、他より豊かになるために発揮してきました。自分の利益と生存のために、他を犠牲にする方向でこの特権を使ってきたのです。対立闘争を動機とし、敵を打倒するために取り組む技術開発には、人間の科学性や創造性は充分な力を発揮しません。この点が正確に理解されなければ問題は解決しないでしょう。

3 人間の食糧を産み出すところ

人間は元来、食糧採取や狩り、農耕・牧畜などを通して食糧を得てきました。その後、漁労等で魚介類を獲って食べるようになりましたが、主には農耕・牧畜を中心に主食を形成してきました。しかし、農耕・牧畜を通して陸上で生産される食糧だけでは、人間に充分な食糧も必要な栄養も取得できないことを人類は次第に悟りはじめました。1989年、イギリスの食糧学

者マイケル・クローフォード博士がDHA（ドコサヘキサエン酸）を発見して「魚介類の蛋白質にこそ人間を健康で長生きさせる栄養素が含まれている」と発表しました。それにより国連のWHO（世界保健機関）は、魚介類にこそ人間に必要な栄養素が含まれていると発表するようになりました。魚介類が人間の主食であるべき根拠が科学的に証明されたからです。

魚は平均30万個の卵を産みます。マグロは120万個です。地球上で陸地の面積より2倍も広い海に生息できる魚の量は、単純に海を浄化して本然の海に戻し、増殖産業等を駆使すれば2倍の食糧が生息することになるでしょう。しかし、現在は孵化率0・8％といわれています。空気と土壌の汚染、工業廃水や生活用水の垂れ流し、薬剤散布、ゴミの投棄などがその原因です。海は汚染され、珊瑚礁は死滅しつつあります。魚が孵化し稚魚が育つ「ゆりかご」であるべき海岸線の破壊もどんどん進んでいます。乱獲、漁礁破壊も横行しています。魚の水揚げも年々減少し、漁労に就く若者も極端に減少しています。海の回復と漁法の改革は全人類的な、最緊急課題です。

（編集部）

次号からの「食糧問題解決シリーズ」内容紹介

目次

1、食糧問題の全容

(1) 人類歴史上常に存在した食糧問題
(2) 食糧問題は科学の力では解決できない
(3) 人間の食糧を産みだすところ

2、現在の食糧問題

(1) 一日に6万人、一年間に2000万人が餓死している
(2) 現在10億人以上が飢餓状態
(3) 2020年には飢餓人口が20億人
(4) 国連の予測によると2025年から食糧戦争に突入
(5) 食べられずに死んでいく人々の悲惨さ
(6) 日本は60%の食糧を輸入に依存
(7) 脆弱な日本の食糧安保

3、食糧問題の根源的原因

(1) 世界的研究機関が提示する究極的原因
(2) 環境問題も食糧問題も原因は人間自身にある

4、食糧問題の解決策

(1) 21世紀は環太平洋時代、真の海洋時代到来の時
(2) 大量捕獲漁労時代から海洋観光趣味産業時代へ
(3) 陸上文化文明時代から海洋文化文明時代へ
(4) 海洋先端技術最先進国家を目指して
(5)「一匹の魚をくれた人」と「魚を捕る方法を教えてくれた人」への恩の違いについて語る諺の真の意味

海洋真時代 SERIES -シリーズ-

緊急提言

海洋観光立国を実現し東京オリンピックに備えよう

最近、国土交通省観光課や地方創生省の指示で、海洋観光の促進による地方創生が叫ばれるようになりましたが、島嶼国家日本にとってこれは非常に悦ばしいことです。5～6年前から起きている現象ですが、インド洋にあるダイバーズパラダイス・モルジブに、モルジブにとっては地球の裏側の米国から、年間6万人の釣り観光客が来るようになりました。注目すべきことは、米国から来るお客様は、全員釣り観光客だということです。モルジブの一年間あたりの観光客は100万人ですが、その内94万人の目的はダイビングと結婚式です。もし、モルジブに素晴らしい西欧式マリーナやボート、釣り観光サービスシステムがあれば、モルジブに来る観光客の数が更に増えると言われています。

◀インド洋 モルジブの島々

米国フロリダ州北マイアミに近いところにフォートラダデール市があります。この市はアメリカのベニスと呼ばれるほど水と調和した都市です。この市に国際ゲームフィッシュ協会（IGFA）世界本部があります。このビルには、世界の釣りスポットを紹介する世界地図をかたどった電光掲示板があるのですが、その掲示板には日本列島周辺の釣りスポットは皆無だと表示されています。釣りスポット掲示の光球が全くありません。IGFA世界本部を訪れる世界の釣り愛好家はこれを見て、日本には釣りスポットが全く存在していないと認識し、日本は完全な「釣り不毛国家」だと受け取ってしまいます。釣り愛好家が日本に来る道が開かれていないのです。

▶フォートラダデール市内

▶IGFA世界本部

しかしながら実際は、日本周辺の海は、釣りスポットとしてだけでなく、観光という点からみても、他のどの国よりも遥かに優れています。日本の三大景勝地である松島・天橋立・厳島神社は全て海に関わっています。また、日本でも米国でも釣り人口が年々増加し、今では釣りは趣味の中で一番になっています。事実、東京湾や相模湾の漁船は、現在殆どの漁船が乗り合い船となり、漁船として働くより遥かにたくさんのお金をつくっています。観光客誘致のためのギャンブル場をつくるより、まず釣り観光誘致を促進する方が遥かに健全であり、優れた経済効果をもたらします。

しかし、欧米の釣り観光客を誘致するためには、欧米の先進的な釣りスポーツを学ばなければなりません。それに、日本のおもてなし精神を加えれば万全です。そうすれば日本やアジアにおいても、世界からの釣り観光客を受け入れることのできる許容力は、遥かにもっと増大することでしょう。フランスには、年間1億人の観光客が訪れます。本当の意

▶天橋立

▶松島

◀厳島神社

味での観光客です。日本には観光客が2000万人来るといわれますが、中には中国や韓国からの買物客が多く混ざっています。現在、世界の人々にとって日本は、経済面や技術面だけの魅力しかもっていない国です。寂しい話です。ところが、日本には世界に誇れる7000の島と世界一豊かな海があります。釣り観光に最適の島嶼国家であり、海洋国家です。日本は、東洋の真珠と表現するに相応しいほど海の景勝地に恵まれ、豊かな魚影に恵まれています。日本の海自体が日本の最大の魅力なのです。

「海洋観光創生」で考えなければならないポイントとしては以下の内容があげられます。

1 先ず、漁業協同組合との関係ですが、漁師とスポーツフィッシャーマンが港の中で、それぞれのマリーナや拠点をもち、住み分けて釣りに出ることが大切です。

米国の漁業発祥の地マサチューセッツ州ボストンの北の町グロースターも、1980年代までは漁業中心の町であったため、スポーツボーティングの進出を10年間に亘って町を挙げて反対いたしました。その結果、漁業だけでは経済的に発展することができず、いつの間にか町は疲弊し経済的困窮を極めました。町はIT産業の誘致などに動きましたが、それによって期待したほどの経済は伸びず、漁業を中心とする海洋産業からの収入は減り、ますます町は疲弊していきました。しかしグロスターは、世界三大漁場という豊かな海を目前に抱えた町です。巨大ジャンボマグロ釣りで有名なところです。今では世界最高峰の釣り師たちが世界から集まり、ジャンボマグロ釣りに挑戦しています。現在、グロースターはスポーツフィッシングの町として栄えているのです。

また、ブラジルのリオデジャネイロの近隣の町、アングラドスレイスも、もともとブラジル随一の造船と漁労の町でした。この町の海は多島海で大小の島々が点在し、漁場として恵まれているだけでなく、楽園を思わせる景勝地です。そのため現在では、ブラジル随一のスポーツフィッシングのメッカとして成長し、一大観光地になっています。スポーツボートのためのマリーナが活気を帯び、リオデジャネイロやサンパウロから多くの人々が、自家用飛行機で釣りに来ます。ここでは漁業も共存し、町も以前より近代化され栄えています。スポーツフィッシング業界と漁業者達が同じ資源を大切に共有し発展している町の良い例です。

米国の海岸線では、90年代から2000年代にこのような革命的で画期的な現象が起きました。ここで、特筆すべきことは、それ以前に漁業に従事していた漁師の方々が失業に追いこまれる事例が殆どなかったことです。釣りのスタイルを漁業からスポーツフィッシングに転換するだけです。

2 また、これらの大きな転換を起こすためには、まず、マリーナ建設と理想のボートを配置することが重要です。

米国で開発されている超近代的なマリーナはそれほどスペースを必要としません。ボートストーレッジ（ボート保管庫）やボートホテル（特殊フォークリフト付き保管庫）などが発達しているため極めて経済的です。また、マリーナに配置されるべき理想のボートは、絶対不沈、絶対安全、高速（プレイニングハル）のボートが望まれます。各種の釣りに適合し、経済性があるなど全方位的に優れたボートが必要です。何よりも「人々が安心して安全に気軽に海に出ることができるようにすること」、これが海洋創生の根本です。

▶フォークリフトとボートホテル

▶トラベルリフト

3 そして、本当の意味で町の発展と活性化を考えるならば、先進的な海洋教育訓練学校の建設と青少年に対する海洋教育訓練がまず重要です。幼少時から海洋教育を施し、海のプロ集団を養成することによって、その町の継続的発展が保障されます。彼等が継続的な海洋開発をすることが国の発展につながります。海のプロ集団は国の発展を担う希望の光です。

4 魚レストランと魚の直販施設、釣り観光客のための釣果直送サービスの充実を図ることが重要です。

▶米国全州に拠点を持つ釣り関連のショッピングモール

釣り観光客にとって、釣れた魚を自分の友人家族に直送することができたら、どれ程嬉しいことでしょうか。マリーナには「瞬間冷凍施設」と共に、冷凍した魚を世界のどこにでもお届けできる「発送システム」がなければなりません。また、近海で釣れる美味しい魚料理を楽しむことができ、海を眺望できる「海の展望レストラン」も必要です。また、そこで釣れる魚をおみやげとして買うことができる魚マーケットも必要です。その他、必需施設としては、釣り具店、ボート販売場、修理工場、ホテル等の宿泊施設、大きな駐車場、水族館、銀行、ショッピングモール、宴会場、催物会場などがあげられます。これらの施設を展開するためには、最低5万坪ほどの広さが必要となります。

これらの釣り観光のためのサービス施設について、インターネットを通じて全世界に特徴を添えて魅力的に発信すれば、すぐにでも多くのお客様を得られることでしょう。募集方法は他にいくらでもあります。ボートは徐々に増やします。大小合わせて40隻から100隻はチャーターボートとして各マリーナに必要でしょう。ボート収容能力400隻～1000隻のボートホテルを考えるべきでしょう。

私たちは、日本の全ての人々がボートを持つ時代が来ると確信しています。そして、世界中の人々がこの日本の海を訪れる時代が来ると確信しています。その出発点がまず2020年のオリンピックの時です。それまでには、この程度の準備をしておく必要があります。そうでないとチャンスをものにすることはできません。釣りのスポットにも精通し、ボートの繰縦技術、釣り技術にも精通し、諸外国の言語を話すことができ、世界中の文化にも精通した海のプロ集団やスタッフを準備し、世界を包摂することのできる体制をつくることが必要です。この場所に来たら生きた神様を感じ、世界中の人々が一つの家族の兄弟姉妹だと感じることができる程のおもてなしが必要です。このような場所を、私たちは「海洋趣味産業モデル基地」と名づけます。

そして、世界の人々が日本にきて、一番心配するのは地震津波です。1000年先をも見越した、津波対応型のマリーナ、町づくりが必要です。それと同時に、各拠点ごとに「災害支援艦兼巨大観光船」を配置します。この船は平常時は海洋観光船、非常時には災害支援艦の役割を果たします。そして資源保護の観点から、マリーナには養殖・増殖施設を設置し、町は環境対応型・完全なエコタウンとして、従来にない理想的地球村型エココンドミニアムを建設します。

このような5万坪の広さの場所に建設される海洋創生の拠点を、全国津々浦々の海岸線に沿った市町村に建設し、それによって日本全体を真の海洋国家に再生することができれば、真の地方創生が完成することでしょう。これが環太平洋時代の到来における本来なすべき日本のミッションです。まさしく「真の地方創生は海洋創生」です。

（編集部）

▶海洋趣味産業モデル基地

提言 海洋政策13の柱

本誌創刊号で「海洋政策13の柱」を提言いたしました。本号では、提言第二「先進的海洋大学の創設」に照準をあて、もっと詳細に考察してみましょう。

提言二 先進的海洋大学の創設

真の海洋文化文明創出のための研究機関

21世紀は海洋の世紀・水の世紀といわれ、「環太平洋時代」が既に到着しています。環太平洋時代の中心は北東アジアであり、日本はその環太平洋時代をアジアに受け入れる玄関口といえます。日本が環太平洋時代を創出するにあたって、その歴史的な先駆者の役割を果たすためには、真の海洋文化文明の創出、海洋趣味生活時代の創出のための研究機関としての「先進的海洋総合大学」を創設する使命があります。

世界的海洋未来モデル型復興再生策構築のドリル的役割

この先進的海洋総合大学は、東日本大震災の復興を単なる復旧に終らせず、海からの視点に立ち、1000年後を見越した真の意味での復興政策を構築し、被災地を新たな次元で復興再生しなければなりません。この先進的海洋総合大学は、日本各地、世界各地で継続的に起きる災害に対して、これまでとられてきた復興策を「世界的海洋未来モデル型復興再生策」へと高めるためのドリル的役割を担わなければなりません。

海洋政策の思想的・学術的・科学的バックボーンの構築と実践的人材の育成

実際に海洋省を創設し海洋政策を実行に移していくためには、この先進的海洋総合大学において、海洋政策の思想的、学術的、科学的バックボーンを構築していく必要があります。そのために技術面だけでなく思想的、学術的、背景を持った実践的人材の育成が肝要であることは言うまでもありません。

海洋教育で一番大事なことは、学問としての教育だけでなく、「実践を通じた海洋訓練」も伴わなければなりません。幼少時代は幼少時

代、小学校時代は小学校時代に相応しい実践訓練が必要です。幼少時から小学、中学、高校、大学まで、各段階の海洋思想や海洋哲学に関する教育や、海洋での実践訓練のカリキュラムの策定が必要です。

海の持つ特性、科学性、創造性、精神性を理解

なかでも特に重要なことは、海洋に関する全ての学問は、「海で生活し、海で考え、海を創造された創造主の意に則した学問」を構築しなければなりません。海が環境に対して与える影響力の大きさを理解し、海の持つ特性、その科学性、創造性、精神性を理解できるようにしなければなりません。膨大な海の海底資源、それを発掘するための海洋工学、海洋技術の開発が必要です。どれを取ってみましても、人間にとって海との係わりの重要性は、陸上と比べられるものではありません。今日まで、人類は、歴史的にこの分野を全く等閑視してきました。

海洋大学の教室は陸上にあらず海そのもの

海洋学校・海洋大学の教室は陸上にあるのではなく「海そのもの」でなければなりません。人間の生命も海水（お母さんの羊水）から出発し、全ての被造世界の生命は海から出発しました。全ての学問、哲学、思想、科学技術は、海から再出発すべきです。決して、今までの陸上主体の学問の延長線上としての海洋学や海洋思想であってはなりません。

新たな海洋学を日本から出発させよう

同時に環太平洋時代、すなわち、日本から出発する「新たな海洋学」は、地中海や大西洋海洋文明の延長線に立つ海洋学に立ってはなりません。根源的に海から出発する、全く新しい「環太平洋文明としての海洋学」を日本は構築すべきです。まして況（いわん）や、その新たな海洋学は、中国の海洋侵略政策に対抗するためだけの次元で構築されるものであってはなりません。そのような海洋学であっては、日本を歴史的な海洋国家に育て、世界の海洋リーダー国家にすることは出来ません。あくまでも世界平和に貢献するための海洋学です。（編集部）

提言【海洋政策13の柱】

1. 海洋省の創設（海洋管轄管理、政策立案、法制備等の一元化）
2. 先進的海洋総合大学の創設
3. 海洋の廃藩置県および新たな海洋開国
4. 海洋の本然化
5. 200海里（370km）海域を一日生活圏にする海洋趣味生活の創造
6. 日本国土建設を、海洋を基盤にした海洋型国土建設政策に大転換
7. 海洋趣味産業型津波防災自由高速道路を、海岸線から約3km内側に建設
8. 海岸線に海と人間との共生地帯を創設
9. 日本全国の青少年の海洋訓練
10. 海洋観光趣味産業モデル都市の建設
11. 海上、海中、海底の資源開発
12. 海洋食糧資源増産のための増殖産業の本格振興
13. 近隣国海洋都市との海洋都市同盟の構築

日本パラグアイ圓母船友好協会が遂に創立！

全国から熱意溢れる代表者５５０名が集う

２０１５年６月27日、東京都千代田区平河町都市センターホテル・コスモスホールⅡで、「日本パラグアイ圓母船友好協会創立及び創立記念講演会」が創立準備委員会の主要団体であるＮＰＯ法人世界平和海洋訓練教育協会主催により開催されました。南は沖縄・九州、北は山形・宮城をはじめとする全国各地から熱意溢れる賛同者５５０名が集まり、会場は和やかな雰囲気に包まれました。パラグアイと日本。地球の軸の対極に位置する両国の代表が、まるで長い間離れていた家族が再会したかのような懐かしさで出会うなかで、当協会理事伊藤弘子氏によって議事は盛大で晴れやかに進行され、開会の辞、祝電披露、来賓挨拶、祝歌、主催者挨拶、規約・事業説明と採択、創立宣言、友好協会会長挨拶、創立記念講演、質疑応答、閉会の辞へと続きました。

明正浩当協会理事長による開会の辞に続いて祝電披露が行われました。祝電はアハメド・カリール／駐日モルジブ共和国大使、鳩山邦夫／衆議院議員・元総務大臣、左藤章／衆議院議員・防衛副大臣・内閣府副大臣、平沼赳夫／衆議院議員・次世代の会会長、佐藤正久／参議院議員・自民党防衛部会長など各国会議員よりお祝いと激励の言葉が寄せられました。

来賓挨拶／３・11海からの迅速な救援と真の復興「世界海洋村構想」

カリール大使は祝電の中で、「地球の3分の2は海でありながら未だに開拓されていない。海は多くの資源を抱えている。海を開拓することが人々を助け、世界の平和を促進させることは疑いの余地もない。皆様方が、海洋研究を通して平和の促進のために日本や世界で行っている独創的な活動は顕著であり賞賛されるに値する」と述べました。各界より参加された来賓紹介の後、来賓を代表して、今野隆吉／宮城県県議会議員、並びに猪狩達夫／海洋一級建築士からご挨拶を頂きました。

３・11東北大震災で被災された今野隆吉議員は「30年の議員生活の中で今まで体験したことのない、想像を絶する津波と地震を経験しました。道路が瓦礫で寸断され、陸上からの捜索活動はままならず、生活物資も届かない中でしたが、米国はトモダチ作戦を開始し、翌々日の13日には、空母ロナルド・レーガンを中心に巡洋艦、駆逐艦などを含む20隻の船団で迅速な海からの救援を始めました。港が破壊された場所も揚陸艇でどんどん上陸し、行方不明者の捜索にあたり多くの方々を救援しました。米国の海からの迅速な救援活動に心から感動しました。あの震災ではガスが止まり、水が出なくなる状況の中で家族で助け合い、食べ物が乏しい中で分けあって食べるなど、家族愛、家族の絆の大切さを痛感いたしました。

４００年前、野原だった仙台の町を伊達政宗公が町造りをした時、広瀬川から水を引いて『四ツ谷用水』という水路を造りました。次に住宅用の材木を阿武隈川の流れで下ろすのですが、広瀬川との間に貞山運河を堀り、仙台の町を造りました。この運河は石巻まで繋がり長さ59ｋｍです。このように水が大事です。伊達政宗公のもうひとつの偉業は、サン・ファン・バウティスタ号という船を造り、その船で支倉常長公を

ローマに送り貿易交渉に当たらせたことです。今回大震災で経験したことや伊達政宗公の町造りを考えあわせると、海によって私たちの生活が成り立っているんだということを改めて感じています」「今後いろいろなことが起きると予測される中、この会の設立を心からお慶び申し上げます」と挨拶されました。

続いて猪狩達夫一級建築士は、「私は東北復興のための町造りに取り組んでいますが、これをやるようにと神様から長生きさせていただいているのではないかと思っています。3・11大震災の時、米国のトモダチ作戦に助けられましたが、やはり自分たちでやらなければならないと考え、『病院船で普段はホテル船』というテーマの船をつくってこれを東北においたらどうだろうかという提案があり、それに基づいて『Las&Rism／災害支援艦兼大型観光船』構想を練り、その実現に着手しました。東北を復興したいという願いからです。最初は、景観の素晴らしい日本三景のひとつである松島の宮戸に配置する計画を推進しました。そのために何度も何度も現地に足を運び準備活動をし、現在は松島も含めた石巻湾にある田代島を拠点とする『田代島世界海洋村構想』の実現に着手しています。田代島は奇跡的に震災から守られ恵まれた島で、田代島には猫神社があり猫の島として有名です。このプロジェクトは非常に希望があります。私は以前トロントに住んでいたので、ナイアガラの滝には何十回も行きましたが、イグアスの滝はまだ見ていないので、数年以内には必ず行って見たいと思います。今日は友好協会の設立、おめでとうございました」と挨拶されました。続いて、祝歌「栄光の架け橋」が、Sun Flower（佑日・春花姉妹）によって披露されました。Sun Flowerのすがすがしくも魂を揺さぶる歌声に一同聞き入り、心を一新するひと時を持ちました。

主催者挨拶／海を通じて世界に貢献できる大海洋国家日本

次は、山崎祐介名誉教授（NPO法人世界平和海洋訓練教育協会顧問・富山商船高専名誉教授）による主催者挨拶です。山崎教授は「これからは海です。東京大学海洋研究所も『今まで海に対して日本人は無知だった。海をごみ捨て場として扱ってきただけだった。よく研究してみると、実際人類が今直面しつつある環境問題、食糧問題、エネルギー問題など、諸問題の解決の鍵の多くは海にある』と明言しています。以前から私もそう思っていましたが、そういう時代になってきました。まず海に出てみましょう。海に何回も行くことによって海の民になることができると思います。海の民こそ人間らしい人間だと私は思っています。

日本の国土の大きさは世界で61番目ですが、島国であるために世界第6位のEEZ（排他的経済水域）面積を持っています。米国、オーストラリア、インドネシア、ニュージーランド、カナダがより大きな水域をもっている国々です。日本は海水の体積では第4位。日本の海は深く地震の巣に似たところが多いので、たくさんの海底地下資源が採れます。海の恵みです。金とか銀とかプラチナなどのレアメタル（希少金属）、レアアース（希土類）が豊富です。レアアースは電子機器などを作るために必要な土ですが、日本の海には採っていないだけでたくさんあります。今は98％中国から輸入していますが、近い将来、中国にもう要らないと言えるようになるでしょう。また、採っても採っても湧いてくる無尽蔵のメタンハイドレートが、柱になった結晶の形でどんどん見つかっています。今、富山の大学でも採取して研究しています。近い将来、日本はエネルギーを外国から買って製品を造って輸出する国ではなくなり、その反対になります。そういう時代がもうすぐ近くに来ています。海底資源や海洋自然エネルギーによって、まず、エネルギー問題を解決しましょう。水問題についてですが、海水を真水に変える技術を日本だけが持っています。ですから大海洋国家として、海を通して日本は世界に貢献することができます」

「そのためには船が必要です。事実、日本は海運、海洋調査・探査、海洋工事に関しては世界最先端国家です。海域内の海上、海中、海底、及び海底下に存在する水産、鉱物資源、ならびに海水、海流、海風から得られる自然エネルギーに対して、探査、開発、保全

及び管理する権利があります。先ほどのメタンハイドレートは無尽蔵にあるので皆あげればいいと思います。そのようにすればロシアとも韓国とも中国とも仲良くなれます。今までアメリカはそういうことをしてこなかったのです」

「海に行くことによって人間らしい人間になります。大自然を知らない現代人は、想定外の自然環境に入るとパニックになってしまう。やったことがないから、恐れおののくばかりです。そういう環境で人間がどのような心構えでどのように対応できるかが問題です。そのためには、まず人間がどういう存在かわかっていないとだめです。人間はすごい、偉いと思っていたらとんでもない。小さな存在なんです。知識だけでなく経験が絶対に必要です。海を何度も体感しましょう。海から生まれた本来の素晴らしい人間になり、海を好きになることが本当にできます。母の懐に戻るように、まずは海に出て下さい。そのためには船・ボートが必要です」

「パラグアイと日本の圓母船友好協会が今日創設されます。では、なぜ日本とパラグアイなのか。それには次のような理由があります。第一には、南米に海洋最先端技術を導入し、南米に近代文明社会の仲間入りをしてもらうため。第二には、理想的な文化文明を形成する三要素は、四季があるところ、陸と海が重なり合うところ、栄養価の高い食糧のあるところです。地政学上この条件に合致するところが日本とパラグアイであり、近い将来、この両国が文化文明の出発点に立つという理由からです。現在、７０００人ほど日本人がパラグアイにいますが、現地の日本人は誠実さを感じさせ、大変善良で牢屋に行った人は一人もいないのです。パラグアイ人の日本人に対する信頼度は非常に大きく、現地の日本人はパラグアイのために多大な貢献をされています」と語り、最後に山崎教授は「『圓母』の意味は、海のように平等で慈愛に満ちた円満な母のようにという意味」であることを紹介しながら、「日本パラグアイ圓母船友好協会の目的を端的に表現すると、地球の両極にある日本人とパラグアイ人が、海のように平等で慈愛に満ちた円満な母のような心で、食糧問題・環境問題を根本から解決するために共存して、新しい世界、理想郷の軸をつくることです」という言葉で挨拶を結びました。続いて佐藤健雄当協会理事が「日本パラグアイ圓母船友好協会の規約と事業」について説明を行い全会一致で採択されました。続いてＨＷＭ山口の佐藤健社長が「創立宣言」を格調高く読み上げました。

会長挨拶／パラグアイで第三次ユートピア建設

次に「日本パラグアイ圓母船友好協会」の日本側の準備委員長であり当友好協会会長に就任した飯島康弘会長が以下のように挨拶いたしました。

「神様がなぜパラグアイを選ばれたのかという観点でお話させていただきたいと思います。海洋趣味産業モデル都市をパラグアイにつくるということが、日本パラグアイ圓母船友好協会のひとつの目的でありますが、この創設大会を通してそれに向かって出発するということは大きな意義があると思います」と挨拶を切り出しました。「パラグアイは日本と非常に繋がりがある国です。パラグアイの先住民グアラニー族は、もともとブラジル、ボリビア、アルゼンチン、ウルグアイなど南米全体に住んでいました。ウルグアイ人は欧州系混血が８％であるのに比べ、パラグアイ人は欧州系混血が95％、グアラニー語を話す人は95％、スペイン語とグアラニー語両方を話す人は50％で、殆どのパラグアイ人はグアラニーの伝統と文化を相続しています。不思議なことにグアラニー語は日本語と非常に似ています。グアラニー族は自分たちの文化を守り続け強烈な自尊心を持っている民族で、パラグアイ人は戦争をしたら成人男性はいなくなるまで戦う凄まじい民族です。１８６４年に起きた三国同盟戦争で６年間闘いましたが、45万人の人口が15万人近くまで減り、女、子供しか残らなかったといいます。パラグアイ国歌の歌詞は『パラグアイ人達よ、共和国か死か』という意味で、南米において中国と国交を持たない唯一の反共国家です。アルフレド・ストロエスネルは、１９８９年まで35年間大統領を務めた方ですが、この方は『自分は明治天皇の生まれ変わりだ。だから自分はこのパラグアイを近代化する使命がある』と言った方で、この大統領が日本との関係を緊密化し、１９７６年から今日に至るまで二国間援助で日本がパラグアイにとって最大の援助国になったわけです。二国間援助でパラグアイが受けとる金額の50％以上は日本からで、日本にとっても非常に大きな戦略的な意味を持った国がパラグアイです。１９５９年に移民協定を結んで以来、その協定は今も生きてお

り、結んだときは30年間でしたが無期限で延長することになっています。今、パラグアイには日本人が７０００人いますが、８万５０００人まで受け入れるということです。

実のところ日本から南米へは縄文時代に移住しています。６３００年あるいは３５００年前に、縄文土器や鹿の角で作った針を持ち、杉で造った丸木船で黒潮の反流に乗って南米に行ったといわれています。なぜそのときに日本人が南米に行かなければならなかったかというと、口永良部島で噴火があり、硫黄島と屋久島も巻き込んでその噴火が３回起き、火砕流が南九州全域を焼き尽くしたからです。その噴煙は成層圏まで達し、２、３年間太陽を覆い火山灰は東北地方まで及んだといいます。そのころ、縄文人はどんぐりなど木の実を食べたりしていましたが、主に釣り針と銛（もり）を使ってマグロなどの魚をとって食べていた海洋民族でした。

パラグアイはユートピアを求める人々の地にもなっていました。イエズス会が17世紀から18世紀に、１５０年間かけてこのパラグアイにユートピアを創りました。このグアラニー族によるユートピアはマルクスも認めるほどの理想的な原始共産社会でした。これがイエズス会によるパラグアイ第一次ユートピア創りです。次にメノナイトというプロテスタントの一派から出た聖書至上主義、絶対平和主義者達が世界中で迫害され追われて、１９２９年にパラグアイに移ってきました。このメノナイトは世界で１００万人いますが、パラグアイには20万人おられ、私たちの工場があるチャコ地方のもう少し奥地で理想郷を創っています。これがパラグアイ第二次ユートピア創りです。私たちが、現在、パラグアイで創ろうとする海洋趣味産業モデル基地（準都市）も理想のユートピアですが、これがパラグアイ第三次ユートピアではないかと思っています。

グアラニー族に伝わる終末的な神話があります。『自分たちは悪魔の長の子どもではない。実は隠され騙されていたということを知る日が来る。そして人間はいずれ杉の船を造り、その船で大海を越えて悪のない地に辿り着く』という意味の神話です。グアラニーの神話ですが非常に不思議です。杉の木は日本固有種であり、パラグアイにもともとあった木ではありません。縄文人が杉の丸木舟に乗って来たかもしれないのですが、よくそれが杉だとわかったなと思います。このような神話が残っており、パラグアイは神様が準備されている国だと感じました。記念すべき今日、皆様と共にこの日本パラグアイ圓母船友好協会を創立し出発することができるということを、非常に感謝いたします」と会長挨拶を結びました。

クーラック教授講演「パラグアイの今日」

休憩後、いよいよアニバル・クーラック教授の記念講演の時を迎えました。クーラック教授は、現在、建築家としてパラグアイ国内外で活躍しています。父君が米国大使であったために米国で教育を受け、国際的な観点から新しいパラグアイの国づくりを目指している愛国者です。34歳で商工副大臣を務めて以来、政府を内外から支え続けています。記念講演では、終始クーラック教授のユーモア溢れる暖かくて真摯な人柄が滲み出て、聴衆は笑ったり静かに聞き入ったり、会場の雰囲気は講演者と一体となり、終始なごやかさに満たされていました。

クーラック教授はパワーポイントを使いながら「パラグアイの今日」という題名で講演しました。通訳者は、青年海外協力隊でホンジュラスやメキシコの大学で音楽講師として活躍し、現在は、ＪＩＣＡ（ジャイカ）本邦研修の通訳はじめ日本国内でスペイン語通訳、及び同語学講師として活躍しておられる玉木裕子氏です。まず、「パラグアイの公用語はスペイン語。国の面積は約41．2平方ｋｍで日本の面積とほぼ同じ。人口６６９万人。白人と先住民の混血が95％で宗教はカトリック。首都はアスンシオン」という全体的なパラグアイ国の紹介が行われ、いよいよクーラック教授の講演が始まりました。

パラグアイは2回泣く国

教授は、「こんにちは。はじめまして。名前はクーラックです。仕事は建築家。（ボート）キャプテンです。どうぞよろしく」とユーモアたっぷりな笑顔で日本語で挨拶されました。「今回はご招待いただきありがとうございます。私が去年と変化したことは、髪の毛が少なくなりましたが髪が濃くなったことです。（会場・笑い）今回、私は『理由』と『感動』という2つのテーマに分けてプレゼンしたいと思います。『パラグアイは2回泣く国』と外国の方々がそのように言います。それは、外国の方が初めてパラグアイに着いた時に涙が出ますし、パラグアイとお別れしなければならない時にも涙が出るからです。パラグアイの歴史はとても深いものがあります。パラグアイは川で囲まれたひとつの島だといってもいいかもしれません。

常に戦争、常に犠牲が伴う国でした。パラグアイはスペインの征服により本当に苦しみ打ちのめされた時代を経てきました。1860年代に起きた三国同盟戦争ではブラジル、アルゼンチン、ウルグアイが同盟してパラグアイを滅ぼそうとして攻めてきました。その戦争で70％の男性が死に、残り30％は子供と老人でした。その30％が生き残り、そこからまた大きくパラグアイを立ち上げていきました。それがパラグアイの誇りです。もう一つの性格は、外国人に対して非常にオープンであることです。私たちの日本との関係は70年前に日本の移民を受け入れた時から始まっています。このように周りの国々に滅ぼされたといっても、外国に対して非常にオープンマインドであること、これが私たちの誇りです。

若者が多く発展著しい国

（パワーポイントを説明しながら）パラグアイは現在、最適な投資環境を持っています。ドゥーイングビジネス（Doing Business）ランキングでは5位です。また、貢献度においてはカリブ中南米地域で2位です。世界のために多くの食糧の生産をしており、国連食糧委員会の中で、パラグアイは10位に入っています。物流の中心として成長している国です。人口の70％が35歳以下で、若い世代の人口がとても多い国です。私は45歳ですが老人です。（会場・笑い）パラグアイは本当にたくさんの土地がありますが人口は700万人です。世界のための食糧品、地域のための商品やサービスを提供する、非常に安定した国と言えます。グアラニーが通貨単位ですがドルに続いて非常に古い通貨で、70年間このグアラニーを使っています。GDPの平均成長率は4・5％。とても有利な税制度を持っており、消費税、所得税、付加価値税がすべて10％です。再確立した市場、再確立した外交上の結びつきが構築できています。

2009年に非常に大きな変化がありました。2009年に社会主義が横行し、ブラジル、ベネズエラ、ウルグアイ、アルゼンチン、エクアドル、ニカラグアから非常に疎外されました。なぜなら米国ととても仲が良かったからです。南米的な社会主義は、貧困層にお金をばらまくという社会主義です。パラグアイはそのような人気取りはしないので常に安定しています。ですから今では直接海外投資が増加し、外国の企業を誘致することができる国になっています。最近の5年間、インフラ率は5％に抑えられ、マキラ法という税優遇制度の中での輸出が60％増加しています。海外投資が増え、パラグアイ資本からくる新たな投資が60％あり、新企業の進出申請が3倍になっています。このグラフ（図－6）はマクロ経済の安定感を示したグラフですが、それぞれパラグアイの総生産額だったり、どのように維持できているか、それから外貨のレートがどうなっているか、というグラフです。これで見れば他の国に比べてパラグアイの経済が非常に安定しているということがわかります。経済的自由度の指標、経済状況の指標をそれぞれの研究者が発表していますが、パラグアイのランキングは非常に上です。

（図－6）

パラグアイは再生エネルギーを一番多く産出しており、再生エネルギーが第1位、ステビアの生産が2位、マテ茶の生産輸出が3位、はし け船の生産が3位になっています。この

はしけ船の生産に日本が投資しています。世界第4位を誇るものが大豆、大豆油、キャッサバ。5位は圧搾大豆と加工肉。6位はとうもろこし、そして大豆の生産。10位が小麦の輸出です。肉は加工肉以外に生きた牛などを輸出しています。（図－9）

（図－9）

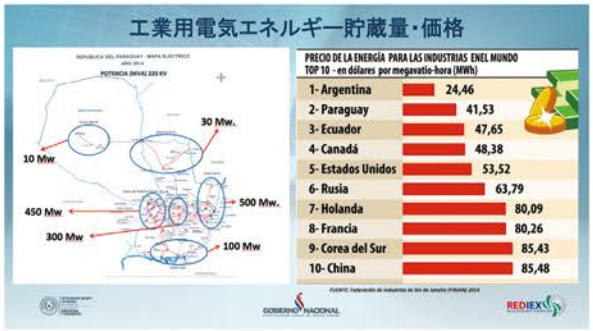
パラグアイ政府はインフラ整備に最もお金を使っています。成長予測ですが、来年からGDP成長率を6・8％に維持しようとしています。資源としては若い労働力があり、経済力は安定し未来があります。パラグアイは戦略的な地域、有利な地域に属しています。なぜなら南米大陸の中心がパラグアイだからです。25年間続いている有利な税制度があり、資源は低コスト、低価格の原料が得られます。維持可能な経済成長というものがあるのです。この表（図－15）は工業電気のエネルギー貯蔵量と価格を他の国と比べた表です。これはスペイン語の新聞ですが、世界の食糧提供のための農工業が非常に優れているというニュースです。この5年間で非常に素晴らしいホテルがたくさん建ちました。有名な多国籍企業が今パラグアイで起業しています。ヨーロッパの企業や車の部品関連の企業です。マキラ法を使って有名な企業がパラグアイに工場を置いています。

新たな産業を興す「希望の時代」の始まり

今まで原材料を使って何か造ろうとしていたパラグアイが、新しいものを取り入れて全く新しい産業を興す時代が始まったということがわかると思います。トヨタやホンダなど5つの大きな自動車会社の部品工場が進出しています。誰もこの2年間でこれだけのたくさんの企業がパラグアイに誘致され、部品を造るということを考えてもいなかったようです。そのようなわけでセパルという研究機関は、最も役目を果たしている国としてペルーの次にパラグアイを2位においております。

私はここで自分の考えをちょっと述べてみたいと思います。この日本に来て、『パラグアイでボートを造るプロジェクトをどうお考えですか』と、たくさんの皆様に質問されました。私の言葉でいえば『考えたこともないこと』といえます。パラグアイにとって日本とは世界一の国、産業も発展しており非常に高い位置にある国だと考えます。それに比べパラグアイは、マテ茶の国、大豆の国。このプロジェクトはボートを造ろうとしています。とても考えられないことです。日本（市場）に提供するために非常に高い技術を使ってボートを造る、それもパラグアイで造るということをパラグアイは驚いています。信じがたいことです。ですから、このプロジェクトは、パラグアイ人に非常に大きな影響を与えると思います。パラグアイ人の頭には、原料を輸出すればいいという考えしかありません。ですから、このプロジェクトは、パラグアイ人を変えることができます。それはどのようなことかというと、パラグアイ人自身がパラグアイ人としての自信を持つということです。それは、本当に新しい希望です。水とパラグアイを結びつけるものだからです。このプロジェクトは何かをパラグアイで生むものです。努力には痛みが伴うかもしれません。しかしこのプロジェクトは、パラグアイの未来、未来の青年たちにとって本当に必要なものです」と結んでクーラック教授は講演を終わりました。

（図－15）



続く質疑応答の時間でクーラック教授は懇切丁寧に質問者の問いかけに答えました。参加者は壮大な南米大陸に思いを馳せ、会場は希望と喜びで沸きました。最後に当訓練教育協会会長の佐藤照国氏による閉会の辞で日本パラグアイ圓母船友好協会創立記念講演会の幕が閉じられました。各地から集まった参加者は、全体写真撮影後もクーラック氏と個別に記念写真を撮りました。撮影の順番を待つ列は文字通り長蛇の列。希望と抱擁と笑顔の満ち溢れる創立記念講演会となりました。この記念講演会の後、同ホテルのコスモスホールIにて晩餐を囲みながら海洋交流会がもたれ、更に大きな友好の輪が広がりました。（文責　編集部）

（☆「日本パラグアイ圓母平愛友好協会」という名称で協会創立を準備して参りましたが、この日、名称変更が発表されました。友好協会の名称は今後「日本パラグアイ圓母船友好協会」です。）

6・27【日本パラグアイ圓母船友好協会創立決議文】

世界は今、民族の対立、宗教の対立、国家の対立、また、環境や公害そして食糧、格差などの諸問題で病んでいます。ウクライナ問題、イスラム国問題、イスラエル・パレスチナ問題、テロ戦争、アラブの春と、その後に続く混迷などを通して、これからの世界を照らす指導理念はどこにもなく、明らかに「大患難時代」に入っています。しかし、諦める必要はありません。人類は確実にグローバル化、人類共同体思想、科学の極度の発達などを通じて人類一家族ともいうべき世界に向かっています。今日の世界で不足しているのは、人類一家族の中心たり得る父母の存在が不在であること、または確認出来ないこと、これを主導する理念がないことです。

中東、アフリカ、西欧の問題は、歴史的に見れば、今まで解決すべきであったものが未だに解決できていないために、それを克服できる未来の希望が見えないために、今もなお呻吟し苦脳している過去からの課題です。これからの希望は環太平洋の中心「北東アジア」にあります。しかし、環太平洋の中心「北東アジア」が希望になるためには、アメリカの役割が重要です。アメリカが北東アジアに正しく連結されてはじめて世界はいち早く一大家族社会に転換されていくことでしょう。

ここで問題になるのは南米です。南米は西欧から南アメリカ大陸に渡ってきたアメリカの友邦であり兄弟です。プロテスタントとカトリックの違いはあっても同じキリスト教兄弟圏です。アメリカは海洋国家日本と共に南北格差（経済格差）の問題を解決してからアジアに来なければなりません。南米の地政学上の中心はパラグアイです。南米諸国の中で最も貧困でありながら幸福感を最も享受し、未来に対する誇りと確信を持っている国です。パラグアイと日本の歴史は特別です。パラグアイのグアラニー族は蒙古斑を持ち、５０００年前の縄文時代の日本人がその源流とも言われています。日本がＯＤＡ援助を行った国で、一人当りにつき最も援助の多い国がパラグアイです。南北アメリカが日本を通して北東アジアに繋がれば、人類の未来が開けてきます。北東アジアが新しい環太平洋時代の中心です。日本人が満州平野と呼んでいる「中原天地と韓半島、日本」と「パンタナールとパラグアイ、ウルグアイ」は地球星の文化文明の中心地となり得るすばらしい場所です。私たちは日本とパラグアイが水や魚を中心として一つになることによって、地球規模の諸問題が全て解決し得ると考えます。

よって、私たちはここに、海水の如く、隔てなく格差なく人々を愛する父母の慈愛を価値の中心においた「日本パラグアイ圓母船友好協会」を創立する運びとなりました。道徳的退廃と闘争と殺戮戦に明け暮れながら、有史以来連綿と続いてきた、「現代陸上偏重型文化文明」を克服し終息させ、目前に迫り来る食糧問題、環境問題を根本から解決し、持続発展し続けることの出来る水や海を基盤とした「世界的規模の新しい文化文明」の両軸をつくる決意を致しました。よって今日、ここに「日本パラグアイ圓母船友好協会」の創立を宣言いたします。

２０１５年６月27日

日本パラグアイ圓母船友好協会創立大会

■講演者プロフィール

アニバル・ヒメネス・クーラック教授

パラグアイ国人、アニバル・ヒメネス・クーラック教授は建築学位の他に農業と産業分野における社会／地域経営と推進開発政策に関する学位の持ち主。さらに投資生産品質管理の学位（日本）、中小企業政策推進とＥコマース（韓国、台湾）、インダストリアル・パークの開発経営（スペイン、台湾）、国際交渉の管理開発（ドイツ、ベルギー）、そして地域開発（イタリア）などの資格を持っている。

２００７年～２００８年にかけて、産業貿易省での商工副大臣と商工大臣のシニア顧問を務める。日本、ドイツ、国連、インターアメリカン開発銀行などでの中小企業分野における、よりきれいな生産、生産性と品質管理の分野におけるプロジェクト・ゼネラルマネジャー、科学技術の国家評議会メンバーとしても活躍。二国間、多国間のメルコスール交渉にも積極的に関わる。訪日は１９９７年以来５回目。好物は和食。お土産は決まって「わさび」

「アメリカ大陸の未来都市Ｎ０１」にアスンシオン！ 英国経済誌「ザ・ファイナンシャル・タイムズ」のランキング

世界でも最も有名な英国の経済メディア「ザ・ファイナンシャル・タイムズ」は、２０１５年～２０１６年度未来のアメリカ大陸都市ランキングで、「アスンシオン」を投資収益性において、米国のオーランド、デンバー、メキシコのサンルイスなどを含むアメリカ大陸４２１の該当する都市の中で第１位にあげた。アスンシオンがコスト面での経済性が高く、投資のチャンスについては最も高い水準にあると採点された。これには、基本インフラ、サービス、通信、観光、建設などの分野が含まれている。（要旨のみ記載）

（英国経済誌「ザ・ファイナンシャル・タイムズ」は２００３年の統計で45万部発刊・１４０ヵ国に１６０万人読者。２０１５年７月には日本経済新聞社がフィナンシャルタイムズを１６００億円で買収すると発表）

（ＬＮ150605）出典「日系ジャーナル」第８６４号（２０１５年６月15日）

古代伝統航海術で太平洋を越えた縄文人

５５００年前から３０００年前、日本列島で起きた火山爆発や寒冷化などの気象大変動により、われらが縄文人は決死の旅立ちをし、黒潮に乗って日本列島から太平洋、南北アメリカ大陸に拡散した。南北米のインディオ、太平洋諸島ネシア（島々）の人々が、実は日本から渡った縄文人であったことが、縄文式土器の分布によって近年、学術的にも検証された。そのことは前号でふれたところである。「日本列島を遠く離れ、ネシアの島々を渡り、遥か１万６０００キロの彼方南米大陸にまで到達していたわれらが縄文人、その勇気と知恵に満ちたＤＮＡは日本人の中に今も脈々と流れている」のである。（「海を越えた縄文人」１１２Ｐ祥伝社１９９９年）まさしく彼らは動力もコンパスもない時代、伝統航海術で環太平洋の荒波を越えたのであった。

仲代達矢氏をレポーターとした一行が最初に訪問した島は、日本の南約３０００キロに位置するヤップ島。そこで日本古来の風習と似たものに巡り合い一行は驚く。魚の燻製、木の果実を砕いて蒸した伝統的な食物は、見た目も舌触りも日本の干物と餅にそっくり。男たちのスという下着は、つい最近まで日本男子が愛用したフンドシと酷似。中でも最も感動したのは、古来からこの島に伝わる「スティックダンス」（棒の踊り）である。この祈願踊りは、茨城県鹿島神宮の例祭「祭頭祭」で奉献されている踊りと酷似。鹿島神宮では12年に一度、利根川と霞ヶ浦を舞台に「御船祭」が行われている。鹿島神宮大祭の主役である「神の船」が、なんとネシア二海（ポリネシア、ミクロネシア、メラネシア）特有の双胴船（カタマラン）なのである。やはり、古代の日本とネシア世界は繋がっている。

ところで、日本列島から３０００キロ離れたヤップ島、果ては１万６０００キロ彼方の南米大陸まで、縄文時代の船と航海術で、果たして船旅が可能だろうか。ここで「海を越えた縄文人」いわく、「真の航海者とは風と潮流と太陽と星々の位置だけを頼りに、太平洋を自由自在に行き来する伝統航海術を修得した、ネシア世界のスーパーエリートに与えられる称号」であるとしながら、サタワル島の首長レッパンさんを紹介している。レッパンさんは、全く無動力の大型アウトリガー船・チェチェメニ号（よく考えよという意味）を建造し、その船で１９７５年、太平洋を約３０００キロ北上。48日間の大航海を越えて揚々と沖縄国際海洋博覧会へ乗り付けたのである。

ちなみに関野吉晴氏（探検家・人類学者・外科医・武蔵野美術大学教授・１９９９年植村直己冒険賞・２０００年旅の文化賞受賞）が「古代カヌーでフィリピン、台湾、日本を航海」したニュースが２０１３年に放映された。それによって丸木舟にアウトリガーを付けて大海に出た人々が黒潮に乗って、南方からやってきたことが証明されたのである。日本人の祖先の原点は海洋民族である。関野吉晴氏は「１２０ｋｇの砂鉄と54ｍの大木、２６８日の建造期間をかけ、コンパスを持たず、島影と星だけが頼り。風がないと２キロしか進まない船で、インドネシアから日本へ３年をかけ４７００キロの旅を踏破した」のである。その記録映画「グレイトジャーニー・関根吉晴／前代未聞の大航海『縄文号とパクール号の航海』」が話題を呼んでいる。

ところで話をもとに戻そう。バヌアツの人々はヤムイモを栽培し養豚も行う。どちらかといえば「山の民」の生活形態。日本では古代より海藻は神への供物の一つであったが、なぜかバヌアツの人々は週に一度海に出かけ海藻を摘んで食べる。先祖代々繰り返してきた習慣で海藻採集に行く時は、全員が木の革で作った御幣（祭祀で用いられる幣帛／へいはく）のような道具を持つ。実用性はなく海の神への信仰上の道具である。縄文大航海時代の記憶が残されているのではないだろうか。バヌアツでも、長野県諏訪大社の「御柱祭」そっくりの祭礼「ネコウェアセレモニー」を行う。踊りの後に鷹の羽で覆われた一本の木柱が登場する。男たちが鎌のような木製の擬似刀がついた棒で木柱を支えながら広場を練り歩く。スケールこそ違うが、祭りの最後に「建御柱」として諏訪大社の境内に立てられる柱の意味は、バヌアツの祭りと全く同じである。仲代達矢氏をレポーターとする一行は「先祖は日本人という言い伝えのあるキリウィナ島」を次に訪れることになる。（続く）

（テレビ東京・編「海を越えた縄文人」祥伝社１９９９年　一部引用／鹿島神宮ＨＰ／関野吉晴公式サイト引用）

世界の釣り 日本の釣り

海を治める者は世界を掌握する

HWM関西　上村　尚子

いよいよ大海原へ船出

ホビーワールドマリン関西は、太平洋単独無寄港横断を敢行した堀江謙一氏の拠点として世界中に知られている「新西宮ヨットハーバー」を拠点に、会員に対する釣り、クルージングなどを行っています。２００９年５月、ヤマハ27フィートの中古ボートを購入し「海洋平和一号」と命名し、キャプテン訓練や海釣り訓練及びボート維持管理訓練を始めました。

いよいよ大海原へ船出した歴史的感動的な出発でした。明石海峡や淡路島を眼前にいざ海釣りに…しかし、海を治める以前に素人軍団ですから、いきなりの中古ボートの故障、修理、ポイント探しと苦労の連続でした。ある時はフランスから釣り大好きファミリーが来日して、天候も良く、いざ出発したところ、その20分後に急にスピードダウン。何事かと調べてみるとエンジンルームに水が！海水ポンプの蓋の劣化が原因で海水が入って来ていました。エンジンルームを開けた時の驚愕の一瞬！楽しいひと時が恐怖へと変わりました。どうなる事かと慌てましたが、結局、海上保安庁をお呼びすることとなり「ＢＡＮ」に牽引して頂き、マリーナに意気消沈しながら静かに帰港した事もありました。

しかし約３年間「海洋平和一号」を通して、ボート維持管理について学び、キャプテンとしての心得やどんな時にも冷静沈着に行動する事などを体得し、ボート操縦訓練、ボート海釣り訓練を行うことができました。海のことは何も知らない私たちでしたが、何よりも海に対して畏敬の念を抱くようになり、自然との共存共生のための闘いの中で、勇気と開拓精神を培われたことに感謝でした。

海洋時代がもたらす計りしれないチャンス

２０１２年５月、待ちに待った「Good Go TE288」を新西宮ヨットハーバーに迎えました。新艇という事もあり、皆で慎重に扱いました。乗船して驚いたことは、前の中古ボートの体験に比べ、スピードがかなり出ても揺れが殆どなく安定しているではありませんか！お尻が痛くない！波に叩き付けられた時の体中の骨が粉々になる感覚がない！このボートは凄いね！と感動！感動！でした。明石海峡に行くのも淡路島に行くのも、随分時間が短縮されるようになりました。観光名所である神戸メリケンパークにまでクルージングで足を伸ばせるようになりました。

「Good Go TE288」が西宮に来た５月、ゴールデンウィークに開催したマリンフェスティバルには、家族連れで２００名以上の方々がクルージングに来られました。皆さん一様に「スピードがあって気持ち良い」「安定している」と素晴らしく好評でした。確実に海洋時代が到来している実感と未来への希望が彷彿する「Good Go TE288」との新しい船出でした。

フィッシングダービー

新西宮ヨットハーバーでは、一年を通してフィッシングダービーがあります。

キス、アジ、ハマチ、真鯛、タチウオ、アオリイカ、サバ、ガシラ、カツオ、メバル、サワラの11種類の各3位（入賞者は豪華賞品）までの大きさ（長さ）で競います。昨年はタチウオ、サバ部門で一位になりました。今年は今のところ3部門で入賞しています。ダービーでの入賞は常連となりました。海釣りでは主に須磨沖、明石海峡周辺に行きますが、今では大阪湾でのポイントはだいたい把握しました。大阪湾ではタチウオが有名ですが、10月位からは1メートル越えが大漁です。また明石海峡付近で流れは強く速いですが、生き餌を使い、青物狙いに行きます。日々仕掛けや釣具を研究していますが、海で常に釣果を得て自由に生きるためには、専門的知識と経験が必要である事を痛感します。

クルージングや釣りによって復興

今年4月、お花見クルージング&バーベキューを開催しました。7組の家族が参加しましたが、桜が満開の中クルージングとバーベキューを楽しみ、御夫婦ご家族で海に出て心情解放され、明るい笑顔でとても復興されていました。海にとても関心を持たれ積極的自発的に協力を申し出て来られる様になりました。

また、青年達もよく釣りに来ます。波の高い日にタチウオ釣りに行きましたが、その日の沖はかなり波が高く、ポイントに着いた途端にボートも大揺れです。ある青年が船酔いになりましたが、餌のイワシを仕掛けに付け、水深80メートルのポイントでの闘いです。船酔いの中でドラゴンサイズのジャンボタチウオを釣り上げました。一匹釣り上げて、その後グロッキーでした。大変だったかと思い感想を聞きましたら、「船酔い以上に大きなタチウオを釣り上げた喜びでいっぱいです。将来が不安だったけれど海に出て不思議と力を得ました」と感謝して帰りました。

海は人が生きるための力と知恵を与えてくれる最高の霊性を啓発できる所です。これからも釣りクラブを広め、海洋趣味生活社会を実現させるために、海釣りの専門家、ボート維持管理の専門家、ボート販売の専門家となり、真の海洋時代を創成する先駆者となって行く所存です。

関西HWM ☎ 0798-20-1375

黄金に輝く魚・大湿原パンタナールの釣り

キャプテン　ピーター・パウロ

パラグアイ、ボリビア、ブラジル国境にまたがり、日本の本州ほどの広い地域を占める世界最大の湿原パンタナール。多種多様な魚や鳥、昆虫などが自然のまま生息しています。周辺の大地は米や麦、穀物などが3毛作4毛作される程肥沃です。そのパンタナールのチャーターキャプテン、ピーター・パウロさんをご紹介いたします。

パウロさんは現在40才。ブラジル、マットグロッソ南州、ミランダ市近くのサロブラ出身です。サロブラは南パンタナールの東側の入口の町で、人気のある釣りスポットです。パウロさんのお父さんは62才。今も現役のチャーターキャプテン。パウロさんは、幼少の頃からお父さんのチャーターボートに乗って釣りの手助けをしながら育ち、若くして町一番の優秀なキャプテンになりました。

サロブラでは、ジャウー（パンタナール最大のナマズ系の魚）、ピンタード（食べて美味しいナマズ系の魚）、ドラド（憧れの黄金に輝く魚）、パクー（ドラド同様人気の魚）、ピラニア（鋭い歯をもつ魚）などが釣れます。パンタナールの魚はカラフルで珍しい模様をもっており、引きが強く釣り人を楽しませます。

ミランダへは州都カンポグランジから飛行機やバスで行くことができます。ミランダの南にはボニート（意味は美しい）という観光の町があり、その名の通り美しい景勝の地で、パンタナールの中でも世界的によく知られたところです。ここには数々の湧水があり、シュノーケリングができる透き通った渓流や滝などがあります。日本人が経営するブルーツリーホテル等、完備されたホテルもあり、サンパウロから直行便の飛行機で行くことができます。

さて、パウロさんは、現在5人家族。ボニートよりすぐ南のジャルジンに居を構え、西に300km行ったところ、パ

ラグアイ川沿いでパンタナール南の入口のポルトモルチーニョ市を拠点に、チャーターキャプテンをしています。この町から2時間余りボートでパラグアイ川を北上したところにある、パンタナールのど真ん中・ナビレキでの釣りも彼の専門です。ここで釣れる魚もやはり、ドラド、パクー、ボガ、ピンタードなどです。

パウロさんは20才から本格的なキャプテン業を始めました。彼は、サロブラ、ナビレキ地域のキャプテンの中でも特に優秀で、漁場であるパンタナールを知り尽している有能なキャプテンです。パンタナールは雨期には一面が海のように水で埋め尽くされます。ここに3600種類の魚が生息しているといわれ、動植物の博物館のように、多種多様な草木花、昆虫、鳥類、動物、魚類が共生しています。ケブラッチョという木はコンクリートよりも固く、家を造れば鉄骨よりも長持ちするといわれています。植物の密度が濃く、光合成の力が強く、アマゾン流域とこのパンタナールの酸素生成量を合わせると地球全体の50％以上といわれ、地球の肺と呼ばれています。

地元の人々は、地球上の海の魚はここから出発したと言っている人もいます。人も丸呑みしてしまうアナコンダという蛇もいます。魚をエサにしているワニはパラグアイ川のパンタナール領域だけでも50万頭生息しているといわれます。牛もあっという間に食べてしまう種類のピラニアもいます。乾期になると水が引き、本流に水が流れ込む入口で、ワニが口をあけて魚を飲み込みます。周辺に山はあまりなく、土壌は赤土です。魚は保護色のため、黄金色や黄色がかった魚が多く生息しています。特にドラドは流れの速いところに生息するパンタナールの王者です。フックアップすると引きが強く水面に飛び上がり、夕陽に映える黄金のドラドは、他のどの場所でも味わえない釣りの醍醐味を、釣り人に与えてくれます。

ピンタードは川底に生息しますが、20kgから30kgで大きいものは50kgにも達します。パクーは木の実を食べます。木の実を釣り針に仕掛け、釣り糸を操って、木の実がぽちゃんと水面に落ちるようにすると、パクーが食いついてきます。パンタナールでは、雨期から乾期になり水が曳いていく時、支流が途切れて池ができます。しかも乾いて水がなくなる状況になると、魚は池にとり残されてしまいます。魚は水を求めて本流に戻らなければなりません。そんな時、自分の体をバネにして陸上をピョンピョン飛んで帰るのです。そのためパクーなど、殆どの魚は枝骨がすごく発達しています。強く飛ぶためです。途中、木の根っ子や木の実を食べながらトラベルするのです。

パウロさんはこれらの魚を20年間釣り続けてきました。おそらくパンタナール随一のキャプテンです。彼が語るエピソードには、パクーが掛かった時、そのまま釣り糸を引き揚げようとすると、途中ワニに気づかれて食べられてしまいます。そんな時、彼は着物を脱いで川に飛び込み、パクーを優しく手づかみし、自分もワニに攻撃されないように、ワニに知られないように、刺激を与えないようにそっと迂回して泳ぎながら、パクーをボートの上まで無事に持ってきたという話があります。彼はアナコンダも手で捕まえてしまいます。パンタナールのプリンスというあだ名で呼ばれるほど彼は非常に紳士的で礼儀正しい人ですが、パンタナールの野性人です。

連絡先 ☎ +55-67-96388681

ニューヨーク・ハドソン川の大物釣り

米国、ニューヨーク・ニュージャージー州のハドソン川では毎年ストライプトバスのシーズンになると「ピースキングカップ釣り大会」が開催されます。2015年の釣り大会は、5月8日朝から5月15日の真夜中12時までの期間、開催されることになりました。一番大きなストライプトバスを釣り上げた釣り師が3000ドルの賞金を手にすることになります。沢山の参加者が自分が一番の大物を釣るという期待と覚悟を持ってニューヨーク地域の各地

から集まってきました。

ハドソン川は全長約５０７ｋｍに及び、主に米国のニューヨーク州東部を北から南に流れ、河口ではマンハッタン島に出会う大きな川です。この川はアメリカの歴史上でも一番重要なウォーターウェイの一つとされており、その名は１６０９年にダッチ・イーストインディア・カンパニーを代表して、ガレオン船ハーフムーン号でこの水域を探検したイギリス人探検家、ヘンリー・ハドソンに由来しています。

ピースキングカップ釣り大会以外にも無数の釣り大会が毎年行われるこの川とその周辺は、レクリエーショナル・フィッシングがとても盛んに行われる場所としてとても有名です。主に釣り師が釣り対象とする魚としては、ストライプトバス、ヒラメ、ブルーフィッシュ、キングフィッシュ、サバ、ブラックフィッシュなどがあり、他にもシーバス、ポギー、遠征する場合は、何とマグロ釣りも可能です。魚によって釣れるシーズンが決まっており、魚の種類ごとに、キープサイズ制限（持ち帰り可能なサイズ制限）が施されています。

その中でダントツ大物釣りとして人気なのがこの「ストライプトバス釣り」です。２０１１年の世界記録で１３７ｃｍの大物が釣り上げられています。沢山の参加者が「今年こそ我こそは」と、こぞって参加するわけです。賞金もありがたいですが、１ｍの大物を釣り上げるその醍醐味には代えがたいものです。

今年のピースキングカップ釣り大会初日はストライプトバスは数匹しか釣れず、沢山の参加者がブルーフィッシュを釣り上げました。ブルーフィッシュは日本では見られない魚ですが、これも大物は１ｍ近くにもなり、釣りあげる楽しみではピカイチとされています。味は劣るので、キャッチ・アンド・リリースといって釣り上げた魚を直ぐに放流し、釣りを楽しむだけの人も多いですが、ローカルな住民はうまく料理して食べているようです。釣った魚を食べると言えば、残念なことに近年ではこの川の汚染が問題になり、川から釣りあげた魚を食べる量を制限するべきなどの声が出ています。特にナマズやウナギなどのボトムフィーダーは食べない方がいいとされているようです。

大会期間中、大物のストライプトバスを狙うなか、釣れるのはブルーばかり。ブルー釣りも楽しいですが、刺身としても美味なストライパー（ストライプトバスの愛称）に比べると色あせます。２日目と４日目には３８ｉｎ（ｉｎとはインチのこと―約９６ｃｍ）台のストライパーが数匹釣れたものの、なかなか４０ｉｎ（約１０１ｃｍ）の壁を超えるストライパーが見つかりません。

釣り方法は疑似餌やバンカーなどの餌をたらし、ボートを流してヒットを待つものです。このようなボート釣りが一番盛んですが、釣り方は色々あって、岸釣りでも大物が釣れることもあります。ボート所有者でない釣り師や観光客達は、多数のチャーターボートや乗合船などでボート釣りを楽しみます。トローリングやジギング、疑似餌、ブラッドワームやヘリングなどの新鮮な餌、多様の釣りテクニックを駆使して大物を釣り上げようとたびたび釣りに出かけて行きます。

とうとう大会最終日となった５月１５日金曜日、その日一日だけと決意して参加した若い学生が突然４５ｉｎ（約１１４ｃｍ）の大物を釣り上げました。ピースキングカップ釣り大会の歴史上で最大のサイズです。その日の夜遅く（期限は深夜１２時までだったが）２位となった３９ｉｎ（約９９ｃｍ）がさらに釣り上げられ、大きな盛り上がりを見せるフィニッシュとなりました。

ハドソン川・ハドソン湾でのストライプトバスの釣りシーズンは、３月半ばから１１月末までです。この大会の後も釣り師達はこぞって大物を釣りあげようとハドソン川に日々出かけていきます。１９世紀には風景画の画家グループを生んだ、そんな美しいこのハドソン川の景色を楽しみながら大物を釣り上げれば、誰でもこのハドソン川釣りの虜になってしまうことでしょう。(Joo)

連絡先　☎ +1-201-982-1893

事説時解

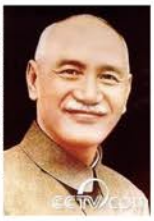
環太平洋時代の到来！
―戦後70年の真の意味

国内外の耳目を集める中、２０１５年８月14日、閣議決定された戦後70年談話が、安倍晋三首相により遂に発表されました。この「戦後70年談話」は、西室泰三氏（日本郵政株式会社取締役兼代表執行役社長・日本国際問題研究所会長）を座長とし、北岡伸一氏（国際大学学長）を座長代理とする「21世紀構想懇談会報告書」（20世紀を振り返り21世紀の世界秩序と日本の役割を構想するための有識者懇談会）に基づいて策定されました。政治的配慮や表面的知見にとらわれ過ぎ、立場上語れない事も多く、戦後70年を正しく言い表せないものとなってしまった感があります。いわば、戦後70年の日本の軌跡や、未来思考の部分では、この日本が、今後のアジアと世界のためにどのような役割を果たすべきか、残念ながら談話の中から見通すことができなかった様に思います。更に、歴史的な「環太平洋時代の到来」が何を意味するか等についても言及する由もありませんでした。本誌はこの点についてより根源的で本質的な観点から「環太平洋時代の到来！―戦後70年の真の意味」という題目で考察を深めていきたいと思います。

Ⅰ 第二次世界大戦の終結と戦後体制

なぜ、蒋介石総統は日本に対する賠償金を免除したのか

終戦時、中国の蒋介石総統は、なぜ日本に賠償金を請求しなかったのか、それどころか、なぜ列強国家（米・英・仏・露・中）による日本分割論（連合国により敗戦後の日本を分割統治）に反対し、日本の国体護持を保障し、敗戦後１７０万～２００万人にも及ぶ日本軍人に毛布まで与えて中国から帰国させたのか。歴史上類例のないこの戦後処理は、蒋介石総統の「怨みに報ゆるに徳を以て（もって）す」という基督教精神（汝の敵を愛せよ）によるものと考えられてきましたが、当時の状況からすれば、その精神だけで、そのような決断が成されたと考えるには無理があります。



▶蒋介石総統（出典※1）

蒋介石総統は、中華民国の父と呼ばれる孫文先生による辛亥革命＊では軍事部門を担当し、第一次国共合作＊では中国共産党と対日戦線を共闘することになります。その共闘戦線の中で、蒋介石総統は、ソ連を背後に毛沢東が率いてきた共産八路軍などの、言語に絶する醜悪な闘いを目撃してしまうのです。共産主義の非人間的な、神も人間の霊性をも完全に否定し、人間を動物と同一視して、動物的な欲望のままに蹂躙して虐殺する、無神論信仰の本質を見抜いてしまい、基督教信者であった蒋介石総統は、中国を絶対に共産化してはならないと決意を固くします。

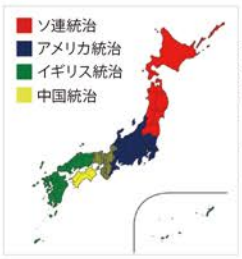
＊辛亥革命（しんがいかくめい）は、１９１１年から１９１２年にかけて、孫文率いる中国国民党により中国で発生した民主主義革命。この結果、中華民国が誕生

＊中国国民党と中国共産党が共に闘った抗日戦線

当時、米英仏連合軍はドイツを徹底降伏させるため、ソ連と密約を交わし、ドイツの背後からソ連が攻撃するという戦略で、ソ連の参戦を取り付けていました。その密約の条件は、ソ連が連合軍と共闘して5月までにドイツを降伏させれば、その代わりにソ連のアジア共産化を容認するという内容のものでした。その密約から外された蒋介石総統は直後にそれを知ることになります。国共合作を通して共産主義の恐るべき実態を知っていた蒋介石総統は、共産主義を中国に絶対に入れないために動き始めます。戦後処理体制の中で基督教国家であった米英仏を背景とし、韓国と共に、敵国であった日本を滅ぼさずに、逆に対ソ連対共産主義戦線に日本を組み込もうとします。それによって、アジア共産化を阻止しようとした蒋介石総統であったということを理解する必要があります。

◀ヤルタ会談（出典※2）

それ故、１９４５年5月までに日本が敗戦を受け入れていたならば、ソ連にアジア侵攻の機会を与えず、蒋介石総統は毛沢東に敗れる事（１９４８年8月～10月台湾に逃避）もなく、韓半島の分断（１９４８年9月北朝鮮樹立）もなかった事でしょう。自らの意に反してやむなく受け入れた第二次国共合作の中で日本と戦いながらも、密約を知っていた蒋介石総統は、ソ連のアジア侵攻を阻止しようとしました。そのために繆斌（みょうひん）を日本に送り込み、日本の国体護持、賠償金請求権放棄、日本分割論反対、日本の占領軍人の返還を条件に、一日も早い早期和平を日本政府に迫っていました。日本が「いつ」早期和平に踏み切るかという時期



◀日本分割図（出典※3）

の問題は、日本の命運のみでなく、1905年乙巳条約以来40年に亘って日韓併合された韓国と韓半島が、ソ連を背景とした共産主義者金日成によって分断されるかどうか、韓国の命運にも関わることでした。そういう理由から、当時、韓国の「金九先生を中心とする韓国の抗日臨時政府」が重慶を拠点に、日本から独立するために闘っていました。これらの方々も、アジアの共産化を阻止しようとする蒋介石総統の強力な後押しとなっていました。蒋介石総統ただひとり基督教精神で決断できることではなかったのです。

第三次世界大戦を長引かせた戦勝国家米英と容共思想

一方、ソ連は、米英との密約で獲得したアジア侵攻容認政策のもとで、中国と韓国、日本を共産化するためには、出来るだけ日本の降伏を延ばし中国戦線を長引かせようとしました。そのために、次々とスパイを送り込み、日本の政府や軍部に対して「中国軍は士気も低く日本軍が闘い続ければ必ず降伏する」とのデマ情報を流し続け、終戦を長引かせていたのです。

このようなソ連の工作とアジア侵攻を許した米英韓の基督教界と指導者の不明な容共政策の中、日本にも早期和平の道を模索する動きがあったにも拘わらず決断の時期が遅れ、日本の「終戦―無条件降伏」は8月15日まで延長されました。その結果、5月から8月までの間に沖縄で20万人の生命が失われ、広島、長崎に原爆が投下され、北方領土が奪われ、ソ連のアジア共産化が決定的に進む結果となりました。8月から10月の闘いで破れた蒋介石総統率いる国民党は台湾に追いやられ、ドイツ、韓半島は東西、南北に分断されました。共産・民主の戦いである第三次世界大戦は、戦後7年間で収拾されるべきところが、70年間、核戦争の危機を孕（はら）みつつ延長されてしまったのです。

◀キノコ雲（出典※4）

◀日本の降伏（出典※5）

第二次世界大戦が終結した1945年8月15日当時、米国で実施された青年達に対する世論調査では「80％以上の若者達が牧師になりたい」と回答し、精神的な価値が価値観の中心でした。すなわち、米国は1945年代にあってもなお、「より確かな神様の下の人権、平等、自由」を求め、生命を投げ出して大西洋の荒波を渡ってきた清教徒達の信仰の基準を、米国の伝統的な価値観として維持していました。この時期に、米国は神様の祝福を受けて国力が増し、世界経済の頂点に立ち、第二のローマと言われる国になっていきます。神を否定する共産主義とは極と極でした。従って、米国、英国などの戦勝国家や韓国の基督教界が、鋭く共産主義の本質を見抜いて戦前戦後体制に処していれば、第二次世界大戦後の世界は全く違ったものになっていたでしょう。ソ連にアジア侵攻の機会を与えず、共産中国は建国されず、韓半島の分断も起きず、北方領土も奪われることはなかったでしょう。逆に7年程で共産主義陣営は崩壊し、この時点で、戦勝国家である基督教国家群を基盤に、既に真の神主義、父母主義時代が到来していたことでしょう。

▼清教徒プリマスでの最初の感謝祭（出典※6）

ちょうど、2000年前、ユダヤ（イスラエル）民族がイエス様を救世主として迎え十字架に架けていなければ、当時ヘレニズム（人本主義）やヒューマニズム（人文主義）思想の頂点に立って腐敗堕落を極めていたローマは、生きたイエス様を迎え、イエス様を中心とする神主義（ヘブライズム）によって7年ぐらいで再生されていたでしょう。そしてそこからイエス様はインド、中国を経て北東アジアに神の国の旗を立てていたことでしょう。イエス様を十字架に架けたユダヤ（イスラエル）民族は、イエス様の予言通り70年後に国を追われ国のない流浪の民となりました。第二次大戦中もヒットラーによる600万人の犠牲者を出しながら、大戦後の1948年5月14日、米国の支援を受けてようやく国を回復しました。しかしながら、ユダヤ民族の不信仰が障壁となって救いを受けられなかった（異邦人としての）アラブの人々が持つユダヤ民族に対する内的な恨みは根深く、今日イスラム教の人々に相続されているのです。

マッカーサー占領政策の矛盾

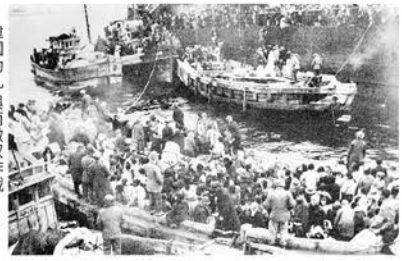
同様に、戦後の新しい時代の扉を開ける鍵を預かっていた戦勝国家、それも基督教国家群であった米国、英国、韓国の指導者が、歴史的な判断を誤ったのです。ベルリンの壁が築かれ、38度線が築かれました。この様な中で、米国のマッカーサーによる日本の占領政策が始まりました。

マッカーサー憲法が施行され、天皇陛下は象徴的存在とされ、武力は放棄させられ、武器の製造や軍事力の再興に繋がる技術開発はすべて放棄させられました。とりわけ、日本の精神的支柱であり国体の核心である国家神道の弱体化を計るため、共産党や共産主義が合法化されま

▶天皇とマッカーサー（出典※7）

した。（米国では共産党は非合法）このことが1970年代後半、日本の命運を決定的な危機に陥れる要因となりました。日本は、将来そういう事が起きるとも知らずに、日米安保条約（人によっては奴隷安保と表現）のもとで日本の安全保障を米国にまかせきりにし、吉田茂首相の指揮下、ひたすら生活必需品開発向上に向かって走り出したのです。しかしながら世界では世界共産化の闘いが更に激化し、真っ二つに分かれて第三次世界大戦が始まったのです。まず火を噴いたのが1950年6月25日の韓国動乱です。

ソ連を背景とする金日成が韓国に侵攻したのです。国連安保理にはソ連、中共という拒否権をもった常任理事国があるにも拘わらず、マッカーサーを最高司令官とする国連軍派遣が「奇跡的」に決議されました。16ヵ国が直接参戦し、5ヵ国が医療支援に回りました。韓国動乱には主にソ連、北朝鮮、中共軍、300万人が参戦し、国連と韓国軍、


▶韓国動乱 興南撤収作戦（出典※8）

300万人が対戦しました。3年間一進一退の戦争が続き300万人が犠牲となりました。マッカーサーはこの戦いに原子爆弾を使うべきだと言って解任され、「老兵は死なず、ただ消え去るのみ」という有名な言葉を残して去りました。後程、米国議会で「日本で共産党を合法化したのは間違いだった」と証言しました。

危機一発だったアジア共産化

こうして日本に、いわゆる矛盾に満ちた保守合同による「55年体制」が米国の後押しでつくられました。これは日本が、38度線を防衛する韓国の後方支援国家としての立場に立つという体制でした。この時点でも米国は、共産主義の真の脅威を知りませんでした。日本が英国の産業革命により発展した西欧の経済や技術を導入し、日本がただ単に豊かになれば共産主義は克服できると考えていました。例えば、38度線沿いに高層ビルを林立させ、たくさんの自動車を走らせれば北朝鮮は崩壊するだろうと、共産主義を甘く見ていたのです。米国では共産党や共産主義は禁止されています。それにも拘らず、当時の指導者の容共精神と容共的態度の故に、米国もソ連の間接侵略を受け、基督教思想は堕落し、ホモ、エイズ、ヒッピーが若者達の間に蔓延して、米国は道徳的退廃のどん底まで急速に落ちていきました。1961年に誕生したケネディ大統領のニューフロンティア政策は、ただ単に南米の人々を食い物にするためのものに過ぎませんでした。

韓国も北朝鮮の間接侵略を受けます。1960年には李承晩政権（李承晩は基督教信者）が倒れ、容共工作を受けた張勉内閣が発足するに及んで、韓国が共産化の淵に陥ろうとする間一髪の状況下の1961年5月16日、朴正熙少将以下40名の将校達が革命を興し、反共政権が樹立されます。米国は、さっそく、朴大統領に10年間頓挫していた「日韓基本条約」を無条件で締結するように薦め、「日韓基本条約」は1965年に締結されました。その頃、韓国にアジア反共連盟や国際勝共連合が結成され、更に蒋介石総統等と共に世界反共連盟が結成されました。1968年には日本にも同組織が岸信介元首相や笹川良一氏等の賛同を得て創設されました。これらの組織が、70年代に日本を覆い尽くした日本共産党（ソ連系共産主義）や社会党（中共、北朝鮮系共産主義）による日本共産化の危機、アジア共産革命の危機から日本とアジアを救うこととなるのです。70年代に入り、日本は万博開催や経済的な発展に酔いしれながら、その影で日本は日本共産化という未曾有の危機に陥っていったのです。

▶朴正熙少将（出典※9）

▶白骨街道（出典※10）

73年、74年、75年、アジアではベトナム、カンボジア、ラオスが次々と共産主義の手に落ちていきました。74年、大阪在住の在日朝鮮人文世光が8月15日の韓国光復節式典で朴正熙大統領令夫人陸英修女史を射殺しました。共産主義運動家の3分の2は関西を拠点として活動しており、京都府は28年間にわたり共産府政でした。当時、京都府警本部は京都府庁舎に入れられており、機密を守ることも難しい状況でした。日本では共産党も、共産主義過激派の上部組織である社会党も合法政党であり、70年代、日本の殆どの大学が共産主義運動の温床となりました。合法的であるために警察の力では日本の共産化を阻止することができませんでした。

アジアの共産化ドミノが今にも勃発しようとする寸前、国連が共産主義膨張に対して機能不全に陥っている時期に、世界の反共の砦であり世界の警察という立場にあった米国では、不運にも草の根ポピュリズム（大衆主義）を標榜する容共人権外交家ジミー・カーターが大統領に就任しました。彼の就任期間にイランが革命

され、中米は次々と反米左翼政権となっていきました。アラブ、アフリカにも共産政権が拡大されていきました。この時期、日本や韓国の勝共連合は、目前まで押し寄せる共産化ドミノを阻止するべく輝きを放ちました。このようにして第二次大戦後の世界は、整理できずに残した問題を引きずりながら70年代、80年代、米ソを中心とする民主・共産という第三次世界大戦のクライマックスに向かっていったのです。

Ⅱ ロシア革命とコミンテルン創設、スターリンの登場と世界共産化―第三次世界大戦

ロシア共産主義革命は第一次世界大戦（1914～1919年）の最中、1917年にレーニンの手によって起こされました。その後、コミンテルン（世界共産化組織）を創設しスターリンが登場します。スターリンによってこの共産主義革命はユーラシア大陸全域に拡大され、ソビエト社会主義連邦が成立し、20年代、30年代に世界共産化が進みました。そして、第二次世界大戦を通じて更に共産主義の拡大を許してしまい、戦後70年間にわたって共産・民主の世界的戦いが継続されてきました。すなわち第三次世界大戦という世界的構図をつくってしまったのです。

ローマンカトリック教会の堕落と共産主義の登場

14世紀、イタリア・ローマを中心とするローマンカトリック教会が腐敗堕落し形式化していく状況下、宗教によって抑圧された人間本性の欲望を満たそうと、「神様はもういらない」という立場でスタートしたのが文芸復興運動でした。この運動が1789年のフランス革命に発展し、神様とは関係ない、人間の人権を主張する「フランス人権宣言」を発表するに至りました。これが近代におけるヘレニズム（人本主義）運動の始まりです。これを土壌として共産主義が成長します。マルクスはドイツに住むユダヤ人一家の出身。父親はユダヤ教のラビで弁護士でした。ある時、基督教に改宗しないと弁護士の資格が剥奪されるという状況に立ち至った時、マルクスの父親は基督教への改宗を選択します。結局、宗教信念より食べていくための職業の方が大事であるという父親の姿を見て、マルクスは「宗教は飾り物、生活の土台の上に派生する上部構造」という思想を確立いたしました。食の平等という一点に全ての思想を集約し、神も死後の世界もなく、人間の価値を肉身が生きている間だけの価値に集約してしまいました。共産主義唯物弁証法、唯物史観がこのようにして確立されていきました。

◀ロシア革命（出典※11）

◀カールマルクス（出典※12）

マルクスは、経済学を得意とするエンゲルスを同志に入れ、各地で共産主義革命運動を興そうとしますが、ヨーロッパではことごとく弾圧され失敗しました。そのためこの運動は辺境の地ロシアに移動し、そこでレーニンの手によってマルクス・レーニン主義革命が起こされ、数え切れない犠牲者の血を代価として1917年11月7日、共産主権国家が初めてこの地上に誕生します。すぐにコミンテルンが結成され世界共産化に向かい、1922年12月30日、他の周辺共和国を統合しソ連邦が形成されます。そして、1924年、第二代書記長スターリンが就任すると同時にコミンテルンは更に強化され、本格的な世界共産化に向かって出発したのです。共産主義はマルクス・レーニン主義から、毛沢東の第三世界論に進化し、最終的には金日成の主体思想として確立し、世界同時革命理論に進化して、今まで世界中の若者に影響を与え続けました。

しかしながら革命の実態は恐るべきものでした。ソ連邦が成立するために行われた内戦、粛清、飢餓、集団化のための犠牲者の数は6600万人だと1997年に報道されています。大粛清についてWikipediaは「作家のマクシム・ゴーリキー、生物学者のニコライ・ヴァヴィロフのような文化人や学者も犠牲となった。日本共産党員も行方不明となった。（略）いずれも逮捕・処刑されていたことが判明している。大粛清の犠牲者数については諸説あるが、裁判により処刑されたものは約100万人、強制収容所や農業集団化により死亡した人数は一般的には約2000万人と知られている。1997年の文書の公開により、少なくとも約1260万人が殺されたことを現政府のロシアが公式に認めた。しかし、これは一部分であり、全ての文書の公開はされておらず、公開されるのはさらに時が経つのを待たなければならない。正確な犠牲者数は未だに不明である」と述べている。

◀ロシア革命（出典※13）

ヨーロッパで左右両陣営に大論争を巻き起こしたベストセラー、共産主義黒書（クルトワ・ヴェルト著 2001年）は「戦争と革命の世紀であった20世紀、ナチズムの犠牲者2500万人に対し、共産主義による犠牲者はソ連で約2000万人、中国で6500万人、全世界では合わせて1億人を数える」と述べている。

仏紙ル・フィガロ紙（1978年11月18日付）は「共産主義体制下での犠牲者数は、全世界で総計1億5000万人。その内訳は、ソ連が7000万人、中国が6700万人、カンボジアが300万人、その他が1000万人となっている」と推計している。

第一次、第二次、第三次世界大戦の意味

最近、戦争には善い戦争とか悪い戦争はない、戦争は全て悪いものだという人が多くなってきました。また、国と国、民族と民族、宗教と宗教、思想と思想の戦争など外的戦争に対して反対を掲げる人が多いのですが、闘いは家庭の中でもいつも存在します。根源的には、闘いは一人の人間の中でいつも存在しています。つまり心の欲望と体の欲望が闘っています。なぜ人間社会の中にはこのような闘争が存在するのでしょうか。事実、闘争は自分の中で、家庭内で、社会内で、氏族、民族、国家、世界のあらゆる段階で常に存在します。戦争をなくそうとするなら、まず自分や自分の家庭の中の闘争を収束させなければなりません。人類歴史は初めから善悪闘争の歴史でした。戦争はいつも、自分の方が正しいと言って主張することから始まります。いわば正義と正義、善と善との戦いでした。だから、日本が満州や東南アジアに出ていったのは侵略ではなく、アジアの植民地化を狙うイギリスやフランスから解放するために闘った解放戦争だったと主張される方もいるのです。

このようにみると戦争の歴史は家庭から始まり、氏族、民族、国家の規模に発展し、遂に世界的に発展する様になりました。そして、「より善」と「より悪」、「どちらかがより善」で「どちらかがより悪」かという立場で闘っています。第二次世界大戦でいえば、日独伊から成る全体主義国家群と米英仏から成る基督教国家群が闘いました。この2つの同盟関係を「より悪の側」「より善の側」ということができます。旧約聖書では、人類始祖アダムとエバの家庭でカインとアベルという兄弟が闘い、兄であるカインが弟であるアベルを嫉妬により殺してしまいます。人類は血統的にその性質を受け継いだと聖書は語ります。このことから、より悪の側に立つ性質をカインといい、より善の側に立つ性質をアベルといいます。従って、人類歴史は家庭、氏族、民族、国家、世界とその規模を拡大しながらカインとアベルの戦いが繰り返されてきたと考えることができます。「カインの性質」は、より攻撃的で、より外的、より自己中心的、問題の責任が相手の内にあると考える性質を持っています。一方、「アベルの性質」は、より受動的、防衛的、より内的、宗教的で、より相手の事情を理解してあげよう、自分の中にこそ争いの問題があるのではないかという立場をとる性質を持っています。

◀カインとアベル（出典※14）

◀アベルの死を嘆くアダムとイヴ（出典※15）

従って第三次世界大戦は、無神論的価値観に立つ共産主義陣営であるソ連・中共・北朝鮮がカイン的立場に立ち、有神論的価値観に立つ民主主義陣営である米国、日本、韓国がアベル的立場に立っているといえます。世界的次元の闘いでアベル陣営が最終的に勝利すれば、人類闘争歴史を最終的に収束することのできる条件が整うことになります。大戦は蘇生、長成、完成の三段階で展開されてきました。第一次世界大戦もアベル陣営の勝利で終り、第二次世界大戦も、問題を引きずりながらも辛うじてアベル陣営の勝利で終りました。第三次世界大戦も、戦後残した問題を解決し、アベル陣営の勝利を決すれば人類闘争歴史は収束し、新しい闘争のない人類一家族世界への転換が可能となってくるでしょう。

従って、アベル陣営の勝利を確保するためには、米国、日本、韓国等宗教国家・自由主義国家が、より強固に結束するための平和安保法制は絶対に「抑止力」として必要です。（無法な強盗は、対処された防備の前には無法を押し通すことを諦めざるをえません）

しかし、その後の世界―もはや強盗する必要のない世界、万民の願いである超宗教、超イデオロギー、超民族、超国家の豊かな平和世界を実現するためには、それにふさわしい思想が出現するか、あるいは構築されなければなりません。それは（共産主義の温床となった）これまでの民主主義ではなく、長く培われてきた東洋精神思想に基づく神様を中心としたところの「真の意味で万民を尊び生かす父母主義」、堕落以前のアダム・エバの立場に立つ真の父母主義でなければなりません。

ヘレニズムとヘブライズム思想

このように人類は善悪闘争の歴史と共に、神様がいるのかいないのかという宗教的哲学的観点で論争してきました。すなわち、より人間中心主義か、より神本位主義かで闘ってきました。人間は神様の創造物か、そうではなく動物から進化したものなのか、神様はおられず、人間は死後無に帰するのか、あるいは神様がおられ、人間は死後霊人体として永遠に生きるのか等、人類は歴史上、常にヘレニズム（人本主義）とヘブライズム（神本主義）の立場で、宗教的に思想的に闘ってきたのです。前述したアベル陣営が勝利することはヘブライズム（神本主義）の最終勝利を意味しています。

70年代から始まった米国での基督教復興運動と海洋趣味産業復興の意義―ロシア革命から70年（1987年）でソ連崩壊、2018年には中共・北朝鮮も崩壊

米国では、前述のように共産党は非合法であり大学で共産主義を教える事は禁じられています。しかし60年代に至ると、米国は、共産主義の間接侵略を受け容共化し、それまで米国の精神的支柱であった伝統的基督教価値観は根底から崩壊してしまいました。若者の中にエイズやホモ、ヒッピーが蔓延する社会に転落していったのです。シカゴでは、性教育と銘打って先生が教壇で生徒の前で淫行の実演をして見せたり、サンフランシスコ教育委員会では、小学校の教科書にレインボーエデュケーション（虹の教育）という項目で、ホモの家庭生活のあり方について教えていました。このような米国から神様は去ろうとしていました。

◀ロナルド・レーガン（出典※16）

こうした米国の精神的崩壊を回避し病める米国を救おうと、70年代初頭、多くの青年や牧師が立ちあがりました。米国全州で、マジソンスクエアガーデンで、ヤンキースタジアムで、ワシントン広場で、上下両院で、国連で、米国と世界の危機を訴える基督教復興運動が巻き起こりました。ワシントンタイムズもUPIも復活し、伝統的基督教の価値観に基づく新たな保守世論が形成されました。カーター大統領時代に決定的に左翼思潮一辺倒になり、厭戦気分が蔓延してしまった米国でしたが、レーガン大統領が立つことによって米国の世論は一変し、人々は米国の誇りと希望を取り戻し、神を否定する共産主義国家ソ連に対して断固たる姿勢を取り戻しました。米国は共産主義陣営を限界まで追い詰める闘いを始めました。

一方、17世紀、英国のピルグリム・ファーザーズ（清教徒達）は、より真実に、より強力に神様を礼拝することのできる自由の新天新地を求め、鱈（たら）釣り漁船でアメリカ大陸に渡って来ました。当初、清教徒達はロブスターや鱈を供えて感謝祭を捧げました。エリザベス一世が英国で開拓し、産業革命の原点となった海洋精神はしっかり携えて新天新地に渡ってきたはずの清教徒達でしたが、時間と共に、海を忘れ海洋精神をなくしてしまいました。第二次世界大戦後すでに容共化した米国では、海にも出ず、魚も食べずに、人々は牛や豚、鳥肉を食べ、感謝祭はターキーで祝うようになりました。海や魚（地中海文明・大西洋文明）を一切忘れた国民となってしまったのです。神様の性質、能力、創造性、科学性が最も投入され内包しているのは海です。その生命の海から全く離れて、安楽と安易を求め、富を貪り、道徳的退廃に明け暮れました。人権と自由は退廃の代名詞となりました。海洋思想、海洋精神の観点においても米国から神様が離れようとしていたのです。

▶エリザベス一世（出典※17）

しかし前述の70年代初頭から始まった基督教復興運動と連動して、1980年代に入り、米国の人々は急速に海に関心を持つようになりました。1986年になると米国は独自に200海里宣言を行い、海の浄化、海岸線、河川の浄化に乗り出しました。同時にボート製造と修理、スポーツボーティング、海釣りの振興を計りました。スポーツフィッシング業界はロビー活動を通じて、特定の漁民だけが従事する漁業より、全国民が趣味として参加する「スポーツフィッシングの振興」を計るようになりました。その方が、はるかに大きな規模の海洋産業を興す事になり、国益も大きくなる事をデータで説明していきました。その結果、米国は海洋政策に力を入れるようになり1994年には国連が国際海洋法を制定し、米国ではスポーツボート会社が毎年100社ずつ設立され、2004年頃には、1500社に増えていきました。

それ以降、米国の人々はフロリダの湿地帯や海岸線に競って移住し、そこで生活し魚介類を食べると健康になるという事に気づき始めました。海の持つ価値に目覚めたのです。米国の富の80％を握っている55才から65才までの人々の80％が海岸線に移動しボートを購入し、自由に海に出かける生活を送るようになりました。ボート会社も「陸の終りが生命の始まり」と宣伝し、海に生命があることを伝えながらボートを販売するようになりました。1994年以降、米国の産業の中で一番延びている産業の一つがボーティング産業です。1994年から2004年までの間に、米国人は10倍の魚を食べるようになりました。米国人は海を通して神様を取り戻し始めました。

Ⅲ 共産主義を真に超える運動は、神様を真に迎える海洋趣味産業構築運動

息たえだえの共産主義・民主主義と真の神主義・父母主義の登場

反共運動は共産主義運動に反対する運動ですが、勝共運動とは、実存される神様に対する絶対的信仰によって、無神論信仰である共産主義運動を超える闘いです。70年代中盤から後半に起きたアジア共産化ドミノ。その悲惨で無残な共産化の嵐が日本を襲おうとしたとき、この思想啓蒙運動は命懸けで日本を共産化から守りました。日本政府が法的には取締まることのできない共産革命運動を克服することが出来たのです。

一方、全ての人々が「生活の3分の2は海で生活する」という海洋趣味生活を送り、それを支える海洋趣味産業を発展させることは、神様を取り戻し、息たえだえの民主主義に代わって真の神主義、父母主義を取り戻す活動です。海を治理することによって飢餓を解決し、豊かな世界を実現することが可能であり、共産主義をも解決することができます。生きた神様を中心とする一大家族世界、すなわち神主義、父母主義を中心として、全ての人々が兄弟姉妹として共生共栄共義に生きる理想社会を建設することができるのです。

米国には共産党もなく共産主義もありませんが、1945年8月15日、第二次世界大戦以降、急速に米国から神様が離れ危機を迎えました。共産主義の間接侵略を受けたばかりでなく、人々が海での生活から離れていったからです。

文明発展の本質は海、産業革命の基盤も海

本来、西欧文明の本質は、宗教改革運動(プロテスタント)と基督教民主主義革命と連動しながら発展したところの地中海文明、大西洋文明を基盤とする「海洋文明」です。400年前、エリザベス一世は、バイキングやスペインの無敵艦隊から基督教民主主義革命を守るために海洋政策を強化しました。小学校から大学まで海洋教育を行い、勇猛果敢な人々から海に送り出し、海で自由に生きることのできる強力な人材を育てました。その結果、英国は産業革命を興し、七つの海に君臨する日の沈まない国となり、英国の言語と文化が世界の言語と文化になっていきました。そして、「海を制する者が世界を制する」という諺まで生み出したのです。

大西洋の北辺に浮かぶ小国に過ぎない英国が、なぜこのような海洋帝国になっていったのでしょうか。それは神様の創造性や科学性が最も投入されている海を活動舞台として活躍したからです。基督教民主主義革命を通して精神的に最も開かれた英国聖公会の人々が、海で自由に生きる力をつけるようになったため、人々は最も創造性豊かで科学性を持ち、霊肉五感が成長し、神様と一体化した高い文化文明を創っていったのです。海が産業革命の基盤になっていたのです。

英国で培われた海洋文明は大西洋文明です。その大西洋文明が米国に連結され、更に発展してきました。海を忘れかけていた米国人は、70年代より再び海に注目するようになり、80年代、90年代に、米国の海洋文明が蘇ってきました。英国をはじめとするヨーロッパ海洋文明の基準に戻ってきています。

しかし残念ながら、あらゆる努力にも拘わらず、米国はじめ西欧文明圏は、現在、道徳的退廃の極致に達しています。淪落と経済的堕落によって高い山にある石が谷底に落ちるように崩壊しつつあります。その石を受けとめる谷底が、長い間深い精神文化を培ってきた日本及び北東アジアです。この東洋精神が3・11東日本大震災の際に顕れ、この精神が世界を感動させました。

この21世紀新時代において、日本の全国民は海で自由に生きる力をつけ、世界に先駆けて海洋趣味産業を創出し、世界をリードすることのできる海洋趣味産業国家を創出しなければならない時を迎えています。世界で一番大きな海洋、太平洋に浮かぶ島国日本。日本は太平洋を舞台にして完成基準の海洋精神を開拓し、人類歴史上初の海洋趣味産業国家に発展すべきです。日本の繁栄と世界の恒久平和のために、海にその解決策を求めなければなりません。今がその時です。

Ⅳ 環太平洋時代の到来

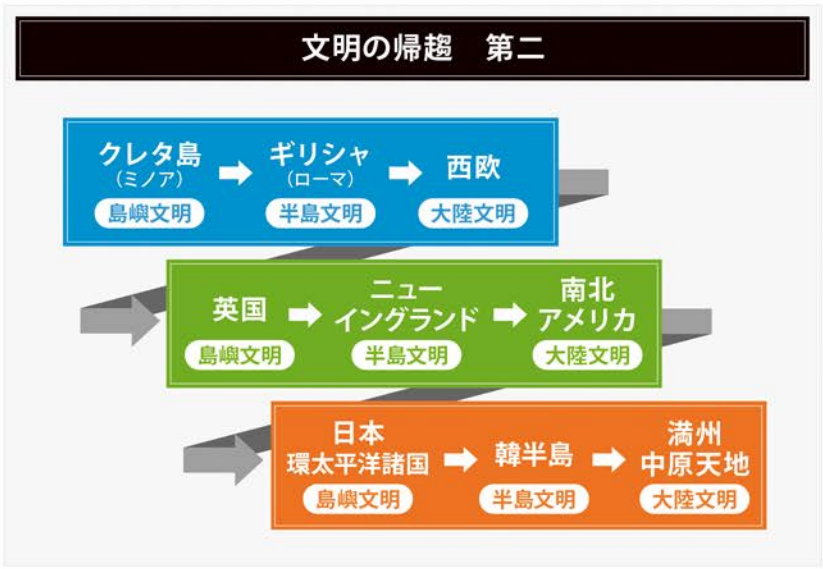
人類文明の変遷史と真の海洋文化文明の登場

人類文明の変遷史を見てみると、(旧約

聖書によると)エジプトの熱帯地方に住んだ人類始祖アダムとエバは、神の戒めを守らずに淫行で堕落し、彼らの子カインとアベルは対立闘争思想を持ち、兄カインが弟アベルを殺してしまいます。このように人類歴史は淫行と殺戮戦で出発いたしましたが、同時に彼らは海を嫌い、海は汚ない、臭い、危険、きついという意識を持ち、海から離れ、陸上で生活を営み、その結果、人類歴史は「堕落陸上文明」として出発しました。しかし人間の体の3分の2は水分で構成されており、大気には充分な水蒸気が必要であるため、水がなくては生きることができずナイルの川辺に住むようになり、河川文明を形成しました。

ところがもともと人間は、海水と同じ要素で構成されているお母さんの羊水の中で生命を得て、そこで十月十日(とつきとおか)成長し地上に誕生します。人間の体全体が海水に包まれており、人間の血液も、汗も、涙もみな塩水です。赤ちゃんが地上に誕生した時、まだ目も見えず耳も聞こえない生まれたばかりの時に、神様が準備していた、お母さんのお腹の中と同じ環境の延長として創造された海で3分の2の生活をスタートすれば、人間の頭脳と神経系統は100%成長し、人間は人間として完成するようになっていました。そのため、ナイルの川辺で生活していたエジプト人達は、人間と海水は切っても切り離せないことを悟り、地中海に進出するようになり、結果としてクレタ島に「ミノア文明」を創りました。このミノア文明が、ギリシャ文明をつくり、ローマ文明、地中海文明を創り出す母胎となりました。そして、この地中海文明が、基督教と共に英国に渡り、基督教民主主義革命と産業革命と連動しながら「大西洋海洋文明」を産み出したのです。この大西洋文明は、基督教に比べてより深い精神文明を持つ東洋精神に出会い、日本や韓国を中心とする「太平洋文明」として完成しなければならないのです。

戦後70年を迎えた2015年8月15日は、時代を画する重大な転換点です。18世紀に本格化したヘレニズム(人本主義)とヘブライズム(神本主義)に根拠をおく共産民主主義と基督教民主主義。それらが互いに対峙する両陣営時代は終焉に向かい、その後に、真の神主義、父母主義時代が登場いたします。8月15日はその時代に突入していく大転換の日です。人間だけがその本性を謳歌する時代から、実存される神様と共に人間がその本性を謳歌する時代が到来する日です。具体的には海を基盤とした「海洋精神に基づく海洋文化文明時代」が、人類の真の恒久平和を実現するために、これまでの地中海文明、大西洋文明に基づきながら、完成した「真の環太平洋文明」として登場いたします。海洋の世紀21世紀における、北東アジアを中心とする神様文明開闢時代の到来が本格化して参ります。海は神様の心情、生命、思想の根源です。従って、今後の世界は米中体制ではなく、日韓とパラグアイ体制が世界を率いる時代です。



世界的文化文明の両軸

環太平洋時代が到着する今日、南北格差が一番大きいのは米日とパラグアイ間です。北東アジアを中心に真の海洋文化文明時代が到着し、神主義、父母主義時代が到来する前に、その時代を迎えるための条件を整えておかなければなりません。それは南米問題です。文明の変遷史の裏側で、神様から離れ文明の光からとり残されてきたパラグアイを中心とするカトリック(旧教)の地南米を忘れてはなりません。プロテスタント(新教)の国米国は、環太平洋時代にシフトするにあたり、カトリックを中心とする南米

も共に抱いて来なければなりません。

奇しくもパラグアイ地域が、地球規模の人類一家族の文化文明を創出するにあたって、もう一つの文化文明の中心となるべきところです。パラグアイに住むグアラニー族も蒙古斑を持ち、日本人と同じ先祖を持つ精神性の深い人々です。満州平野（中原天地）と韓半島・日本を中心とする北東アジア海域と、パンタナール・パラグアイ・ウルグアイの領域が、神様を中心とする宇宙の中心である地球上に、人類一家族世界を創る文明の両軸です。

V 結論

中共、北朝鮮の限界期と再生

第二次世界大戦終戦当時、本来ならば第二次世界大戦直後に収束すべきであった共産主義勢力は、日本の終戦時期の遅れや戦勝国家米英仏韓など基督教国家の容共政策により、逆に韓半島を分断し、中国大陸に共産主義を拡大してしまいました。その状態で第三次世界大戦が始まりました。核兵器の登場により核兵器拡大競争を背景としながらも熱核戦争は出来ない中、共産・民主の思想戦を中心とする外交戦、経済戦、情報戦という総合戦、すなわち冷戦という形で展開しました。

そして、この人類歴史最終戦の帰趨は、やはり「70年は越えられないという原則」に従うことになります。1917年のロシア革命から70年目の1987年、ゴルバチョフ大統領がソ連にペレストロイカ（自由主義経済）を導入したことが契機となってソ連の崩壊が始まりました。続いて東欧共産圏が崩壊し、1989年11月10日にはベルリンの壁が崩壊し、遂に1991年12月25日、ソ連邦が崩壊しました。基本的にはこの時点から第三次世界大戦は収束期に入りました。残っている共産圏は38度線で分断された北朝鮮と中国です。

北朝鮮は1948年9月9日に樹立され、中国は1949年10月1日に樹立されました。蒋介石総統率いる国民党の敗北は1948年8月から10月までの期間に、英国と米国の容共政策によって決定的になりました。従って、これからの2～3年間、米日韓が一体化して防衛体制を維持すれば、北朝鮮と中国共産党は、2018年には成立後70年目を迎え、70年原則によって限界を迎えざるを得ません。それまでは、切れ目のない「抑止力」としての日米同盟と日本の集団的自衛権、平和安保法制は絶対に必要です。一方、基督教文明を代表するプロテスタントやカトリックも、2015年8月15日を迎える直前に、同性婚を合法化し容認するに至りました。人権という美名の下での道徳的淪落は頂点を極めています。経済的不条理は極点に達し、新自由主義や基督教民主主義は完全な崩壊期を迎えました。

戦後70年「2015年8月15日」の真の意味と「日本の役割」

2015年8月15日は1945年8月15日から70年目です。本来ならば戦後7年間で第三次世界大戦も終り、戦後すぐに到来するはずだった神主義時代、神様文明開闢時代、真の海洋趣味産業時代が、70年を経てようやく到来する時機を迎えました。民主主義時代から真の神主義・父母主義時代へ時代移行する時を迎えました。人類歴史が、対立、闘争、殺戮、戦争に満ちた堕落陸上文明時代から完全に脱却する時を迎えたのです。神様から離れ、親を失った孤児のように、苦難の歴史、彷徨の歴史を歩んできた人類が、人類共通の親である神様をはっきりと迎え、超宗教、超イデオロギー、超民族、超国家思想のもと、海洋文明を基盤に人類が一つの家族として生活をすることのできる時を迎えたのです。

▶オバマ大統領（出典※19）

◀法王（出典※20）

神主義の時代の文化文明は海に基盤をおく文明です。人類が待ちに待った自由と平等、平和と豊かさが溢れる理想世界は、真の環太平洋時代、海洋趣味産業時代の創出によって成されます。奇しくもその時代創出の鍵を握っているのが、この日本です。日本が英国に代わり、真の海洋文明、真の環太平洋文明を起こすことによって、それを成すことができます。ギリ

シャ文明やローマ文明の母胎となったクレタ島のミノア文明よりも、第二のローマ米国を育んだ英国の大西洋文明よりも、深く根ざした海洋精神によって、より深遠な環太平洋文明（真に海を制する海洋文明）を、日本が中心となり創り上げる時です。その力によって、パラグアイを再生し、韓国を再生し、世界を再生する時です。パラグアイ地域と北東アジアに持続発展可能で、格差のない、高い海洋精神文明に基づいた第三のローマを創出する時です。

奥妙な神様が顕現する時代は、人類が戦争も、道徳的退廃も、経済的不条理もなく、国境も取り払い、民族的対立も、宗教的対立もない人類一家族時代に到達する時代です。それが、真の意味での全権全能の神主義時代です。全ての人間が誰しも本来持っている、本然の人間性を回復し、神的価値を持つ希望の時代です。合議的中央集権制による共生共栄共義主義時代です。（奴隷労働ではなく自ら欲する）趣味労働を通して、喜びながら無限の生産性を上げることのできる本然の海洋趣味生活時代です。8月15日を期してこのような時代がこれから始まることでしょう。

（文責　編集部）

■画像出典元
※1 China Cetral Televisoin - cctv.com
※2 ヤルタ会談 - ja.wikipedia.org
※3 日本分割図 - ja.wikipedia.org
※4 キノコ雲 - ja.wikipedia.org
※5 1945年9月2日 USSミズーリ艦上 日本降伏文書に署名 重光葵外務大臣 - ja.wikipedia.org
※6 清教徒プリマスでの最初の感謝祭 Thanksgiving UnitedState - en.wikipedia.org
※7 天皇とマッカーサー - ja.wikipedia.org
※8 韓国動乱 興南撤収作戦 メレディス・ビクトリー号の奇跡 HUFFINGTON POST. - huffingtonpost.jp
※9 朴正熙 日韓基本条約 - ja.wikipedia.org
※10 白骨街道 映画キリングフィールドより - e-tsurezure.blog.so-net.ne.jp
※11 レーニン ロシア革命 - ja.wikipedia.org
※12 カールマルクス - ja.wikipedia.org
※13 ロシア革命 picturepast - www.free-dec.org.jpg
※14 カインとアベル - ja.wikipedia.org
※15 アベルの死を嘆くアダムとイヴ - ja.wikipedia.org
※16 ロナルドレーガン - ja.wikipedia.org
※17 エリザベス一世 - ja.wikipedia.org
※18 So-netブログ ona.blog.so-net.ne.jp
※19 オバマ大統領 Laughy - laughy.jp
※20 法王 Japan Press Network 47news - www.47news.jp

第二編

海があるから命がある

富山商船高等専門学校名誉教授　山崎 祐介

山崎祐介
やまざきゆうすけ

1941年　愛知県に生まれる。神戸商船大学商船学部航海学科卒。すぐに国際航路の船乗りから社会人生活を始め、約2年後に遭難。九死に一生を得て陸上に上がる。人間学、安全工学を勉強し、1998年船舶安全学を確立。2001年にインシデント（未然事故）研究により日本航海学会優秀論文賞受賞。2004年にインシデントに関する出版により住田海事・海事史奨励賞受賞。
研究業績等：主な著書8冊。国内外論文多数。甲種船長免状受有。
現状：富山商船高専名誉教授。海洋訓練教育協会顧問。富山平和大使オープンカレッジ学長。各種安全調査研究委員会委員長。安全・教育・環境等の講演等行う。現在の趣味は写真。海釣り。水泳。

はじめに

第一編「地球、人間の歴史概観」においては、宇宙の塵ともいえる小さな小さな地球上に現れた人間が急速に増え、地球の資源を後のことも考えず使い切り、環境を破壊しつつあること、150年前の産業革命以降、科学技術は発達したものの世界大戦、人口の爆発的増加、食糧・水飢饉、地球温暖化、資源枯渇の懸念が生じ、この危機を回避するには、海が大きなカギとなっていること、そして、人類や他の生き物は、同じ宇宙船地球号に乗り合わせた仲間ということ、生き物が住む地球表面は、保護が必要で華奢な存在ということ等を述べました。

本稿では、「海があるから生き物の命がある」ことについて述べます。

海の総面積は3億6000万平方kmで、地球上の表面の70・6％を占め、陸地の面積の2・4倍にもなります。平均の深さは3795mで、多くの海流があります。

私は、図2−1のように海の役割（機能）を考えています。海は、生物が生きていくうえで必要不可欠で、大きい役割を果たしています。海は、動植物の故郷であり、食糧基地（第七編、八編で詳述します）であり、生き物のすみかです。現在の推測では、地球上に約1000万種類以上もの生物がおり、陸上にすむ生物は約100万種類。生き物の9割は海の生物と言われています。まさに海は種類、量ともに生命の宝庫です。そして、地球環境調節システムの心臓という大役を担っています。海は、太陽熱を貯蔵し海流に乗せて運んで地球の気候を決め、蒸発により淡水を発生し、二酸化炭素を森林以上に吸収し、酸素をも森林以上に供給してくれています。海のおかげで、地球上の命の存続があります。しかし、海の自浄能力を超えた海洋汚染が進行中です。この原因は、人工のゴミや廃水等です。

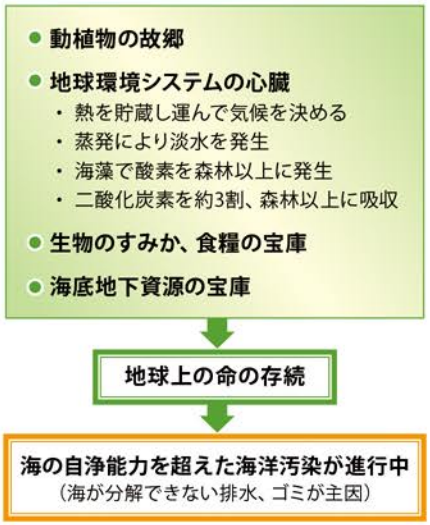


図2-1　海の役割（機能）

地球の気候を決める

海流は、太陽からの熱と風によって生まれた海水の動きに地球の自転が重なり合って向きを変えて出来た海水の流れです。海には太陽光が大量にそそがれていて、その熱エネルギーは海水に溜め込まれ、図2−2に見る、海流に乗って温度の低い海に流れていきます。

温かい海が熱くなりすぎないように、冷たい海を少しでも暖かくというように地球全体に熱エネルギーを送り出しているのです。このように、大気の大循環と並んで地球表面の気候を制御してくれているのです。

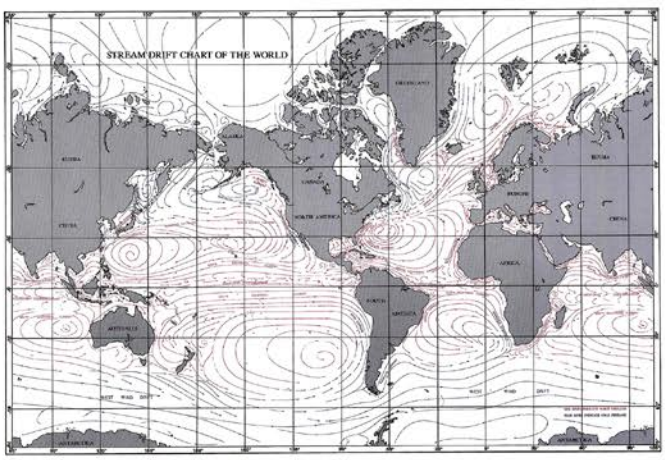


図2-2　世界の海流　Wikipedia Public domain

真水を供給

海にそそぐ太陽光による熱エネルギーは、海水の蒸発にも使われ、大気に水分を補給し、それが雲となって雨や雪（塩分を除いた真水）になり地上に降ってきます。動物はそれを飲み、植物はそれを根から吸って成長します。成長した植物の果実は動物の食糧になります。水がないと大変です。例えば、温帯に暮らす人間は3～5日水を飲まないと死んでしまいます。

炭酸ガスを吸収し、酸素を発生

地球温暖化による環境への影響が叫ばれ、地球温暖化と人類に仕業は関係ないとする理論を含めてその原因について種々の議論が行われています。しかし、現実に地球上でさまざまな変化が起こっているのは事実です。例えば、身近な日本の現状では、高温による農作物の被害、降水量の極端な増減、巨大台風の発生、昔とは違う雨の降り方（豪雨、集中豪雨）、熱中症患者の増加などを実感しています。

IPCC（Intergovernmental Panel on Climate Change 気候変動に関する政府間パネル）は2013年9月に、有効な対策が取られなかった場合、今世紀末に地球の平均気温が最大4・8℃上昇し、海水の熱膨張などにより海面水位は82cm上昇すると予測した第5次報告書を発表しました。さらに、人間の活動による炭酸ガスを初めとする温暖化ガスが温暖化の主要な原因である可能性を「極めて高い」（95％以上）と評価しています。

海は、人間の活動により大気中に放出された炭酸ガスの約30％を吸収していると言われています。（独）国立環境研究所地球環境研究センターによれば、過去10年程度の平均的な二酸化炭素の流れにおいて、化石燃料起源の炭酸ガスが毎年約260億トン排出され、大気中には毎年150億トン蓄積しています。この両者の差である約110億トンは、海洋（約75億トン）と陸上植物（約35億トン）が吸収しています。なお、海洋と陸上植物それぞれの吸収量の推定値には20億トンもの不確かさがあり、それらの推定精度を高めるための研究が続けられています。推定値で単純に計算すると、海が約30％、陸上の植物が約14％で、海は陸上の植物の約2倍の量の炭酸ガスを吸収してくれているのです。また、気象庁も、例えば、1971年から2010年までの40年間に地球全体で蓄積された熱エネルギーの9割以上は海洋に吸収され、地球温暖化の原因である人間活動によって放出された炭酸ガスの約3割を海洋が吸収して、大気中の炭酸ガスの濃度の上昇を抑えているとしています。

この海の機能に期待したいのですが、地球温暖化をはじめとする気候の変化が海の状態を変え、吸収の仕組みに変化をもたらす可能性があるという心配も伝えられています。

なお、昨年の英科学誌ネイチャー・ジオサイエンス（電子版）に掲載されたロイター時事によると、「世界の沿岸海域の海草は単位面積当たりで陸上の森林以上の二酸化炭素を吸収していることが分かった。海草が気候変動問題解決に一役買う可能性がある」とも言われています。

また、光合成が行われるのは陸上だけではなく、光合成に必要な太陽の光がとどく海面から70～80mの海中でも行われています。そこに漂っている植物プランクトンや海藻は、水と炭酸ガスの二酸化炭素成分を体の中に取り入れて、酸素の一部を海中へ放ち、地球上の酸素の約3分の2は海で作られているといいます。これは驚きです。（出所　例えば、日本海事広報協会）

母なる海

地球上の生命の起源について、現代の多くの科学者が研究しています。まだ、よくは分かっていないとしながらも、35～40億年前の熱水が噴き出す深海に、原始的なバクテリアが芽生え、進化の過程を経て、20万年前にヒトの存在があると言われています。

写真2-1　海辺で読書（山崎撮影）

母なる海の「うみ」という漢字は、「生み、産み」とも書くことができ、「人間は海で生まれた」ことを連想させます。詩人の三好達治は、「海よ、僕らの使う文字では、お前の中に母がいる。そして母よ、仏蘭西（フランス）人の言葉では、あなたの中に海がある」と言っています。フランス語で海はラ・メール、母はメールといいます。

「人間は海で生まれた」ことについて、ソ連の生化学者アレクサンドル・オパーリンの、1936年の論文「生命の起源」が支持され、現在の有名な説の一つとなっています。

地球が誕生してから6億年ほど経った頃（40億年前）、「海で生命が誕生した、海は動植物の故郷」と言われています。当時の地表は強い紫外線や荷電粒子が容赦なく降り注ぎ、生命にとっては致命的な環境でした。生命が存在できる環境は海中だけでした。もう少し詳しく説明しますと、地球の表面が冷えはじめたころ、地球で初めての有機化合物である、炭化水素が空気中に発生しました。やがて、この有機化合物は、雨にまじって原始の海へ入り、オパーリンが名付けたコアセルベートという、生命をもった小さな液のかたまりになりました。そして、コアセルベートは、ほかの物質と作用しあって単細胞の生物へと生まれかわっていったと言われています。

人間は水と無関係ではいられない

私たち人間の体は約60％が水です。例えば、血液90％、脳80％、網膜92％、新生児は80％と言われています。ですから、体重の1％の水不足で猛烈に喉が渇き、3％の水不足で脱水症状になり、3～5日間水を飲まないと死亡してしまいます。人間の血漿に含まれるミネラル成分のバランスは、海水のミネラル組成とそっくりと言われ、水に依存した生活がなされてきました。世界の四大文明（エジプト文明ではナイル川、メソポタミア文明ではチグリス・ユーフラテス川、インダス文明ではインダス川、黄河文明では黄河）の共通項は水でした。しかし、今、深刻な水飢饉が迫っています。このことについては、第七編　海の恵み―食糧問題（世界の食糧・水問題）―で述べます。

塩分も必要不可欠

海の中で命を育み進化してきた生物は、塩分が含まれた体液で身体を満たすことで、淡水や陸上で生きることができるようになったと言われています。体の中での塩のはたらきを簡単に示しますと次のとおりです。

- 細胞を正常に維持する
- 細胞と体液の間の圧力（浸透圧）のつりあいを調整
- 消化
- 胃酸や胆汁の成分、殺菌作用
- 腸で栄養素の分解や吸収を助ける
- 酸性、アルカリ性のPhバランスの維持
- 血液が酸性にならないで、一定の弱アルカリ性を保つ
- 脳からの神経伝達にナトリウムイオンが関係し、感覚や刺激、命令の伝達に重要な役目

それなのに海洋汚染

このようにさまざまで重要な役割を果たしている海が今、危機的状況にあると言われています。海が無かったら、または弱体化してしまったら地球上の生き物の命はありません。人間活動に伴って発生するゴミの投棄や化学物質による汚染が深刻化しています。昔から海はゴミ捨て場でもありました。

海には浄化作用があります。汚染が自然の力で浄化される働きで、自然はそれぞれ固有の自浄作用能力を有しています。しかし、一定以上に汚れると自浄作用が働かなくなり汚染されていきます。また、化学物質の中には自浄作用によって分解されないものもあります。今では海が自然に帰せないゴミを人間が無意識に海に捨てています。海の環境を悪化させることは、海が持つ多くの役割を失わせること、ひいては、私たち自身の未来を失わせることにもつながっているのです。

「海洋法に関する国際連合条約」では、海洋汚染の原因を次のように分類して規制を行い、海洋環境を守ろうとしています。

- 陸からの汚染（川等を通じて流入する工場、鉱山、家庭、農地から汚染物質）
- 海底資源探査や沿岸域の開発などの活動による生態系の破壊
- 汚染物質の海への流入、投棄による汚染
- 船舶からの汚染（船舶の運航による廃油・廃棄物の投棄、油流失事故）
- 酸性雨など大気を通じた汚染

写真2-2　漂着したゴミ（山崎撮影）

日本の海上環境関係法令には、「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」、「水質汚濁防止法」等の法律があります。海をきれいにしようと、海辺を守る多くの活動団体（小中学校の運動、県民運動、JF、いろいろなNPO、NGO、会社等）の活動がありますが、海岸のゴミは減っていません。掃除をする量よりも廃棄量が多いのです。

海に捨てたプラスチックごみ

世界の海では、毎年100万羽以上の海鳥と10万匹にのぼる哺乳動物やウミガメが、プラスチックなどをエサと間違えて食べたために死んでいるほか、プラスチックが分解されずにどんどん微細化しマイクロプラスチックになるため、海洋の食物連鎖の要となるプランクトンからもプラスチックが検出されていると言われています。（出所：Wired news 2004.6）マイクロプラスチックとは、漂流・漂着ごみのうち約7割を占めるプラスチックゴミが、海岸での紫外線や大きな温度差で劣化して海岸砂による摩耗など物理的な刺激によって次第に細片化していき、サイズが5mmを下回ったものを言います。

環境省（以下、同省）の最近の推計では、2013年度全国の漂着ごみの量は、31～58万トンで、個数では最も種類が多かったのはプラスチック類で6～9割を占めていたとのことです。

瀬戸内海沿岸海底ごみの調査では、回収した海底ごみの合計重量は約4・5トン、回収されたごみの種類としてはプラスチックが最も多いとのことです。

景観の悪化や、魚が食べて体内に取り込まれることによる人体への影響が懸念されています。同省は今年度から、日本近海で漂流したり、海底に堆積したりするごみの回収を支援する事業を始めます。ごみが岸に流れ着くのを待っていては遅く、海中にあるうちに回収するほうが効率的で浄化効果も高いので、底引き網等で集めるこ

などを想定しているとのことです。

海洋の酸性化

気象庁や東邦大学理学部によると、海洋では既に海水の酸性化が始まっていると言われています。「海洋の酸性化」とは、大気中の二酸化炭素濃度が増加すると海洋中に溶け込む二酸化炭素の量も増加して海が酸性化することを言います。

海洋酸性化は、二酸化炭素吸収能力の低下のほか、多くの海洋の生態系に深刻な影響を及ぼす怖れがあります。海洋酸性化の進行によって食物連鎖の下位に属する植物プランクトンや小さな動物プランクトンが生息、繁殖しにくい環境になってしまうと、上位に属する生物にも影響が及ぶ可能性があります。この結果として水産資源等への影響が懸念されます。なぜ、海が酸性化するのかについては、原因は明らかです。産業革命が始まって以来、石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料が大量に燃やされ、森林伐採が進み、超多量の二酸化炭素が排出され、大気と海に排出されたガスは、まずは浅いところに広がり、ガスは海流に乗って、何百年もかけて深海まで運ばれます。海はどれくらい酸性化しているかについては、これまでに海洋の表層水の酸性度は30％増加していると推定されています(IPCC. 2013)。そして、このまま二酸化炭素の排出が続けば、２１００年には、１８００年と比べて１５０％も酸性度が強まることになります。

１･５倍にもなる海洋酸性化を元に戻すことは一般的にできないと言われています。私たち人間が「どうしたら海洋酸性化を防ぐ、つまり二酸化炭素排出を抑えるか」を真剣に考え実行しなければならないのです。

２０１１東日本大震災で海が嫌いになった?

よく、海が好きか、山が好きかというアンケートがありますが、それに比べて究極的な内容ともいえる情報を探しました。東日本大震災の津波による深刻で悲しい被害が数多くありました。その後で、インターネットに投稿された、海に関するみなさんのご意見のなかで、注目に値すると思ったものを三つだけピックアップしましたので、紹介します。

・「島国の民が海に背を向けたり敵視したりしては絶対にいけない。うまく付き合う術を、身につけないと」

・「海が多くの人の大切な命を奪って行ってしまった。・・でも海が悪いんじゃないです。海が今まで文句を言った事がありますか?今まで、海を汚し続けていたのは人間ですし、都合のいいように海を作り変えていたのも人間です。魚だって、海藻だって、塩だって、海は恵んでくれていました。文句も言わず。それに水だって。

・・人間は海とのかかわりなしでは生きていけない生き物なのです。だから、僕は海から逃げ出すのはやめにしました。嫌いになるのもやめました」

・「大震災によって海を見るのも嫌になった方はたくさんいると思うし、当然の事だとも思うし、尊重もしたい。でも俺は、海が今までに与えてくれた恩恵から背を向けたくない」

写真2-3　はるか昔から繰り返される自然の光景（山崎撮影）

この他に海の機能として、大きいのは浮力で、物を浮かばせる力です。このおかげで省エネルギーの海上国際物流が行えるのです。詳細は第九編　海の恵み―海運―(浮力がもたらした世界流通としての海運、現在の日本の海運)で述べます。また、海底地下資源、海洋エネルギー資源については、第五編　海の恵み―海底地下資源―、第六編　海の恵み―海洋自然エネルギー―で述べます。

あとがき

前述したように、海は、「地球の気候を決めています」、「真水を供給してくれています」、「二酸化炭素を吸収し、酸素をも供給してくれています」まさに「生き物にとって母のような存在」です。逆に言えば、人間や地球上の他の生物は、このような環境でないと、生きられない生き物なのです。

２０１５年７月、宇宙飛行士の油井亀美也(ゆいきみや)氏は、国際宇宙ステーション(地上４００ｋｍ)において、「地球がきれいで、言葉がないくらい」と話しました。しかし、人間は、この素晴らしい生存環境を保全しなければ生き続けることはできないのです。人間はそれを実行出来るでしょうか。今まで人間が地球上で行ってきた良くないこと(戦争、乱獲、生産を優先するがあまりの自然破壊等)を考え併せると、その原因は、人間の欲望(食欲、財欲、色欲、名誉欲等)が人間の行動を決める精神構造の底に横たわっているからだと思います。人間とは一体何者なのでしょうか。価値観を変えることによって欲の程度や質が変化することに関連したいろんな説や教えがありますが、果たして、人間は自身の欲望のコントロールはできるのかと心配してしまいます。

最後に、海洋真時代(この雑誌)は一般向けに、人類にとって最後のフロンティアともいうべき海を焦点として扱っています。このような雑誌は他に多くはありません。是非、貴方の友人・知人にも購読をお勧めされると良いと思います。次回は第三編　自然と人間の関係(人間の自然観)について述べます。(了)

猪狩達夫
いかり　たつお

株式会社イカリ設計　代表取締役
一級建築士　東京都第67696号

■専門分野
戸建て住宅をはじめ、集合戸建て住宅等集合形式の住宅地からまちなみ計画、まちづくり諸企画設計にいたる関連各種建築等の調査、計画設計及び監理業務を行う。また平成元年より都市プランナーとして、海・川のプロジェクトを行う。

■略歴
昭和10年　東京都世田谷区生まれ
昭和34年　早稲田大学理工学部建築学科卒
昭和34年～菊竹清訓建築設計事務所
昭和41年　トロント大学建築学部大学院修了（アーバンデザイン専攻）
昭和41年～プロジェクトプランニング都市設計事務所（トロント・ロンドン事務所）
昭和43年～㈱市浦都市開発建築コンサルタンツ
昭和48年　㈱イカリ設計設立　代表取締役
昭和48年～関西大学工学部建築学科非常勤講師
昭和59年～早稲田大学理工学部建築学科非常勤講師
平成元年～北九州市紫川周辺地区都市プランナー
平成5年　㈳大都市圏研究開発協会人間環境研究所長
平成10年～E&Gアカデミー東京校学長・現顧問
平成11年～隅田川市民交流実行委員会　副会長
平成14年～早稲田大学理工学総合研究センター九州研究所講師
平成15年～NPO小石川後楽園庭園保存会　理事
平成25年～全日本美術協会　委員

■所属団体
㈳日本建築学会　会員

■受賞等
昭和37年　日本建築学会全国設計競技「ガレージビル」入選（2等1席）
昭和58年　㈳東京都建築士事務所協会コア東京論文賞受賞「まちづくり建築士の提案」
平成12年　兵庫県「第2回人間サイズまちづくり賞」受賞（まちなみ景観部門）
平成24年「美術の杜」賞（水墨画・全日本美術協会）

■著作・刊行物
ヨーロッパ自動車の旅（自陵社刊・共著）／地域・地区総合デザインの手法と実際（建築知識特集号）／タウンハウスの計画技法（彰国社刊・共著）／戸建て集合住宅による街づくり手法（彰国社刊・共著）／エクステリア・ガーデン用語辞典（彰国社刊・総合監修）／イラストによるエクステリアデザインのポイント（彰国社刊・共著）

はじめに

私は、この度の震災復興「島おこし」の宮城県石巻市田代島プロジェクトに至るまでの人生79年をふりかえってみると、どうやら、すべて「田代島世界海洋村づくり」の伏線（いわばすべて準備段階）だったように思えてなりません。それは「①子供時代の『海と私』②海上都市建築家菊竹清訓との出会い③カナダ修学後のヨーロッパキャンプ旅行で世界の人々との交歓④イカリ設計・日本にタウンハウス導入の仕事⑤ガーデンスクールE&Gアカデミーでの人材養成の18年」の5段階に分かれます。3・11東日本大震災復興プロジェクトをふまえ、昨年11月より「世界海洋村第1号―田代島」をスタートしました。以下に、そのエピソードを混じえ、順不同に概略をご紹介します。

子供時代の海

私の「海」の思い出は6才～9才の頃、縁故疎開で静岡県庵原郡興津（現静岡市興津町）に戦中戦後の3年半、興津海岸とおきつ川河口部の、ある知人紹介の農家の離れ家で過ごしたときの「海の記憶」が忘れられない。当時、小学校から帰るとそのまま近くの海岸（駿河湾）か、河口近くの川に土地ッ子達に連れられ、日没まで水遊びをした。川底を箱メガネで雑魚（ザッコ）を追いかけ、手づくりのモリで突く。何度も溺れかけて、漸く泳ぎを覚えたものだ。4人兄弟の末っ子だったから、当時典型的教育ママだった母は放任してくれ、私のことを「自然人のタッちゃん」と呼称した。どうやらこの時期に基礎体力が出来たのか、8年前かかった難病を切り抜けて来た。母に感謝である。私の「海好き人間」は、そこに始まり、その後、夢は長じて「海外」へと飛ぶ。

ヨーロッパ人は海好き人間！

私は大学卒業設計で「海上都市」をやったのが縁で、海上都市の世界的建築家菊竹清訓の弟子となり、1967年カナダ留学後、英国を皮切りに半年間、車で西ヨーロッパ一周23ヶ国2万キロのキャンプ旅行を妻と共に挙行した。この時、正に実感したのが「ヨーロッパ人たちは旅好きで『海好き人間』ばかり」だということだ。私たち夫婦はテントを張るキャンプ場を毎日のように変えて移動するのだが、その度ごとに飲み歌い、そして「また会おう！」と握手を交わす。私たちは、23ヶ国80ヶ所位のキャンプ場に泊まった。

▲ミュンヘンのキャンプ場

西ヨーロッパ

▼ヨーロッパのキャンプ場マップ

にはキャンプ場が3万ヶ所位あり、キャンピングマップに載っていてサインで誘導してくれる。中でも、地中海、エーゲ海、そしてアドリア海などの海浜部には、複合マリーナ付きキャンプ場がびっしりとあり、それらが正にヨーロッパ人たちの「あこがれのキャンプ場」なのだ。そこに3週間～1ヶ月もの間滞在する人も多い。北欧、英国など北ヨーロッパの冬は寒く、日は短い。いきおい夏を思い切り楽しむ。フランスなどは、国営事業としてスペイン寄り地中海沿岸に大リゾート地を40年前に開発し（ラングドックルシヨン/地中海）、パリから大移動するという具合。それには暖かい「海辺」が不可欠となる。私たちも、スペイン地中海岸のコスタデルソルで泳ぎ、めいっぱい海を満喫するなど、彼らのペースにすっかり浸りきって旅を続けたのだった。半年ツアーで描いたスケッチは大判F6で100枚となった。

「タウンハウス」を日本に―ライフワークⅠ

私は、カナダのトロントで2年半、英国のロンドンで1年弱生活し、仕事も住宅、キャンパス、リゾート計画とさまざまだったが、私が着目したのは、連棟式（長屋型）の住宅、即ちタウンハウスであった。帰国後、市浦都市開発建築コンサルタンツ大阪事務所で4年半、ニュータウン都市設計の仕事をした後、1972年に港区六本木で独立。

当初、私の仕事は全国のオートキャンプ場の全国調査の仕事だったが、国の住宅政策として「都市型住宅」2×4タウンハウスを普及させようと、横浜市港南区に公庫モデルタウンハウス「港南ファミリオ」を建設し、そこに早速入居。そこで5年間、子育てしつつ（当時娘は3才）「タウンハウス居住体験記」を専門誌に連載するなどPRした。それが、専門書著名出版社の目にとまり、共著だが「タウンハウスの計画技法」というマニュアル本も出版された。当時の国交省に「タウンハウス研究会」が発足。私は委員に抜擢され、その時の担当係長が現首相補佐官の和泉洋人氏である。和泉氏には、住宅局長後の内閣官房時代から、今進行中の「LAS&RISM仙台松島・新海の駅プロジェクト」を支援して戴いている。

▼菊竹清訓先生ご夫妻と共にトロントにて

▼東京五輪ポスターを背に

国のアト押しがあったにも拘わらず、個人所有欲のつよい日本人に「連棟」が合わなかったのか、2年間で計画案10地区、実施2地区のみでイカリ設計の仕事は、軒を離した「共有地つき戸建てタウンハウス」にシフト。公団、公社、大手不動産会社が当時のアーバンスプロールに合わせ「街なみ重視型住宅地」が時流に乗り、結果としてそれから5～6年間「戸建て集合住宅による街づくり手法」（彰国社刊で仕事紹介）が続いた。2000年に兵庫県川西市に計画設計した「グリーンエステート日生中央」（30戸）で知事賞「人間サイズのまちづくり賞」を戴いた。

「エクステリアスクール」で街なみ庭づくり教育を―ライフワークⅡ

18年前の1997年も年の瀬だった。その頃、私の案内で国内、北米、ヨーロッパに街なみツアーに出かけた関西造園グループの一人堀田清光氏（EX.CAD-RIX主宰）から「今度日本初のエクステリアガーデン専門学校を創設したいが、その初代学長になって欲しい」という依頼が突然あった。それも4ヶ月後の来春からという。私は固辞したものの、結局引き受ける羽目となり、急遽建築家の松枝雅子先生はじめ各専門分野のエキスパートを10人ほど集めた。堀田氏は6年前に亡くなられたが、今も、その先生方に殆ど全員頑張って戴き、アッという間に18年、気が付けば卒業生が全国に400人を越えた。南青山に本校があり、市内北区太融寺の大阪分校は来年再開校の予定。一年間、実習を中心とした、学生にはかなり厳しいカリキュラムを組み、私は前期の街なみ見学ツアーと「街並み学」を講義。またOB会顧問を務める。横浜港南区のタウンハウスで育った私の一人娘も当校の2期生で今、3才の女児の子育て中にも拘わらず、結構、外注ガーデン設計を引受けこなしているようだ。

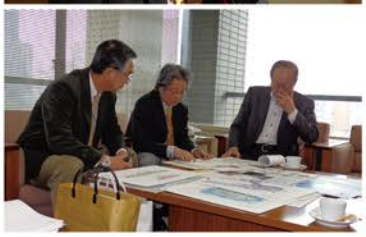
▲水上スキーを楽しむ筆者　オンタリオ湖にて

「3・11被災地東北」に海洋都市づくりを―ライフワークⅢ―紫川から奥松島宮戸そして愈々「石巻田代島世界海洋村」構想実現

50余年前、世界的海上都市建築家菊竹清訓の門を叩き、弟子入りし、4年後カナダ留学。その後、欧州回りで帰国。独立後16年目の1988年、恩師からの推

薦で、元北九州市市長・末吉興一氏肝入りのマイタウン・マイリバー事業／紫川周辺地区整備計画「都市プランナー」に任命された。事実上、今回の海洋都市づくりのスタートは27年前ということになる。菊竹先生は4年前の2011年12月に急逝された。その9ヶ月前の3月11日に東日本大震災が起こったのである。

2012年の3月頃、NPO法人世界平和海洋訓練教育協会主催による6月30日砂防会館シェーンバッハ・サボーで開催予定の「東北大震災復興支援緊急特別講演会」の講演依頼が、旧友の平野直樹氏（兵庫県三木市）からあったのが、当プロジェクトに私が足を突っ込んだ抑々（そもそも）である。その半年前の11年9月頃、スマートアイランド研究会が発足。私はオブザーバーとして、研究会に参加したのだが、そこでの出会いが、前述の6・30砂防会館での講演会で、「LAS&RISM仙台松島・新海の駅プロジェクト」を共同発表することとなる遠藤和男氏である。遠藤氏は、赤道直下に20平方km・10万人規模の海上都市を計画提案し、菊竹先生の賛同を受け薫陶を受けた。それは先生が他界される半年前のことであった。遠藤氏と私は、まず、巨大地震に備え自走式支援基地の洋上観光基地JSSK（大型三胴船）を塩釜沖に配置することを決め、塩釜を「モデル災害支援基地」として策定。そしてその受け入れ港として津波被害をうけた奥松島宮戸を「世界海洋村」として選び、地元住民の理解に基づき、即計画を実行に移していった。（2014年4月21日L/D誌99号発表）



しかしながら、何度も県各課に足を運び、同意を得たものの、2014年5月頃、計画遂行が難しい状況に立ち至った。なぜなら県主導による復興政策は（地元の願望に反し）津波浸食エリアはすべて元通りに畑地に復し、「大農法による農地経営」を始めることであった。既にその政策が着手されつつあり、加えて諸般の事情もあったからだ。

そのような中、東北復興のために2011年震災直後より準備してきた石巻ボート工場で、2014年10月に東北復興第1号ボートが完成。当初は石巻市門脇町で建造を進め、その後移転して北上川河口中瀬マリーナで完成した。10月14日に完成第1号ボート「ET180 Good Goボート」（18フィートのスポーツフィッシングボート）の進水式が行われ、それが契機となって後日菅原秀幸石巻副市長に会うことになった。その時、副市長に、石巻湾沿岸地域に「観光産業開発のための5万坪の土地を確保し、そこに海洋観光趣味産業基地を展開する計画」を提示したところ、何と菅原副市長はその計画を歓迎し、石巻湾にある離島、田代島と網地島2島をその候補地として示唆し推薦されたという。当時、石巻市の海岸線に沿った土地はすべて、東北600kmの巨大防潮堤建設計画に組み込まれており、観光基地として使える海岸線の土地は皆無に等しく、田代島と網地島がその候補地として挙げられたのである。そこで私たちは早速、田代島を選び精査を開始しつつある。

田代島こそ「世界海洋村第1号」にふさわしい夢の島

計画概要は既に海洋真時代第2号16～19ページに掲載しているので重複は避けたいが、最近、2度に亘り現地を訪れ、仁斗田と大泊にそれぞれ一泊し、島内を車で一周し概観した。島周囲は両地区の2港エリア以外は殆ど切り立った崖だが、おおむね高さ10m～20m。透明度の高い海に囲まれ、地形が低い丘陵状なので、実に「美しい島型」をしている。曲線の美しい、タブ林とヤマユリの花が多い島という印象だった。大泊港周辺部も仁斗田港周辺部もそれぞれ「絵になる」素晴らしいリゾート環境である。

早速スケッチしながら候補地をチェックし始める。人口83人で猫130匹という当島には、流石に「ネコの群れ」があちこちにいる。島上部2地区のほぼ中央にある有名な猫神社にも猫が待ちかまえていた。何といっても石巻市出身のマンガ王石森章太郎が「ここに生涯の住家を」と惚れ込んだ場所（現在、市立「マンガアイランドキャンプ場」となっている）は、港からやや離れているが絶好のシーンが望める。この島は「猫王国」であり「マンガ王国」なのである。私の「海洋都市イメージ」は仁斗田港地区と大泊地区を幅員平均15mのブリッジを渡し、2つの広場公園をとって、1つは島崖上の避難広場・みんなの家と斜路で結ぶ。そ

のブリッジの周囲に、フィッシャーマンズワーフ、ボート工場、水産加工場、各種店舗等を浮体構造で浮かべる。そしてそのブリッジと崖の間に出来る水路は伊達政宗公生涯の堀「貞山堀」と名付け、和船を漕行。中間広場にはシンボル「弦月兜モニュメント」を、そして、今一つの広場には、伊達家家紋の九曜マークで型どったアクアドーム（多目的海洋複合施設）を建てる。これら伊達家の3点セットで完成を図り、東日本復興への全国アピールを図る。

なお建設計画の際、大泊・仁斗田2港を結ぶライン沖が貴重な地域資源の「かき養殖場」となっており、かきの生産に差支えない様、慎重にブリッジ及び連なる諸施設建設計画を立てる必要がある。

また、田代島に連なる網地島（人口383人）は、4km余しか離れていない。二つの島はいわば「双子島」である。お互いに島同士の緊密な連携を保つことを考慮し、田代島が「世界のネコ島・マンガ島そして日本で数少ない海洋村」として、世の話題が集中する一方で、網地島においても、石巻随一最大のビーチ・マリーナ（新設）計画も推し進め、網地島を今回の田代島プロジェクトに是非とも含めたい。私は、大泊・仁斗田両地区周辺と島上部のプチホテル民宿と観光施設整備に3年、2地区をつなぐブリッジと「みんなの家」造り他の建設に3年、計6年でほぼ完成し、東京オリンピック時には万全を期し、世界に向けて発信できると考えている。（了）

▲北九州市 紫川（小倉北区）

PR

PR

PR

- Light of History -
歴史の光

海洋國日本の礎を築いた 海人安曇族

安曇族の本拠地 志賀島

環太平洋の温帯圏の中で極東に位置し、南からは黒潮、対馬海流、北からはリマン海流、親潮が列島を囲むように巡り、およそ7000の島から成り立っている麗しい国日本。この国は世界に類例を見ない数奇な歴史を辿ってきました。戦後70年を迎え、世界から期待を受けているこの国が、今後どのような国の姿をもって、世界の平和と繁栄に貢献していくべきでしょうか。その答えを求めるために、古代日本史の中で、壮大蒼茫（そうぼう）な四海を舞台に、大車輪の活躍を繰り広げた海人安曇族（あづみぞく）の歩みを共に訪ねてみましょう。

安曇族は、紀元前5世紀から紀元8世紀までの1200年間、北九州を中心に極東アジアの海域で活躍した海人一族です。大海原で生き、水軍、交易船、漁船として船団を操り、時には古代政権の中枢部で天皇に仕えながら、古代日本史に光を放ちました。

安曇族の本拠地は、現在の福岡県福岡市東区志賀島。安曇をアヅミ（またはアズミ）と読みます。アヅミは、綿津見神の「ワター ツー ウミ」から、「ワタとウミ」が重なって「アヅミ」と発音するようになったといいます。韓国語で海はパダと発音し、パダとワタは語源的に同じで、このワタに日本語のウミを重ねたことに由来するともいいます。阿ノ安曇族の出自（出身地）については、中国長江の河口に3世紀頃建国された「呉」という説があります。しかし、語源的な根拠や当時の日本と朝鮮半島との緊密な関係から考えると、安曇族は朝鮮半島からの渡来人という説が有力なようです。

安曇族の本拠地である志賀島は、古代日本の玄関口、博多湾の入口に位置する周囲11kmの島。島の位置自体が、交易のためであれ戦闘のためであ

▲志賀海神社

▲志賀島

れ、最も優位なところに本拠地を置き、周辺の水域に睨みをきかせながら活躍した、安曇族の軌跡を物語っています。博多湾自体、大自然がつくった巨大マリーナです。湾を両手で包むかのように海の中道が伸びて岬となり、岬の先端にあたる西戸崎から伸びる砂州を渡った処に志賀島があります。現在、砂州は舗装され車で行くことができますが、博多港から「きんいん」という名前のフェリーも往復しています。かの有名な「漢委奴国王印」がここ志賀島で発掘されており、志賀島は古代ロマンが詰まった島なのです。

秋立つ頃、筆者は志賀海神社を訪れてみました。博多駅から香椎駅で海の中道線に乗り換え西戸崎駅で下車すると、すぐに志賀海神社です。海風通う丘陵の森に守られた神社は静謐に包まれ、昔ながらの素朴な神社の面影を湛えています。お清めの砂で清め、鳥居までの20段を登ると、万葉集の和歌、「ちはやぶる 鐘の岬を過ぎぬとも われは忘れじ 志賀の皇神（すめがみ）」と刻んだ石碑や、高麗時代の石造りの宝塔が迎えてくれました。緑の参道を潮騒を感じながら進むにつれ、古代人の祈りと営みへ回帰していきます。海はこんもりとした森林に遮られて見えないのですが、魂を洗うひと時、渡ってくる海風を肌に感じつつ山門に向かって歩を進めました。静けさそのものの空間です。

綿津見神（わたつみのかみ）を祖神とする神裔（しんえい）安曇族

神社の御由緒書きには、「古来、玄界灘に臨む交通の要衝として聖域視されていた志賀島に鎮座し『龍の都』『海神の総本社』と称えられ、海の守護神として篤く信仰されている。御祭神は、伊邪那岐命（いざなぎのみこと）が筑紫の日向の橘（たちばな）の小戸の阿波岐原において禊祓（みそぎはらい）をされた際に、住吉三神と共に御出現された綿津見（わたつみ）三神で、神裔阿曇族（しんえいあずみぞく）によって奉斎（ほうさい）されている。御祭神が禊祓で御出現された神であることから、不浄を特に嫌い、諸々の穢（けがれ）・厄（やく）・災（わざわい）・罪をはらい清め、また、海の主宰神であることから水と塩を支配し、私達の生活の豊凶をも左右する御神威を顕現（けんげん）されている」と記されています。

今年は古事記が編纂されてから1303年。綿津見神の御子が穂高見命（ほたかみのみこと）であり、穂高見命は安曇族の祖神であると系譜に明記されています。志賀海神社は海の神である綿津見三神／仲津綿津見神・底津綿津見神・表津綿津見神を祭祀しており、万葉の昔から「海上守護の神」として信仰されており、今日まで代々、阿曇姓の宮司が奉斎しています。前述の境内にあった万葉の和歌、「ちはやぶる 鐘の岬」は「航海の難所である鐘の岬を過ぎたとしても、わたしは海路の無事をお願いした志賀の神様を忘れません」という意味。日本海を通って都へ行き来する古代の官人にとって、冬の荒天、夏の暴風から航海の安全を願い、祈りを捧げる志賀海神社の神は、今よりももっと身近なものであったに違いありません。

志賀海神社を訪れたその日、本殿で参拝し瞑目していると朗々とした祝詞の声が聞こえてきました。目をあけてみると参拝客は誰もおらず、阿曇姓を受け継ぐ若き宮司が、神棚の前で歴史とともに受け継がれた祝詞をあげていたのです。後で聞くと、宮司は決まって毎朝9時と夕方4時には、本殿をはじめ境内に鎮座する社殿にお参りするのが日課だそうです。二匹の亀石のある遥拝所で海に向かって祈る姿が心に強く焼き付きました。この日、筆者は古代から受け継がれてきた神事に運良

▲海に向かって祈る宮司

く出会ったのです。阿曇族の香りをもつ宮司や社務所の古老にお別れの挨拶をして、志賀海神社を後にしました。

弥生文化の導入に貢献した安曇族

古くから人々は、海から生活に必要なものを与えられ、「海の道」があればこそ、半島や大陸との交流・交易も可能でした。海を離れて日本の歴史や民族の成り立ちを語ることができないのが事実です。先住民である縄文人は、南九州の鬼界カルデラ大爆発や東北地方寒冷化などの気象変動により新天地を求め、勇猛果敢に黒潮に乗り海を越えて、遠く南太平洋の島々、南北アメリカ大陸に至るまで拡散していきました。その後、四海の荒海を、これも勇猛果敢に海を越えて日本に来た渡来人達。彼らによって今日の日本民族は成り立っています。このようにみると、単一民族であると考えがちな日本人は、実は混血民族でありグローバル民族だったということができます。

日本へ渡来した人々の動機や理由も様々だったでしょうが、しかし、渡来人の共通の願いは、たとえ死の危険があったとしても新天新地に辿りつき、そこで幸せな理想郷をつくることであったに違いありません。渡来人達は新たな再起の希望を持ちながら、東の果て日本にやって来ました。中には波間に散った無念の人々もいたことでしょう。ここで明確なことは、私たち日本人は「勇猛果敢に荒海を越えた海人族」をルーツとし、「生命を賭けて新たな理想郷を求める」というＤＮＡをもっていることです。

縄文時代は紀元前1万４０００年前から紀元前3世紀まで続いたといいます。縄文の終わりに、朝鮮半島や中国からの渡来人が水田稲作や青銅器・鉄器、織物技術などを日本に伝播し、それによって弥生文化が発達しました。弥生時代は紀元前3世紀から3世紀中頃まで続いたといいます。

大阪市文化財協会㊨

「この弥生文化の導入と弥生の産業革命に貢献したのが安曇族」と漁村文化懇話会の亀山勝氏は語っています。より高い文化文明の背後にはより高い精神文明や宗教理念があり、それらの文化文明は人の移動と共に移動します。人の移動が宗教理念や文化文明の伝播をもたらし、その文化文明は、新たな環境の中で、新たな次元の文化文明として発達するのです。

渡来人と共に文化文明が島国日本に向かって移動するとき、四海を越えて来なければなりません。黒潮や対馬海流の荒れ狂う波を、古代船で越えて来なければならなかったのです。今日でも、川の事故、海の事故が絶えないことを考えると、当時、海を横断することは大変なことでした。「古代、朝鮮半島と中国の間を画する黒潮と対馬海流を越え、日本に渡海できる船と航海技術を提供したのが海人安曇族である」と亀山勝氏は語ります。

安曇族にとって、常により高度な造船技術、より高度な操船技術の開発が必要でした。そのため安曇族は、当時最も先進的な文化文明の導入に敏感な一族であり、朝鮮半島や中国との交流・交易を積極的に行ったに違いありません。「古代から船は時代によって発達してきた。刳船（くりぶね／丸太をくり抜いた船）や筏（いかだ）を櫂（かい）で漕ぐ時代、粗末な帆だけの時代、刳船に板をつないだ準構造船で漕ぎ手が増えた時代、船底をＶ字型とし、帆を使って風上へ向かって走ることのできる船の時代などである。時代によって船の構造、船の推進力、海の渡り方は変化する。日本列島を巡る海

流を越える船を考えながら日本史を観る方が、史実に近い結果を得ることができる」と亀山勝氏は指摘しています。このような観点に立ってみると、安曇族は極東アジアの海を主管できる高度な操船技術と造船技術をもった海人集団であったことがわかります。

安曇族の起源と日本各地の安曇族

安曇族はどこから日本に渡来してきたのでしょうか。前述のごとく、語源的な観点、朝鮮半島との関係の深さという観点に立つと、安曇族は朝鮮半島からの渡来人であると考えられます。しかし、一方で安曇族の起源は、中国春秋時代の「呉」（紀元前４７３年「越」に滅ぼされた王朝）という興味深い説があります。呉の国があった長江の下流域は揚子江ともいわれ、中国大陸の華中地域を流れ東シナ海へと注ぐ、全長６３００ｋｍのアジア最長の川です。明らかに「呉」の人々は長江と東シナ海で自由に生きることのできる、高度な航海技術、造船技術をもった海人族であったことが想像できます。「呉の国が越によって滅ぼされたとき、呉の人々は日本の志賀島に逃避してきた」という説があるのです。

呉から来た安曇族は、単に日本に逃避して来ただけではありません。時至れば「越」を攻撃して「呉」を再興する、その機を窺うためにも、交易を装いながら頻繁に江南（揚子江下流南岸地域全体）へ偵察船を送ったと考えられます。交易をしながら呉国再興のために富を蓄えてきたことでしょう。しかし不思議なことに、越の滅亡を確認した頃には、安曇族は、復讐と争いの道を選ばず、日本に定着する平和の道を選んでいたと考えられます。むしろ圧政、非道、暴虐など戦乱を繰り返す中国からの避難民たちを、敵味方に拘わらず助け、日本渡航の手助けをしたのではないかと推測されます。安曇族は大海で生きるうちに「恩讐を越えて人の尊さに向き合う海洋精神」をいつしか体得し、亡国の怨みを晴らすために生きる人々ではなく、むしろ渡来人の逃避行を助ける人々に変わっていったと考えられます。海はそういうところです。安曇族は、海で培われた海洋思想・海洋精神を魂として育みながら、日本を故郷として定着し繁栄していきました。

朝鮮半島や中国より逃避し、あるいは目的をもって大移動してきた渡来人たち。彼らは、海人安曇族に助けられながら荒海を越えて日本に渡って来ました。これらの渡来人達が弥生文化の始源になる文化文明を日本に持ち込んできたのです。ちなみに、紀元前４世紀から紀元前１世紀まで続いたプトレマイオス朝時代には、もう既に絹と胡椒の道として、中国の南から東シナ海、南シナ海、インド洋を経てインドへ、さらにアラビア半島を経てアレクサンドリアまで続く「海のシルクロード」が開拓されていました。

このような時代、極東の国日本においては、海がもたらす強力な運勢をもつ海人安曇族が、より美味しい海産物やより貴重な貴金属を採取するために、日本の津々浦々、沿海地域、河川流域を開拓し、日本列島各地の海岸線に拠点を拡大していきました。

言うまでもなく当時、人の移動や物の輸送は、船を使って沿岸や河川を移動する方が、馬で険しい山脈や峠を越えて移動するよりも、迅速で効果的でした。安曇族の関連姓氏は、現在、解かるだけでも渥見、渥海、熱海、温海、安住、安曇、安海、安量、安積、握美、英積、阿住、天、安万、尼、海、海部、阿万（丹羽基二「姓氏の語源」１９８１年　角川文庫）大海などです。その分布は、穂高神社境内にある御船会館の展示によると、福岡市志賀島を筆頭に、米子市上・下安曇、兵庫県宍栗市安積、兵庫県太子町、兵庫県淡路市、滋賀県高月町阿閉、滋賀県安曇川町、石川県志賀町安津見、長野県安曇野市、新潟県関川村安角、山形県鶴岡市温海、静岡県熱海市、富士吉田市大・小明日見、岐阜市厚見、愛知県田原市渥美町等、全国の海岸線に及

んでいます。これらはあづみという名前で探求したもので、氷山の一角に過ぎません。亀山勝氏は、安曇族ゆかりの地として、たとえ漢字表記は違っていたとしても、志賀海神社の「シカ」名が付いている地は、安曇族ゆかりの地だと語ります。古代日本の全ての海岸線と河川は、安曇族の活動舞台になっていたのではないでしょうか。なぜ、姓の変遷が起きたのでしょうか。安曇族の興亡盛衰、悲劇の歴史がそこに隠されています。戦乱による逃避や婚姻などを通じて血縁は拡大されていくことを考えるとき、日本人全てに海人安曇族のＤＮＡが伝達されていると言っても過言ではないでしょう。日本人にとって海は、そこで生き、そこで技術を革新し、そこで繁栄の道を求める生活の舞台だったのです。

安曇族の栄枯盛衰

安曇族は弥生時代に隆盛を極めながらも、栄枯盛衰の道を辿りました。例えば５２７年、継体天皇の21年、安曇族は出身地筑前糟屋郡で起きた磐井の乱に巻き込まれます。安曇族は朝廷に反旗を翻した磐井軍に組みし、水軍として闘い玄界灘で敗れ去ってしまうのです。この時、信濃に逃れた安曇族が信濃安曇氏の始まりであるという説もある一方で、安曇族はそれ以前から信濃に入っていたという説もあります。

安曇族は、各地で造船、水軍、交易、漁業を担うだけでなく、皇宮では天皇の側近としての役割も担うほど繁栄を極めました。「関西の安曇宿禰氏は、長期にわたって内膳司長官の要職を占め、天皇の食卓を預かった」と坂本博氏は語っています。そのために安曇宿禰は、全国各地から天皇のために最も美味な食材を、迅速に新鮮に安全に確保する必要がありました。この点からみても、安曇族は海岸線を中心に全国各地にその勢力を拡大し、天皇の食材調達のネットワークを敷いていたのでしょう。当時、天皇の食卓になくてはならないものが鮭料理。ちなみに古代の鮭料理には様々な種類があり、現代人が使わない部位を珍味として料理していたといいます。干しアワビも天皇の食卓の必需品。交易品として海外でも珍重されました。これらは海人（あま）の活躍によるものでした。

坂本博氏によると、「この内膳司の役職を、代々、大納言あるいは中納言の位にある安曇氏と高橋氏が世襲して務めた。ところが７１６年頃から安曇宿禰と高橋氏との間に、内膳司としての主導権争いが顕著な形で起こりはじめ、７８８年にはその争いが大きくなってしまった。主導権争いが原因で、安曇宿禰継成は罪に問われ、最終的には佐渡に流されてしまう。この事件により安曇族は中央における支えを失ってしまった。安曇族はこの時以来、歴史の表舞台から姿を消すことになる」と語っています。しかしながら有名無名の安曇族は、全国各地で海人族としてのＤＮＡを引き継ぎながら、海洋国家日本の魂と伝統を脈々と後代に伝えていったのです。

英雄「安曇比羅夫」と穂高神社

安曇族が日本史に残した壮大なロマンを辿るとき、信濃安曇族をのぞいて安曇族を語ることはできません。「古代から信濃は大和朝廷にとって東国経営の拠点であり、天武天皇時代には信濃にもう一つの都を造営する計画もあったほどだ。信濃は名馬の産地であり、翡翠や鮭など、貴重な産物も信濃から朝廷に献納されていた」と大和岩雄氏は語っています。

信濃安曇族の謎を解くために、秋晴れの日、日本アルプスの東麓、清涼な風光満ちる安曇野を訪ねてみました。穂高神社は駅から歩いてすぐのところ。予想外にも穂高駅周辺は観光客で

▲穂高神社

賑わい、モダンな欧米風のショップが神社への参道に建ち並び、外国人カップルや、ここを拠点にサイクリングを楽しもうという若者たちが往来していました。神社は凛とした風情で筆者の来訪を待っていました。古木に囲まれた、悠久な歴史の詰まった穂高神社。その鳥居をくぐると、この国の歴史を紡いできた人々の魂が今も躍動し息づいています。神社の御由緒書きには、「安曇族の祖神・穂高見命（ほたかみのかみ）は、海神・綿津見神（わたつみのかみ）の御子神で、太古穂高岳に天降りましたと伝えられている。安曇族は海神系の宗族として遠く北九州に栄え、信濃の開発に功を樹（た）て、安曇野の中心穂高の里に祖神を奉斎したのが、当神社の創始である」とあります。ここに穂高見命、綿津見神の他に瓊瓊杵神（ににぎのかみ）、天照大御神が祭られていました。不思議なことに筆者は、志賀海神社だけでなく、ここ穂高神社でも祭事に出会い、目の前で宮司の上げる祝詞を拝聴しながら穂高見命、綿津見神を参拝することとなったのです。

若宮に安曇比羅夫命（あづみのぴらふのみこと）、相殿に信濃中将が祀られています。安曇比羅夫命について穂高神社の御由緒書きには、「天智天皇の命により水軍を率いて朝鮮に渡り、百済の王子豊璋を助け、663年8月27日、白村江で戦死。穂高神社御船祭りの起こりと伝えられている」と紹介されています。外交官であり武将である安曇比羅夫（天智2年／663年没）は、舒明天皇在任中に百済に派遣され、641年舒明天皇が崩御された時、百済の弔使を伴って帰国し接待役を務め、この時、百済の王子翹岐を自分の家に迎えています。661年高句麗が唐の攻撃を受けると、百済救援軍として水軍170隻を率いて王子とともに百済に渡り、勇猛に戦いながらも戦死してしまうのです。

「御船祭り」の起源と安曇族の信濃入り

ここ穂高神社では、毎年秋になると「御船祭り」を奉納しています。海のない日本アルプスの東麓で行われる御船祭り。勇猛果敢に荒海でぶつかり合う船を再現しています。誰しも「なぜこのアルプスの山奥で船を祀るのか」、その由来を知りたいと思うに違いありません。御船祭りについて尋ねると、親切な社務所の代表は、「安曇比羅夫自身は安曇野の出身ではありませんが、安曇族が生んだ英雄です。安曇比羅夫にちなんで御船祭りが行われるようになったと伝わっています」という答えを返してきました。更に、安曇族の信濃入りについて尋ねると、「安曇族は鮭や翡翠を求めて早くから信濃に入ったとも云われています。磐井の乱や白村江の敗戦が原因という説もあり、いろいろな方々がいろいろな方面から研究していますが、未だに謎と口マンに包まれています」という答えが返ってきました。安曇族の出自についても明言されず、境内にある御船会館には「安曇族の進出時代と進入路についての諸説」として、「①大場磐雄説／弥生時代に糸魚川から姫川を遡上 ②小穴芳実説／6世紀末頃に、大和朝廷の命令により進出（伊那谷ルート）

御船祭りのための２艘の船▼

安曇比羅夫▼

木造屋形船 穂高丸▼

③坂本博説／6世紀中頃に、糸魚川から姫川沿いを遡上 ④亀山勝説／弥生時代に信濃川・犀川・奈良井川を遡上 ⑤宮地直一説／古墳時代に進出」という諸説が紹介されていました。更に「安曇族に関する疑問」として、「①そもそも安曇族の定義とは ②安曇族の語源と読み方 ③北部九州由来のモノが旧安曇地域から発掘されていない ④現在の安曇野市には安曇姓は一軒も残っていない」と展示されていました。遥か2500年前から1300年前までに展開された安曇族の軌跡。そこには一族の興亡をかけた悲劇が展開されたことでしょう。日本史に安曇族は壮大な謎とロマンを残していることは確かです。

船の櫓を漕ぎ鯛を釣る様子▼

「御船祭り」と「山誉祭」の由来

「なぜこの険しいアルプスの山奥で船を祀るのだろう」、誰しもその答えを見つけたいと思うに違いありません。海とは真逆の山奥での御船祭り。だからこそ、そこに貴重なメッセージがあるに違いないのです。荒波の中で激しくぶつかり合う船を再現し、お祭りは激しく怪我人も出そうな勢いのなかで奉納されます。たしかに御船祭りは、白村江で、船師を率いて戦った安曇比羅夫と水軍の闘いを想起させます。このようなお祭りを守り続ける信濃安曇族が伝えたいメッセージとは一体何でしょうか。

信濃入りした安曇族は本来、北九州海域を拠点に黄海、東シナ海、南シナ海まで進出したと考えられる海人族。勇猛果敢に荒海に乗り出し、生命知らずの勢いで広大無辺の大海を自由自在に生き、海域を往来し繁栄した原点をもつ海人族です。彼らにとって生命の原点は海。生活の舞台も海。信濃に入り、奥深い山間に住んだとしても、「海という故郷」を忘れようとしても忘れることができない安曇族であったことでしょう。始源まで辿ってみれば天地創造の出発も海。生きとし生ける全ての生命は海から始まっているため、「海で生きる」ことが人間にとって本然的な生き方であることを安曇族は、御船祭りを通して伝えたかったのではないでしょうか。

天と海と人は不離一体のもの。天地創造の神を敬拝し神の恵みを受けることと、海を尊び海から生活の糧を得ることは表裏一体。信濃安曇族は、海神・綿津見神の子孫として、その原点である「天と海と一体となる伝統」を、御船祭りを通して守り続けようとしたに違いありません。海に本然の人間の幸せな暮らしがあり、海に自由と平和と豊かさ溢れる理想郷があることを伝えようとしたに違いありません。そして「御船祭り」は、天と海と一体となった安曇族の魂と伝統を顕現した至宝の祭事であったと思われます。天と海と人、この三極を結ぶ「船」。船とともに海で生きた海人安曇族の魂と伝統を後代に伝えたい、これが御船祭りのメッセージではないでしょうか。

今ひとつ志賀海神社に伝わる「山誉祭（やまほめさい）」も、安曇族の貴重なメッセージを今日に伝えています。正式には山誉種蒔漁猟祭（やまほめたねまきぎょりょうさい）、山誉漁猟祭（やまほめぎょりょうさい）といい、その年の五穀豊穣や漁業・狩猟の安全を祈願し、年に2度、春と秋に執り行われています。海の神様が山を誉めるというのです。神事の中で社人たちが唱える詞は「ああら よいやまし げったやま」と志賀三山（勝山・衣笠山・御笠山）を誉め、「志賀三社 志賀大明神のちからをもって 一ぴきたりとものがしはせぬ」と山を荒らす鹿を狩り、櫓をこぎ沖へ向かい「よせてつる」「いくせでつる」と唱えながら鯛を釣る様子を表現する神事を奉納しています。また、この時に「きみがよは ちよにやちよに さざれいしのいわおとなりて こけのむすまで」という口上の神楽歌が奉納されます。この歌が「君が代」の起源だともいわれていますが、定かではないようです。三韓

出兵の折に立ち寄った神功皇后は、この神事を「志賀島に打ち寄せる波が絶えるまで伝えよ」と庇護したと言い伝えられています。

山を育めば、その栄養素が川を通して海に注ぎ、海は豊穣の海になる。そのことが今日、沿岸部で養殖をする人々によって注目され、山や森に植樹する運動が起きています。安曇族は「山を誉めると海が生きる。海の恵みを得るには山を大切にしなければならない」という天然の摂理を、古代から既に知っていました。海で生きることによってその摂理を体得し「山誉祭」を通して、山を大切にした海人族の魂と伝統を後代に伝えているのです。海人であったればこそ、海の対極にある山の恵みを真の意味で知ることができたのでしょう。驚くべき古代海人の知恵。天と海と山と人の四極を結んだ安曇族でした。

徐福を助けた安曇族

安曇族が北九州を中心とする極東アジア海域で活躍していた同時期、紀元前3世紀に徐福伝説があります。

「徐福」は、中国前漢時代の歴史家司馬遷が「史記」の中で紹介している紀元前3世紀の人物。史記の中で、「徐福は、中国を初めて統一した秦の始皇帝に『はるか東の海に仙人が住む蓬莱・方丈・瀛洲（えいしゅう）という三神山がある。そこには不老不死の薬があり、それを求めに行きたい』と願い出て許可をもらい、紀元前219年に、五穀の種子・百工（各種技術者）、童男童女500人を含め総勢3000人を引き連れ、東方の桃源郷日本へ旅立った」と紹介されています。その大船団の先導者が徐福です。

▲徐福

徐福一行は日本の各地を訪れ、最終的に「天台烏薬」という薬木を発見することができたのですが、気候温暖、風光明媚、更には土地の人々の温かな友情に触れ、徐福は日本を永住の地と定め、再び中国には戻らなかったといいます。徐福は先進的農耕、漁法、製紙、養蚕、医薬に関する技術を日本各地に伝えました。徐福祠が発見され徐福伝説が聞かれるところは、南は鹿児島から北は青森・秋田に至るまで全国37ヵ所以上に及び、主に海岸線の町々です。特に和歌山県熊野地域には「徐福渡来の地」として数々の伝承や史跡が残り、新宮駅から東にわずか100mの場所に「徐福の墓」があり、蓬莱山南麓の阿須賀神社には「徐福宮」もあります。1982年には、中国の江蘇省連雲港市贛榆（かんゆ）県において徐福村が発見され、徐福は実在の人物として中国の学術研究会でも注目されるようになりました。

さて亀山勝氏は、「その徐福の渡航を助け、不老不死の霊薬探しを協助し、3000人の渡来人が日本に定住できるように助けたのが安曇族だ」と語ります。その理由として「日本へ渡るためには黒潮と対馬海流を越えなければならない。いかに徐福が方士で博識といえども、海図もない時代に航路を知らない航海士を伴うだけでは、そう簡単に日本列島に渡ることはできない。海を知り尽くし中国への海路を往復できたのは、当時、安曇族だけである。安曇族の助けを借りて、徐福は日本への渡航を果たした」と語っています。（亀山勝「安曇族と徐福」2009年 龍鳳書房）

▲秦の始皇帝

この徐福は秦の始皇帝に報告するために、一度、中国に帰国します。通常なら、手ぶらで帰ったことだけでも皇帝の怒りを買って死罪になるところですが、秦の始皇帝は徐福を援助することに積極的で、技術をもつ工人や様々な物資を増し加えて持たせるなど、徐福の渡航を応援し、徐福を再び日本に送り出したといいます。

安曇族と徐福、秦の始皇帝を結びつけた夢

安曇族と徐福と秦の始皇帝。始皇帝が徐福に探すように命じた「不老不死の仙薬」とは何であり、「仙人たちが住む三神山」とは何だったのでしょう

安曇野の道祖神 夫婦円満・子孫繁栄の神として祀られる▼

亀石▼

か。この三者を結びつけた絆は一体何だったのでしょうか。

当時の中国は、善良な者たちを圧政する暴虐が横溢し、興亡盛衰を繰り返す流血の大地であったに違いありません。阿鼻叫喚の地獄にあるとき、人は誰しも、生命を賭けて新天新地に旅立とうとします。人は誰しも、自由と平和と豊かさのある理想郷に向かって旅立ちます。正義を貫き愛を貫くためには、たとえ故国を追われ海に漂う流民となったとしても、人は生命以上に大切なものを守るために船出するのではないでしょうか。それは時代を越えた万人共通の選択です。歴史を動かす原動力、それは「理想郷に生きたい」という願いであり、それは死を越えてでも求めたいものなのです。

それでは安曇族、徐福、秦の始皇帝の三者はどうだったのでしょうか。祖国を追われた安曇族は、海を舞台に活躍してきました。彼らは生命を賭けなければ生きていくことができない過酷な海という大自然の中で、助け合い、試練を共に克服するうちに、大自然の摂理を体得し、恩讐を越えて人の生命そのものを尊ぶ精神を培っていったに違いありません。そのために敵味方の区別なく、渡来人達の逃避行を助けたのではないでしょうか。

「不老不死の仙薬を見つけよ」と徐福に命じた始皇帝は、実は「死の苦しみのない永遠の生命を求めよ」と命じたのではないでしょうか。「三神山を見つけよ」という命令は、実は「理想郷を建設せよ」という命令だったかもしれません。一説によれば、秦の始皇帝は失われたイスラエル10部族の一人だといわれており、徐福に理想郷建設の密命を与えていたとも考えられます。その密命を遂行するために、たとえ生命を荒海に投げ出したとしても日本に渡り、日本各地を巡って文化を伝播し、理想郷建設の夢に向かって突き進んだ徐福ではなかったでしょうか。この三者を結びつけたもの。実に、心で求める「理想郷建設」の夢であったに違いありません。

歴史をつき動かす原動力は正義と愛の心

このように安曇族の歴史を辿るとき、壮大なロマンに満ちた歴史をつき動かした原動力は、まさに理想郷を求める人々の正義と愛の心だということが見えてきます。海の主宰神・綿津見神の神裔安曇族は、極東アジア水域を舞台に活躍し、日本全土に海人の伝統を伝播し、今日の海洋国家日本の礎を築いた一族だといえます。

今日、混迷の影がますます深くなる日本と世界。しかし途方に暮れる必要はありません。新たな希望の時代が海から始まります。海に全ての問題解決の鍵があります。海人安曇族の伝統を受け継いだ私たち日本人。無限膨大な環太平洋を舞台に活躍飛翔し、海洋を治理し、この国の更なる繁栄と世界貢献の道を開いていきたいものです。この21世紀、悠久な歴史の悲願、万人の悲願である「永遠の理想郷建設」を、恩讐を越える精神を育む海洋の精神をもって、共に汗を流し実現しようではありませんか。

（編集部）

©全国新聞ニュース網JWN www.jwn.ne.jp

参考文献　亀山勝「安曇族と徐福」2009年 龍鳳書房／坂本博「信濃安曇族の謎を追う」2011年 近代文芸社／大和岩雄「新版信濃古代史考」2013年 大和書房
協力　志賀海神社・穂高神社・Wikipedia

- Light of History -
歴史の光

HALF OF THE OCEAN'S POPULATION DISAPPEARED IN THE PAST 45 YEARS
「海に住む生物の半分が、過去45年間で姿を消してしまった」

マグロはどこに行ってしまったのか？ 鱈（たら）はどこに行けば見つかるのか？

2015 年 9 月 16 日　マリー・ベス・グリッグス

海の下の生活は必ずしも楽しいものではないようだ。世界自然保護基金（世界最大規模の国際的 NGO 自然環境保護団体）の新しいレポートによると、魚の乱獲と環境変化が原因で世界の海の生物の半分ほどが消え去ってしまった。

このレポートは 1234 種の哺乳類、鳥類、爬虫類、および魚を研究したものであるが、これによると 1970 年から 2012 年の間に、生物が 49%減少したことが明らかになった。いくつかの種は、他よりはるかに困難な状況に陥っている。

商業的に貴重なマグロやサバなどの種は 74%も減少し、世界の一部で珍味とされているナマコは、ガラパゴス（赤道下にあるエクアドル領の諸島）や紅海など、特定の地域で 90%の減少を見た。現在の時点ではガラパゴスでのナマコの収穫は禁止されているものの、多少の違法収穫が今だに行われている。

報告書によると、海洋生息地の減少が見られ、海藻の 3 分の 1 はすでに消え去り、サンゴ礁は 2050 年までには絶滅の危機に直面していることが明らかになった。

報告書はまた、政策立案者たちが、この秋、パリで行われる国連気候変動サミット（気候変動問題に関する国際会議）などのイベントで、海洋と気候の保護を優先すればまだ希望があると述べている。幸い、米国および世界各地で、特定の海域の保護保全政策が少しずつ進められている。

近年の研究で海洋生物保護区が、その保護に成功するために必須な条件が発見されている。その保護区の条件は、大規模で孤立したエリアで、釣りと開発禁止が厳格に執行されているエリアでなければならないというものだ。保全計画がもし成功すれば（持続可能な漁業政策と気候変動に対する処置を含む）一部の海洋生物は回復し始める可能性がある。

今なら言える。（私たちの努力が投入されれば）海には確かにもっと魚が住む場所がある。

引用　POPULAR SCIENCE
http://www.popsci.com/half-oceans-population-disappeared-in-past-45-years

みんなの広場

写真

海に降る雪

山崎祐介

雪の中、母子が浜辺を歩いている。
海に落ちるとすぐ溶けてしまう雪が、
人間の生きざまとそのはかなさを表現しています。

Community Circle

投稿募集

海に関する経験・随想・絵画
・写真・詩や短歌・俳句など。
採用の折は記念品を贈呈。
お問合わせ/送り先：
kaiyoushinjidai@gmail.com
TEL 045-319-4682

みんなの応募を待ってるよ！

写真

防潮堤

佐藤智子

相馬海岸沿いに着々とつくられる
高さ 7.2ｍの防潮堤。
防潮堤のない町の方が、
犠牲者がより少なかったと聞く。
人と海のつながりを
どう保ったらいいのだろうう。

写 真

9月4日
巨文島の海岸より
朝日を望む

鷲巣真一

彼方に霞む白島（ぺくと）の
方角から昇る、海洋“真”時代の
到来を祝福するが如くの、
幻想的な朝日を撮影。

写 真

アラスカ•コディアック
にて挑戦！

明正美

トーナメント最後の日に、最高に大きいキングを
釣り上げた瞬間！神様の祝福を受けた
生涯忘れられない神体験の思い出です。

絵 画

魚の目線

静恵（中学1年生）

魚の目線で、釣り船を
水中から見上げてみました。

絵 画

海の底

静進（小学５年生）

海の底で、魚が楽しく
およいでいるよ。

PR

編集後記

本誌は、8月15日を前後とする日程で全国縦断講演会「海洋真時代の到来！戦後70年の真の意味」というテーマで、全国縦断講演会を開催させていただきました。戦後70年目にあたる8月15日は沖縄で迎え、感慨ひとしおでした！世界では、他人事とは思えない難民問題が更に深刻化。日本でも余りにも多くの痛ましい出来事が日々起きています。だからこそ、希望の芽を大きく育てていこうと、海洋真時代にメッセージを込め、スタッフ一同頑張りました。

編集最後の頃は朝と夜の感覚がなくなるほど！いろいろと不足な点もありますが、今後共よろしくお願い致します〜〜〜。

（編集スタッフ一同）

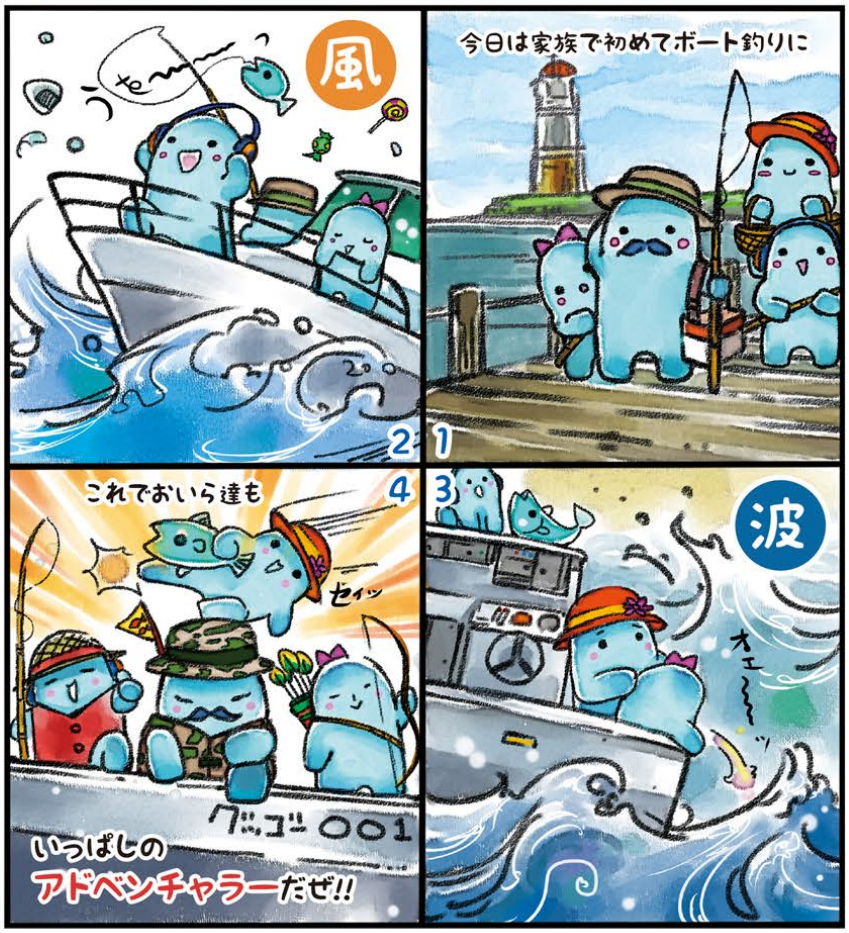
投稿募集

読者の皆様より投稿を募集。海に関する経験・随想・絵画・写真・詩や短歌・俳句など。採用の折は記念品を贈呈。

お問合わせ/送り先：kaiyoushinjidai@gmail.com
TEL 045-319-4682

（表紙＆グラフィック：Mycks）

vol.3 アドベンチャラーズ ～Adventurers～ by Moogoro



国民海洋基金会員募集 御案内

海洋に関する叡智と学究の府である海洋総合大学を中軸に、海洋趣味産業12の柱*で構成された海洋趣味産業基地・都市を、全国各地に実現展開するための基金制度です。あなたも基金会員になって、共に日本を海洋趣味産業国家に育てましょう！世界に先駆けて海洋趣味産業時代をリードし、地球規模の福地化に貢献しましょう！

■基金会員の方は季刊誌「海洋真時代」を無料で購読できます。

月会費：一口 2500円（定額自動振込）
お問い合わせ・お申込みはこちらから：
info@kaiyouheiwa.com
Tel: 045-319-4686　Fax: 045-319-4683

定期購読のみご希望の方への御案内

年間定期購読（季刊誌 年4回発刊）
1200円＋送料（時価）
全国どこでもお届けします！

「人類にとって最後のフロンティアともいうべき海を焦点としてあつかった、今の日本人、とくに若者に、ぜひ読んでもらいたい内容です。」

お申込みはこちらから：
info@kaiyouheiwa.com
Tel: 045-319-4682

＊海洋趣味産業12の柱とは：
海洋大学、魚釣り・トーナメント、釣具・餌・衣服の製造販売、ボート製造販売、魚の養殖・稚魚の孵化と放流、魚流通業、シーフードレストラン、海運観光産業・スポーツ、海洋資源開発、海洋生活・文化・情報産業、金融、銀行など。

海洋真時代

vol 3
Oct. 2015

特集
食糧問題解決 第2回
食糧問題の全容

海洋政策の研究
提言二 先進的海洋大学の創設

国民海洋基金会員募集

日本と世界の将来の経済や食糧問題、
人類の死活問題は海によって決定されます
海の開拓を通して世界の子供たちに
豊かさと平和を届けましょう

お問合わせ　045-319-4686　info@kaiyouheiwa.com
〒231-0021 神奈川県横浜市中区日本大通７番地　合人社横浜日本大通７ビル４階
㈱海洋平和　国民海洋基金局

2015年10月3日発行 季刊誌 3号
発行 雑誌「海洋真時代」
〒231-0021 横浜市中区日本大通7番地 合人社横浜日本大通7ビル4階
TEL 045-319-4682 kaiyoushinjidai@gmail.com

定価
300円

ISSN 2189-3152